

2022年度

「学生による授業評価アンケート」

報告書

立教大学

2023年 9月

これまでに発行した『学生による授業評価アンケート報告書』は、大学教育開発・支援センターの Web サイトより閲覧いただけます。下記 URL または QR コードへアクセスし、「刊行物・情報公開」から「学生による授業評価アンケート報告書」を選択してください。

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe.html>



はじめに

総長 西原 廉太

立教大学の「学生による授業評価アンケート」は2004年度から開始され、すでに18年に亘って運用されています。この間、「学生による授業評価アンケート」は進化を重ねていますが、その基本的な目的は変わることはありません。それは、教員が自らの授業改善に資するための基礎的データであり、学生の授業への参与度、姿勢、期待を知るための手がかりであることはもちろん、学生たちがアンケートに回答することを通して、学生に授業履修への積極性と責任意識の醸成を促すこと、また、さらには、学部・学科のカリキュラムの有効性を測定するための資料であり、ひいては、立教大学のあらゆる教学改革方針・施策を決定していくための重要なデータとしての役割が期待されています。

2022年度も、教職員のみなさんのご尽力の結果、年間を通しての授業運営ができました。この場をお借りして、心から感謝申し上げます。

現在、部長会等におきましても、コロナ後における良質な遠隔授業の活用・展開がいかにか可能かを継続的に検討しています。各授業形態（対面、対面ミックス、オンライン、オンデマンド）の教育効果を検証し、今後のプロアクティブな授業方法についてさまざまな角度から議論していますが、その際に、この「学生による授業評価アンケート」から多くの重要な論点が抽出されることとなります。

本学の「学生による授業評価アンケート」を特徴づけるものの一つは、その質問項目が、学生自身の授業への取り組み方、学生が授業から得られたものを中心に問うていることです。この質問項目の背景には、大学の授業というものが、教員からの一方的な知識の伝達ではなく、教員と学生のインタラクティブな営みであるという思想があります。私たちの授業とは、教員と学生が、知の礎の上に立ちながら、共に対話し、新たな意味や価値の発見に開かれていくダイナミックな現場です。そこでは教員もまた、「教えられ、変えさせられ、強められる」ことに気づかされます。

本報告書が、教職員のみならず、とりわけ授業の最も重要な当事者である学生のみなさんに読んでいただくことを期待しています。

目次

はじめに

1. 本学における「学生による授業評価アンケート」について	1
1-1 目的	1
1-2 「報告書」作成の基本的な考え方	2
1-3 「所見票」について	3
1-4 実施科目の選定方針	4
1-5 回答結果の全学的な活用に向けて	5
2. 授業評価アンケートの実施概要	7
2-1 実施方式	7
2-2 設問項目	7
2-3 各学部等の科目選定方針	11
2-4 実施科目数	12
2-5 実施期間	12
2-6 回答者数	13
2-7 「所見票」の公開	13
2-8 任意実施科目	13
3. 科目担当者・学部等への集計結果のフィードバック	14
3-1 科目担当者	14
3-2 学部等	14
4. 学部等総評	19
4-1 文学部	20
4-2 経済学部	23
4-3 理学部	26
4-4 社会学部	28
4-5 法学部	31
4-6 経営学部	34
4-7 異文化コミュニケーション学部	37
4-8 グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター	39
4-9 観光学部	41
4-10 コミュニティ福祉学部	44
4-11 現代心理学部	48
4-12 全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目	51
4-13 全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目	60
4-14 学校・社会教育講座	67
5. 2022年度のまとめと今後の展望	70
6. 2022年度集計データ（資料編）	72
6-1 回答者数・回答率	72
6-2 全学集計	73
6-3 学部等別設問項目別平均値・回答割合	81

1. 本学における「学生による授業評価アンケート」について

まず、本項では、本学における「学生による授業評価アンケート」の実施概要について取り上げる。

前半の1-1「目的」、1-2『報告書』作成の基本的な考え方」、1-3「所見票について」では、2004年度の「学生による授業評価アンケート」の開始以来、これまで継承している本アンケート実施にあたっての基本的理念および方針について、同年度の「報告書」における当該項目の記載内容を転載することによって確認する。

後半の1-4「実施科目の選定方針」、1-5「回答結果の全学的な活用に向けて」では、これらの基本的理念および方針を受けて、2004年度から当該年度までのアンケート実施の経過や変更点について記載する。

1-1 目的

本学における全学規模の学生による授業評価アンケートは、2002年7月10日に総長に提出された「全学FD検討委員会答申」に始まる。その中で、本学にとっての最重要FD課題として次の3点が挙げられている。第一に「教員における授業力の向上」、第二に「カリキュラム編成の合理化」、第三に「成績評価の厳正化」である。そして、その中でも緊急性がもっともあるとされたのが第一の課題であり、その中で「授業力向上に向けての具体策」のひとつとして挙げられていたのが「学生による授業評価の制度的実施」である。それを受けて、2002年12月18日付け文書「FDについて—学生による教育評価アンケートの2003年度実施に当たって—」の中で総長は、敢えて「教育評価」という言葉を用い、「個々の科目の授業やその担当教員への評価をこえて、広く本学の教育について、学生の評価を参照したい」と述べ、「学生による教育評価アンケート」をできる限り早期に実施したいとの方針を明らかにした。

それを受けて直後の2002年12月21日には早くも全学教務委員会FD専門部会の第1回部会が招集され、年度をまたいで検討が続けられた。その過程で、2003年度実施は見送られ2004年度実施を目標とすること、施設その他の教育条件一般を問うアンケートの前に、授業そのものに目標を絞って問うことなどの合意が形成され、「学生による授業評価アンケート」を行うことが決まった。そして、具体的アンケート項目作成作業が開始され、他大学のものをも参照しつつも、三つの独自案にまとまってゆき、並行して行われていたアンケートの目的や実際の実施方法などの検討結果とも連動しながら、最終的にひとつの案に集約されていった。その結果は部長会に報告され、了承を得て、その後、各学部教授会とのやり取りがあり、2003年の秋に2004年度前期から「学生による授業評価アンケート」を実施することが正式に決定した。そして、2004年度4月から「学生による授業評価アンケート実施委員会」が立ち上げられ、前期と後期に実施された。

その実施の目的は、部会における議論の結果、以下の点にあると考えられるにいたった。

- ① 教員が自らの授業改善を目指す自己研修の資料を得る。
- ② 教員同士が授業に関して相互研修をおこなう機会を提供する。
- ③ 学生の学習姿勢を知るための資料とする。
- ④ 学生の授業への期待のありかを知る資料を得る。

- ⑤ 学生に授業履修への積極性と責任意識を喚起する。
- ⑥ 学部・学科としてカリキュラムの有効性を測定するための資料を得る。
- ⑦ 大学としての教育力向上に必要な方策を立てるための資料を得る。

以上である。

要するに、本学の「学生による授業評価アンケート」は端的に言って、個々の教員による授業を、学生がより充実して学習を進め大学としての教育力が今より一層効果的に機能することを目指して改善し、その結果として学部・学科としての教育力をも増進することを唯一の目的とする、ということである。そうして、学生をも巻き込んで、本学が知的に活発で、創造性に富み、常に先進的に新しい知を発信し、それに基づく生き方を常に提案し続ける力を保持することができるようになることを最終目的とする。

それに対して、場合によっては教員の活力を削ぐことになりかねない教員管理の視点は厳しく排除される。大学は教職員と学生が相互に自己管理することを前提に、自由に精神活動をおこなう場である。特定の目的のために教職員ならびに学生を管理し、特定の方向へ向けるべく力を加えることは、大学本来の知的創造力を失わせ、ひいては大学が本来持っているはずの社会的役割を放棄し、その負託に答えられなくなることを意味する。その意味で、この「学生による授業評価アンケート」結果のデータは特定の意図を持って処理され、一律の基準の下に評価されることはない。それゆえに、集計データの統計的処理はアンケート対象になった個々の教員に任されることになった。それが所見票に表現されるのである。

このアンケートは大学としての教育力向上を目的としておこなわれるので、学生の自覚を促すことも期待されている。そのことは、一朝一夕に実現させることは難しいかもしれないが、学生たちの評価アンケート結果に対して、各教員がそれぞれの学問的見識を持って所見票で答え、実際の授業に反映する努力が積み重ねられることによって、徐々に現実化してゆくであろう。現在の大学では学生の自主的活動が必ずしも本来期待されているほど十分でなく、大学生の学校生徒化が進んでいると一般に言われている。その中で、学生の主体的参加が教員との関係を変えるきっかけになることを直接に経験することで、学生の姿勢が変化することを期待したい。

さらに、アンケート結果、所見票が公表されることにより、教職員相互間、あるいは教員と学生との間で切磋琢磨する風潮が広まれば、大学全体として、個々の学問研究と教育の活動に根ざした種々の改善が期待される。カリキュラムはもちろん、組織の運営体制や施設なども、このアンケートを手がかりにその評価の俎上に載せられることになってゆくであろう。

この「学生による授業評価アンケート」が、大学の知的エネルギーを構成している教職員相互の関係や教職員と学生との関係、あるいは学生相互の関係などを揺り動かし、多様な観点から相互に力を及ぼしあう結果になることを、我々は心から期待したい。そして、そのことがやや動脈硬化が進行してきた大学という組織にも再び熱い血を通わせ、教職員も学生も本学に集うことこそがその熱い血の拍動を生み、学問に触れることが楽しくて仕方がないという状況を生み出すことを心から願う。

1-2 「報告書」作成の基本的な考え方

「学生による授業評価アンケート」は調査である限りその結果がまとめられなければな

らない。我々はそれを報告書という形で世に問う。この報告書はアンケート対象になった個々の授業が1-1で述べられた目的に沿って学生によって評価された結果を総体として、学部・学科ごとに、そして大学全体として、その教育力を評価し、成果の上がっていることに関してはその成果の意味を明らかにし、さらにその成功を維持するための方策を考え、改善が必要なことに関しては、その原因を究明し、その克服のための方法を構築する。そして次のアンケートにその改善努力の成果を問う。

この報告書の構成は以下のとおりになっている。

まず、(1)すでに述べたとおりこのアンケートの目的を明らかにする。その次に、(2)その目的に沿ったアンケート実施の概要を報告する。その上で、(3)統計処理上の技術的方針について、我々の考え方を明示し、データの性格を規定し、将来の調査をも視野に入れた分析方針を提示する。そして、(4)全学的な総評をおこなう。最後に(5)学部やその他の教育組織ごとの総評をまとめる。以上である。

この報告書はあくまで1-1のアンケートの目的に謳われている⑥学部・学科としてのカリキュラムの有効性を測定するための資料、および⑦大学としての教育力向上に必要な方策を立てるための資料を提供するためにおこなわれる。したがって、この報告書には個々の授業やその担当者、あるいはある学科の科目として特定できるような記述は記載されない。

それと同時に、この作業は全体としての③学生の学習姿勢を知るための資料、および④学生の授業への期待のありかを知る資料を得ることにつながる。授業に参加する学生たち自身の勉強に対する姿勢もアンケート項目に入っているため、それらについてはこの報告書の中で、各所で触れられることになるだろう。

これらの目的達成を検証することを狙い、我々は報告書を作成する。ちなみに目的の①と②は次に述べられる所見票に示されるだろう。

1-3 「所見票」について

個々の科目のアンケート結果は、同じ科目の将来の開講の際に生かされるはずである。しかし、一方ではアンケートに答えた学生たちには、将来の授業では直接的にフィードバックすることはできない。そこで、個々の科目のアンケート結果についても、何らかの形で少なくとも当該学生たちには公開される必要がある、と我々委員会は考えた。その際には、単純にアンケート項目の集計結果だけを公開する方法と、それに対する教員の所見をも添えて公開する方法が考えられる。

我々は個々の科目担当者に、自分の科目についての自己点検・評価という意味でアンケート結果のデータを読んでもらい、「授業評価に対する担当教員の所見」、「自由記述欄に対する担当教員の所見」、「改善に向けた今後の方針」を書いてもらうこととした。この3つの教員記述にアンケートのすべての項目についてその結果を帯グラフに表したデータを付したものを「所見票」と称した*1。そして、この所見票を学生に公開することにした。

所見票を書くことはアンケート対象教員にとって負担にはなる。しかし、我々は敢えて対象となった教員全員に所見票作成を依頼した。なぜならば、自分の授業についての学生による評価が出たならば、それについての対処を明確に行い、アンケートに協力してくれた学生たちに直接回答することも、授業担当者である教員の義務だと、我々は考えたからである。所見票はそのすべてが、学生に対して学内で公開されることになる。

所見票の狙いは以下の点にある。

- ① 教員がアンケート結果についてそれを直視し、自らの見解を発表する場を与える。
- ② 学内で公表されることによって、学生に直接回答する機会を与える。
- ③ アンケートに含まれる自由記述についてはデータ化できないので、教員の直接的コメントを通してその内容を明らかにすることを求める。
- ④ 改善に向けた明確な決意と工夫を書くことにより、次回のアンケートとの比較を行い易くし、具体的授業改善の実現を可能にする。

以上である。

①については、教員側にも、もし学生からいわれのない不評や批判があった場合には、弁明する機会が欲しいとの声もあった。また、所見票を書けば、アンケート結果をつぶさに直視し、それに向き合って、自分に取り入れる契機とすることができる。さらに、データの多様な集計を当該教員に任せ、教員の必要に応じた分析を行い、納得の行く分析結果を出してもらうことにも意を注いだ。所見票はその結果を発表する場でもある。

②については、学生に対する直接回答であることを重視し、教員が自らの見解を自由に率直に表明しやすくするという趣旨で、公開は学内に限り、学生の便宜を考えて図書館に配置することにした*2。

③については、自由記述が単純にデータ化できないため、結果すべてを所見票に載せることはできない。また、記述内容によっては書き手が特定される場合もある。そこで、それを読んだ教員の責任でまとめてもらうことにして、教員所見にそのための欄を設けた。

④については、これを書くことでこのアンケートの目的で指摘された教員の自己研修を促すことになる。また、所見集が学内で公開されることから、学生以外にも同僚教員の目に触れる機会もあり、相互研修にもなることが期待される。

以上、所見票はこのようなことを期待して作られたのである。

*1 教員執筆項目は 2020 年度の教育改革推進会議（2020 年 10 月 1 日）において、「授業評価に対する担当教員の所見」と「改善に向けた今後の方針」の 2 項目に集約された。このこととアンケートの Web 形式実施に伴い、2020 年度からの所見票は、二つの教員記述にアンケートのすべての項目についてその結果のデータを付したものとなっている（p.17 参照）。

*2 現在は Web のみで公開

（以上、2004 年度報告書より抜粋。*は追記）

1-4 実施科目の選定方針

本学における「学生による授業評価アンケート」は 2004 年度にスタートし、2006 年度までの当初 3 年間は「講義科目を対象に 1 教員 1 科目」の原則で実施した。これにより、教員個々人の意識が高まり、授業改善の効果が上がったことは、各項目の数値が有意に上昇したことから明らかである。

2007 年度には、スタート時に確認された目的のうち、「学部・学科としてカリキュラムの有効性を測定するための資料を得る」「大学として教育力向上に必要な方策を立てるための資料を得る」に比重を移し、実施対象科目に一部の演習科目を加えた上で、各学部・学科等の必要性により科目を選定する方式に切りかえた。2008 年度、2009 年度はこの方針を踏襲して実施した。

一方で、「学生による授業評価アンケート」開始当初から、アンケートは単年度ごとにその目的と実施内容を検討・決定するのではなく、数年度単位の中期的な計画に基づいて展開する必要性が指摘されており、その策定に向けて、継続的に議論を行ってきた。

2006年度には、「1 教員 1 科目の原則による実施は、教員個々人の意識を高め、教員全員が自らの自己研修の資料を得る観点から、少なくとも数年に一度は必要である」との全学的合意がなされた（2007年1月25日、部長会）。その後、他大学の実施状況調査を行うとともに、全学教務委員会および教育改革推進会議での学部等からの意見収集ならびに協議を経て、2009年度の教育改革推進会議（2009年11月19日）において、2010年度以降の基本方針を以下のとおり決定した。

- ① 授業評価アンケートは毎年実施する。
- ② 「1 教員 1 科目」の原則による実施は、3年に一度とする。
- ③ ②以外の年度は、「学部等の必要性に応じた選定」により実施する。

基本方針決定以降の、科目選定方針は以下のとおりである。2010年度は定められた基本方針に拠って、実施する初年度となり、上記②の「1 教員 1 科目」の原則により実施した。

・2010、2013、2016、2019、2022年度：「1 教員 1 科目」

・2011、2012、2014、2015、2017、2018、2020、2021年度：「学部等の必要性に応じた選定」

授業評価アンケート実施対象科目は、2019年度まで専門演習、実験、集中講義や実技を伴う科目、全学共通科目の言語系科目を除外してきたが、2020年度秋学期から「立教時間」による Web 方式を採用したことによって、設問項目の改訂が行われたことや、実施上限科目数、教室内でのマークシート用紙の配布等の制約が解消されたため、これらの除外科目についても含めることが可能となった。さらに、学部等が選定した実施科目に加えて、各教員が希望した科目において任意に「学生による授業評価アンケート」を実施可能とすることになった。

なお、2022年度の各学部等における科目選定方針については、「2－3 各学部等の科目選定方針（p.11）」を参照されたい。

また、本アンケートはその性質から無記名で行われ、個人が特定される情報は教員・学部提供しないことを前提としてきた。さらに、2020年度の教育改革推進会議（2020年10月1日）において、履修登録者が4名以下の科目は実施対象外とすることを決定した。

1－5 回答結果の全学的な活用に向けて

本学は、従来、1－1に記載した目的に沿い、「学生による授業評価アンケート」の集計結果を教員個人の授業改善や、学部等によるFDの基礎資料として活用してきた。しかし、回答データを計量分析し、全学的なFDに活用するには至っていなかった。

そこで、2012年度10月に発足した大学教育開発・支援センター教学IR部会では、2015年度に2013年度の回答データを用いた分析を実施し、「教員の授業に対する工夫や努力、たとえば、各回の授業内容を明確に提示するよう意識するなどの取り組みによって、学生の授業や学習に対する意欲は高められる」という知見を得、教育改革推進会議を通じて全学へ報告し、共有した（詳細は、2015年度報告書に掲載）。

上述の知見を踏まえて、2017年度に行われた第1回「立教大学教育活動特別賞」の選定にあたっては、2016年度授業評価アンケートの一部の項目の集計結果を各学部等へ提供した。各学部等からの候補者の推薦を受けて、34名の方々に賞を授与するとともに、受賞者の教育に関する優れた取り組みを共有するために、全学のFD活動としてシンポジウムを開催した。その後、「立教大学教育活動特別賞」は第2回の2020年度では28名、第3回の2023年度では30名の方々に賞を授与するとともに、全学のFD活動として広く共有する機会としている。

そして、「学生による授業評価アンケート」の運営主体について、2020年度からは、このような全学のFD活動をより推し進めていくために全学教務委員会の下に組織されていた「学生による授業評価アンケート」実施委員会を廃止とし、全学を対象としたFD・調査を担う大学教育開発・支援センターが中心となり、教務部の協力を得ながら進める体制へ移行されることになった。これにより、同センターのTL (Teaching & Learning) 部会では、本報告書の作成や回答結果を活用したFDプログラムの企画を、教学IR (Institutional Research) 部会では、アンケート実施の企画やデータ集計・分析をそれぞれ担うことになった。

2. 授業評価アンケートの実施概要

本報告書において、「学部等」とは、各学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター、全学共通カリキュラム運営センター、学校・社会教育講座を示す。また、学部表示は科目開設学部等を示しており、回答者（学生）の所属ではない。

2-1 実施方式

「立教時間」を用いた Web 方式にて実施した。

2-2 設問項目

全科目共通設問は、2021 年度の設問を踏襲し、すべて英語併記とした。

5 段階による評価方式の設問が 4、複数選択回答による設問が 3、数値入力による設問が 1、自由記述による設問が 3 の構成とした (p.8 参照)。設問の中には、必ずしも全科目には該当しないと思われるような設問もあるが、各設問項目の数値は、科目の特徴に照らして各科目担当者の裁量により解釈されるものとしている。

また、学部等によって独自の設問が設定できるよう、1 学部あたり最大で 6 設問を設定できるようにした。2022 年度は、経済学部 (5 設問)、理学部 (4 設問)、現代心理学部 (2 設問)、全学共通カリキュラム運営センター (総合系科目 5 設問・言語系科目 5 設問) が学部等による設問項目を設定した (pp.9-10 参照)。

2022 年度「授業評価アンケート」設問項目（全科目共通設問）

数値入力、複数選択の設問以外の選択肢は 5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう
 思わない、1:そう思わない、の 5 件法となります。

(英文選択肢)5. Strongly Agree 4. Agree 3. Neither Agree nor Disagree 2. Somewhat Disagree 1. Disagree

I 学生の学習姿勢 My participation in this course
I 1 この授業に積極的に参加した I actively participated in the lessons.
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に） ⇒数値による入力 Outside of the lessons, I spent an average of ... per week studying for this course. ⇒ Fill in how many hours.
II 教員の授業改善に向けて To improve instructors' teaching
II 1 各回の授業内容は明確だった The content of each lesson was clear.
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった The instructor's way of communicating was easy to understand.
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】 ①配付資料(授業のレジュメなど)、②板書(電子媒体のものを含む)、③パワーポイント、④動画等の映像視 覚教材(オンライン授業そのものの動画ではありません)、⑤シラバス、⑥上記にあてはまるものがない Is there anything that you thought good about this course?【Multiple answers allowed】 ①Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) ②Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) ③PowerPoint ④Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself) ⑤Syllabus ⑥N/A not applicable
II 4 II 3 の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自 由記述】 If there is any reason for the answers for II 3 and other things you thought good about this course, please explain. 【Free writing】
II 5 この授業で改善すべき点かと思った点がありますか【複数選択可】 ①配付資料(授業のレジュメなど)、②板書(電子媒体のものを含む)、③パワーポイント、④動画 等の映像視覚教材(オンライン授業そのものの動画ではありません)、⑤シラバス、⑥上記にあては まるものがない Is there anything that can improve this course?【Multiple answers allowed】 ①Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) ②Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) ③PowerPoint ④Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself) ⑤Syllabus ⑥N/A not applicable
II 6 II 5 の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自 由記述】 If there is any reason for the answers for II 5 and other things that can be improved, please explain. 【Free writing】
III 学生が授業に期待するもの Student's expectations of this course
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】 ①自分にとって新しい考え方・発想、②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識 ③自分で調べ考える姿勢、④学問的興味、⑤上記にあてはまるものがない Through this course I learned/acquired the following.【Multiple answers allowed】 ①New concepts and new ways of thinking ②Basic academic knowledge related to the field taught in this course ③A positive attitude towards doing my own research and analysis ④Academic content which was suitably challenging ⑤N/A not applicable
III 2 III 1 以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】 If you have any other learned/acquired comments and opinions about this course, please explain. 【Free writing】
III 3 この授業を受けて満足した I was satisfied with this course.

2022 年度「授業評価アンケート」設問項目（学部等による設問）（1/2）

学部等	IV 「学部等による設問」	
	有無	(6 項目まで。1 項目は 10～30 字程度)
文学部	無	
経済学部	有	<p>1) (基礎ゼミナール 1) 経済関連の文献を読む力がついた</p> <p>2) (基礎ゼミナール 1) レジューメやレポート作成の力がついた</p> <p>3) (情報処理入門 1) 表計算ソフト (Excel) の応用力が身についた</p> <p>4) (情報処理入門 1) Power Point でプレゼンテーション資料を作成する力が身についた</p> <p>5) (情報処理入門 1) WEB 上から経済資料・統計資料を入手する力が身についた</p> <p>1) (Pro-Seminar1) I gained the ability to read economic literature.</p> <p>2) (Pro-Seminar1) I gained the ability to create resumes and reports.</p> <p>3) (An Introduction to Information Processing 1) I have acquired the ability to utilize spreadsheet software (Excel).</p> <p>4) (An Introduction to Information Processing 1) I have acquired the ability to create presentation materials in Power Point.</p> <p>5) (An Introduction to Information Processing 1) I have acquired the ability to collect economic and statistical data from the web.</p>
理学部	有	<p>1) シラバスに沿って授業が行われた</p> <p>2) 教員は質問・疑問に対し積極的に答えてくれた</p> <p>3) (必修科目のみ) 授業で困った際に、練習問題を解き合う等で学生同士が共同して解決策をとった</p> <p>4) (1年次必修科目のみ) 教員は高校までの授業スタイルとの違いを考慮して授業展開をしてくれた</p> <p>1) The instructor conducted lessons based on the syllabus.</p> <p>2) The instructor was willing to answer my questions/inquiries.</p> <p>3) (This question is for the compulsory subjects only.) We solved problems through group works (i.e., working out exercises together, etc.) during the lessons.</p> <p>4) (This question is for the freshman's compulsory subjects only.) The instructor gave us lessons with due consideration of the difference of lesson styles between high school's and university's.</p>
社会学部	無	
法学部	無	
経営学部	無	
異文化コミュニケーション学部	無	
グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター	無	
観光学部	無	
コミュニティ福祉学部	無	

2022年度「授業評価アンケート」設問項目（学部等による設問）(2/2)

学部等	IV 「学部等による設問」	
	有無	(6項目まで。1項目は10～30字程度)
現代心理学部	有	1)この授業の受講者数は適切だった 2)この授業の設備・環境に満足している 1)The number of the students in this class is appropriate. 2)The facilities and learning environments in this class are satisfactory.
全学共通 カリキュラム 運営センター・ 総合系科目	有	1)この授業の教室の大きさは適切だった 2)この授業の受講者数は適切だった 3)この授業の行われた教室の環境や設備は十分だった(大きさの観点を除く) 4)【学びの精神のみ対象】この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた 5)【学びの精神のみ対象】この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた 1)The size of the classrooms was appropriate. 2)The number of students in this class was appropriate. 3)The environment and facilities in the classroom where this class was held were adequate(except in terms of size). 4)[For Introduction to Academic Studies] Through this class, I felt the difference between high school and university learning. 5)[For Introduction to Academic Studies] This class helped to acquire proactive attitude towards university learning.
全学共通 カリキュラム 運営センター・ 言語系科目	有	1)宿題や課題は授業内容の理解を深めるのに役立った 2)宿題や課題へのフィードバック、質問に対しての対応が十分になされた 3)授業内での既習事項の確認・復習が十分になされた 4)この授業を通して向上した能力はなんですか【複数選択可】 ①読む力、②書く力、③聞く力、④話す力、⑤プレゼンテーションをする力、 ⑥ディスカッションをする力 5)その言語の学習を継続したいと思うようになった 1)The homework and assignments were useful for understanding course content. 2)Feedback about homework and assignments, and responses to questions were sufficient. 3)Content covered in previous lessons was reviewed sufficiently. 4)What abilities did you improve through this course? (Multiple selections possible) ①Reading ability, ②Writing ability, ③Listening ability, ④Speaking ability, ⑤Presentation ability, ⑥Discussion ability 5)I feel like continuing to study this language.
学校・社会 教育講座	無	

2-3 各学部等の科目選定方針

実施対象科目は、学士課程における2022年度開講科目である。

2022年度は、3年に1度の「1教員1科目」の原則で実施する年度であった。

各学部等の科目選定方針の詳細については、「4. 学部等総評」にて確認されたい。

※「1教員1科目」とは、各学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター、全学共通カリキュラム運営センター、学校・社会教育講座ごとに1教員1科目と考える。

※「1教員1科目」に加え、学部等の必要性に応じた科目を対象とすることも可能とした。

※「1教員1科目」を選定するにあたり、専門演習、実験、集中や実技を伴う科目、複数教員担当科目のみを担当する教員の場合には、従来どおり「1教員1科目」の原則の対象外。ただし、これらの科目をアンケート実施対象科目とすることは可能とした。

2-4 実施科目数

最少回答人数（5名以上）の条件を満たした科目数を実施科目数とする。
（最少回答人数に満たなかった科目については、学部提供データをはじめとした各種統計データには含めないこととする。）

実施科目数は、春学期 1,543 科目、秋学期 1,353 科目、合計 2,896 科目であった。
所見票提出率は 83.63%（2,422/2,896）となった。

科目開設学部等	実施 予定 科目数	実施学期内訳		実施 科目数 (回答者 5名以上)	実施学期内訳		所見票 提出数	実施学期内訳	
		春学期	秋学期		春学期	秋学期		春学期	秋学期
文 学 部	308	153	155	251	128	123	195	104	91
経 済 学 部	224	147	77	192	135	57	172	120	52
理 学 部	134	68	66	113	64	49	101	56	45
社 会 学 部	127	66	61	104	62	42	80	51	29
法 学 部	84	38	46	70	33	37	57	27	30
経 営 学 部	95	44	51	60	33	27	39	19	20
異文化コミュニケーション学部	95	44	51	67	34	33	52	25	27
グローバル・リベラル・アーツ・プログラム運営センター	32	17	15	12	8	4	6	5	1
観 光 学 部	115	59	56	91	47	44	72	40	32
コミュニティ福祉学部	136	68	68	121	64	57	93	49	44
現 代 心 理 学 部	81	33	48	65	28	37	54	20	34
全学共通カリキュラム運営センター ・総合系科目	413	234	179	346	206	140	269	156	113
全学共通カリキュラム運営センター ・言語系科目	1,730	835	895	1,336	664	672	1,180	600	580
学校・社会教育講座	83	45	38	68	37	31	52	34	18
合 計	3,657	1,851	1,806	2,896	1,543	1,353	2,422	1,306	1,116

2-5 実施期間

原則として 13 回目の授業時に実施し、休講等で実施できなかった場合は 14 回目（最終授業）の授業時もしくは、実施期間終了時まで実施することとした。

春学期：2022 年 7 月 6 日（水）～7 月 12 日（火）

- ・（予備週）7 月 13 日（水）～7 月 19 日（火）
- ・学生が回答可能な期間は 7 月 6 日（水）～7 月 19 日（火）

秋学期：2023 年 1 月 6 日（金）～1 月 16 日（月）

- ・（予備週）1 月 17 日（火）～1 月 23 日（月）
- ・学生が回答可能な期間は 1 月 6 日（金）～1 月 23 日（月）

なお、四半期科目については原則として 7 回目の授業時に実施し、学生が回答可能な期間はこの実施期間に加えて期間終了後の 1 週間延長することとした。

春学期 1：2022 年 5 月 25 日（水）～5 月 31 日（火）

- ・学生が回答可能な期間は 5 月 25 日（水）～6 月 7 日（火）

秋学期 1：2022 年 11 月 11 日（金）～11 月 17 日（木）

- ・学生が回答可能な期間は 11 月 11 日（金）～11 月 24 日（木）

2-6 回答者数

アンケート実施科目の延べ回答者数を、科目の開設学部等別に下表にまとめた。参考のために、延べ履修者数も表に載せた。

アンケートの回答率（※）は、34.2%（〈B〉 66,324 / 〈A〉 193,972）であった。

※ 〈B〉 集計対象科目回答者数（回答者 5 名以上） / 〈A〉 集計対象科目履修者数（回答者 5 名以上）

科目開設学部等	春学期		秋学期		合 計	
	履修者数	回答者数	履修者数	回答者数	履修者数	回答者数
文 学 部	11,031	3,565	9,868	2,980	20,899	6,545
経 済 学 部	15,499	4,278	4,104	1,221	19,603	5,499
理 学 部	4,621	1,513	3,163	1,066	7,784	2,579
社 会 学 部	9,181	2,932	7,754	1,572	16,935	4,504
法 学 部	6,642	1,742	6,309	1,550	12,951	3,292
経 営 学 部	6,631	994	4,945	688	11,576	1,682
異文化コミュニケーション学部	1,499	647	1,217	465	2,716	1,112
グローバル・リベラル・アーツ・プログラム運営センター	129	86	62	34	191	120
観 光 学 部	6,182	1,355	4,757	1,237	10,939	2,592
コミュニティ福祉学部	7,007	2,222	5,811	1,531	12,818	3,753
現代心理学部	3,098	765	3,288	1,215	6,386	1,980
全学共通カリキュラム運営センター・ 総合系科目	24,768	7,701	16,276	4,606	41,044	12,307
全学共通カリキュラム運営センター・ 言語系科目	12,963	9,653	14,485	9,402	27,448	19,055
学校・社会教育講座	1,536	819	1,146	485	2,682	1,304
合 計	110,787	38,272	83,185	28,052	193,972	66,324

2-7 「所見票」の公開

所見票（科目別の集計結果および科目担当者による所見）は、Web 上で学生・教職員（兼任講師含む）に対し閲覧に供している。

※閲覧にあたっては V-Campus ID / パスワードが必要

< 立教時間：所見票検索 >（2020 年度以降の所見票）

教職員：<https://portfolio.rikkyo.ac.jp/tcr/ces/feedback/search/index>

学 生：<https://portfolio.rikkyo.ac.jp/stu/ces/feedback/search/index>

< 所見票閲覧システム※（2019 年度以前の所見票） >

<https://wwwj.rikkyo.ac.jp/kyomubu/etsuran/top.html>

※同システムは 2023 年度末をもって稼働終了予定。その後は大学教育開発・支援センターにて個別に閲覧可能。

2-8 任意実施科目

大学教育開発・支援センターより「立教時間（SPIRIT メール）」を通じて、任意実施について案内を行い、春学期は 8 科目実施し、秋学期の実施科目はなかった。

3. 科目担当者・学部等への集計結果のフィードバック

3-1 科目担当者

担当科目の以下の集計結果をアンケート実施1~2ヶ月後に「立教時間」上に掲載し、これらを基に、科目担当者に所見票の執筆を依頼した（p.15にサンプル画面を掲載）。

- ・回答情報（自由記述回答含む）
- ・回答統計情報

3-2 学部等

以下により集計し、2)の結果と科目担当者が執筆した所見票を送付の上、学部等総評の執筆を依頼した。

1) 集計の方針

集計の方針は、以下のとおりとした。

- ①学部等別・学科等別に集計する。
- ②科目選定方針が「1教員1科目」の本年度は、全学集計を行うほか、全学部等の設問項目別平均値・割合（学部等間比較）の一覧表を作成する。
全学集計は、以下の2種を作成する。
全学①：「全科目」を対象とした集計
全学②：「全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目*を除く全科目」を対象とした集計

*2020年度からアンケート実施対象。そのため、2019年度以前の「学部等ごとに1教員1科目」の年度の集計は②に該当する。

2) 集計内容

①回答者数・回答率

アンケート回答者数を学部等別、学年別に集計した（合計も記載）。また、アンケート実施科目について学部等別の回答率（回答者数/履修者数）を算出した（p.72参照）。

②平均値・回答割合に関する集計

平均値・回答割合に関する集計は、下表のとおり行った。

集計単位 提供した 集計データ	全学①	全学②	学部等間比較	学部等別 *1	学科等別 *1
設問項目別	● (p.73参照)	● (p.74参照)	● (pp.75-76参照)	● *2 (pp.81-94参照)	●
授業規模別	● (p.77参照)	● (p.78参照)	—	●	—
学年別	● (p.79参照)	● (p.80参照)	—	●	—

*1 学部等には、当該学部の結果を提供

*2 学部等には、該当項目別に回答割合を示した帯グラフも提供

サンプル <授業評価アンケート結果確認・所見入力画面> (1/2)

立教大学
立教大学

Home > ※科目名から見る > 授業評価アンケート > 授業評価アンケート入力・確認
戻る

授業評価アンケート結果確認・所見入力

2022年度秋学期「学生による授業評価アンケート」

スタータス
未着手

教授情報
 所属学部
 アンケート入力期間
 シラバスの巻頭

説明

このアンケートは、立教大学の授業を改善し、さらに充実させることと本目的に行われます。調査は無記名で行われ、回答の内容が他者の評価に影響することはありません。本学を構成する重要な一員である学生として、みなさん自身が大卒教育をより良いものにするという意識のもとに、率直かつ責任をもちて回答してください。

The aim of this Class Evaluation is to improve the content of the courses and the curriculum in order to enhance the quality of education at Rissho University. Please keep in mind that the evaluation is concluded anonymously and in no way will your evaluation affect your grade in this course. As an important member of Rissho University, your feedback is indispensable to improve the quality of our education. Please provide your candid and constructive opinions below.

回答数: 5件

1 学生の学習姿勢

1-1 My participation in this course

1-1-1 この授業に積極的に参加した。

1-1-1 actively participated in the lessons.

5 大いにそう思う / Strongly Agree: 20% (1)

4 そう思う / Agree: 20% (1)

3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree: 20% (1)

2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree: 20% (1)

1 そう思わない / Disagree: 20% (1)

1-2 この授業に關係して、授業以外に学習した時間(平均して、1時間)

1-2 Outside of the lessons, I spent an average of ... per week studying for this course.

平均: 2.6 (5)

2 教員の授業改善に向けて

2 To improve instructors' teaching

みなさんの所見は貴重ですが、授業の参考にします。無責任な誹謗や中傷は避け、自身試案で回答してください。
The instructor will read every comment to make improvements in their course design and management in the future. Please focus on providing constructive feedback and suggestions (as opposed to defamatory comments or personal attacks).

2-1 各回の授業内容は精進だった。

2-1 The content of each lesson was clear.

5 大いにそう思う / Strongly Agree: 20% (1)

4 そう思う / Agree: 20% (1)

3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree: 20% (1)

2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree: 20% (1)

1 そう思わない / Disagree: 20% (1)

2-2 教員の伝え方がわかりやすかった。

2-2 The instructor's way of communicating was easy to understand.

5 大いにそう思う / Strongly Agree: 0%

4 そう思う / Agree: 40% (2)

3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree: 20% (1)

2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree: 20% (1)

1 そう思わない / Disagree: 20% (1)

2-3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】

2-3 Is there anything that you thought good about this course? (Multiple answers allowed)

配付資料 (授業のレジュメなど) / Handouts (Worksheets, including digital resources etc.)

板書 (電子媒体のものを含む) / Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards)

パワーポイント/PowerPoint

動画等の映像授業教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません) / Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself)

シラバス/Syllabus

上記にあてはまるものがない / N/A not applicable

配付資料 (授業のレジュメなど) / Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) (4)

板書 (電子媒体のものを含む) / Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards.) (3)

パワーポイント/PowerPoint (4)

動画等の映像授業教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません) / Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself.) (3)

シラバス/Syllabus (2)

上記にあてはまるものがない / N/A not applicable (1)

サンプル <授業評価アンケート結果確認・所見入力画面> (2/2)

自分にとって新しい考え方や、発想/New concepts and new ways of thinking. (2)

授業で学んだ分野に関する基本的な専門知識/Basic academic knowledge related to the field taught in this course. (4)

自分で調べた内容を要約して記入してください。【自由記述】

2-4 If there is any reason for the answers for 2-3 and other things you thought good about this course, please explain. [Free writing]

自由記述サンプル回答 1

自由記述サンプル回答 2

自由記述サンプル回答 3

さらに表示... (複数件)

3-2 上記以外でこの授業から得ることができたものはありますか。【複数選択可】

3-2 If you have any other learned/acquired comments and opinions about this course, please explain. [Free writing]

自由記述サンプル回答 1

自由記述サンプル回答 2

自由記述サンプル回答 3

さらに表示... (複数件)

3-3 この授業を改めて満足しました。

3-3 I was satisfied with this course.

5 大いにそう思う/Strongly Agree

4 そう思う/Agree

3 どちらともいえない/Neither Agree nor Disagree

2 あまりそう思うのではない/Somewhat Disagree

1 そう思うのではない/Disagree

5 大いにそう思う/Strongly Agree:20% (1)

4 そう思う/Agree:20% (1)

3 どちらともいえない/Neither Agree nor Disagree:20% (1)

2 あまりそう思うのではない/Somewhat Disagree:20% (1)

1 そう思うのではない/Disagree:20% (1)

担当教員の所見: 立教太郎

授業評価に対する担当教員の所見
Feedback from instructor on class evaluation survey

改善に向けた今後の方針
Plans for improvements in the future

戻る

2-4 上記2-3の選択肢を選んだ理由は、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください。【自由記述】

2-4 If there is any reason for the answers for 2-3 and other things you thought good about this course, please explain. [Free writing]

自由記述サンプル回答 1

自由記述サンプル回答 2

自由記述サンプル回答 3

さらに表示... (複数件)

2-6 この授業で改善すべき点と良かった点はありませんか。【複数選択可】

2-6 Is there anything that can improve this course? [Multiple answers allowed]

教材資料 (授業のレジュメなど) /Handouts (Worksheets, including digital resources etc.)

教員 (電子媒体のものを含む) /Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards)

パワーポイント/PowerPoint

動画等の映像授業教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません) /Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself)

シラバス/Syllabus

上記に当てはまるものがない/N/A not applicable

教材資料 (授業のレジュメなど) /Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) (2)

教員 (電子媒体のものを含む) /Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) (2)

パワーポイント/PowerPoint (2)

動画等の映像授業教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません) /Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself) (3)

上記に当てはまるものがない/N/A not applicable (2)

2-8 上記2-6の選択肢を選んだ理由は、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください。【自由記述】

2-8 If there is any reason for the answers for 2-5 and other things that can be improved, please explain. [Free writing]

自由記述サンプル回答 1

自由記述サンプル回答 2

自由記述サンプル回答 3

さらに表示... (複数件)

3 学生が授業に期待するもの

3 Student's expectations of this course

自分にとって新しい考え方や、発想/New concepts and new ways of training

授業で学んだ分野に関する基本的な専門知識/Basic academic knowledge related to the field taught in this course

自分で調べた内容を要約して記入してください。【複数回答可】

学習的興味/Academic content which was suitably challenging

上記に当てはまるものがない/N/A not applicable

サンプル <所見票> (1/2)

立教時間

Home | 所見票検索 | 授業評価アンケート選択 | 再授業確認

1 立教太郎

※科目名が入る

授業評価入力・確認

2022年度秋学期「学生による授業評価アンケート」

スレークス 確定

教室情報

履出日

アンケート入力期間

シラバスの情報

説明

このアンケートは、立教大学の授業を改善し、さらに授業を高めることを目的に行われます。調査は無記名で行われ、回答の内容が成績評価に影響することはありません。大学を運営する重要な一員である学生として、みなさん自身が大学教育をより良いものにするという意識のもとに、率直かつ責任をもって回答してください。

The aim of this Class Evaluation is to improve the content of the courses and the curriculum in order to enhance the quality of education at Rikyo University. Please keep in mind that the evaluation is conducted anonymously and in no way will your evaluation affect your grade in this course. As an important member of Rikyo University, your feedback is indispensable to improve the quality of our education. Please provide your candid and constructive opinions below.

回答数: 5件

1 学生の学習姿勢

1 My participation in this course

1-1 この授業に積極的に参加した。

1-1 I actively participated in the lessons.

5 大いにそう思う / Strongly Agree

4 そう思う / Agree

3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree

2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree

1 そう思わない / Disagree

5 大いにそう思う / Strongly Agree: 20%

4 そう思う / Agree: 20%

3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree: 20%

2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree: 20%

1 そう思わない / Disagree: 20%

1-2 この授業に積極的に参加して、授業以外に学習した時間(平均して、1週間1回)。

1-2 Outside of the lessons, I spent an average of ... per week studying for this course.

=Fill in how many hours.

平均: 2.6 (5)

2 教員の授業改善に向けて

2 To improve instructors' teaching

みなさんの回答は期待が通り、授業の改善に繋がります。悪化は避けたいので、具体的な改善で回答してください。

The instructor will read every comment to make improvements in their course design and management in the future. Please focus on providing constructive feedback and suggestions (as opposed to defamatory comments or personal attacks).

2-1 各回の授業内容は明確だった。

2-1 The content of each lesson was clear.

5 大いにそう思う / Strongly Agree: 20%

4 そう思う / Agree: 20%

3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree: 20%

2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree: 20%

1 そう思わない / Disagree: 20%

2-2 教員の伝え方がわかりやすかった。

2-2 The instructors way of communicating was easy to understand.

5 大いにそう思う / Strongly Agree: 0%

4 そう思う / Agree: 40%

3 どちらともいえない / Neither Agree nor Disagree: 20%

2 あまりそう思わない / Somewhat Disagree: 20%

1 そう思わない / Disagree: 20%

2-3 この授業でよいと思った点がありますか(複数選択可)。

2-3 Is there anything that you thought good about this course? (Multiple answers allowed).

1 動画資料(授業のレジュメなど) / Handouts (Worksheets, including digital resources etc.)

2 活字(電子媒体のものを含む) / Writs on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards)

3 パワーポイント / PowerPoint

4 動画等の録音資料(オンライン授業そのものの動画ではありません) / Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself)

5 シラバス / Syllabus

上記にあてはまるものがない / N/A not applicable

動画資料(授業のレジュメなど) / Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) (4)

活字(電子媒体のものを含む) / Writs on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) (3)

パワーポイント / PowerPoint (4)

動画等の録音資料(オンライン授業そのものの動画ではありません) / Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself) (3)

シラバス / Syllabus (2)

上記にあてはまるものがない / N/A not applicable (1)

サンプル <所見票> (2/2)

2-4 上記2-3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外での授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】

2-4 if there is any reason for the answers for 2-3 and other things you thought good about this course, please explain. [Free writing]

2-5 この授業で学ばずべき点と想った点はありませんか【複数選択可】

2-5 is there anything that can improve this course? [Multiple answers allowed]

- 配付資料（授業のレジュメなど）/Handouts (Worksheets, including digital resources etc.)
- 掲示板（電子媒体のみの学習用）/Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards)
- パワーポイント/PowerPoint
- 動画等の映像授業教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）/Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself)
- シラバス/Syllabus
- 上記にあてはまるものがない/N/A not applicable

配付資料（授業のレジュメなど）/Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) (2)

掲示板（電子媒体のみの学習用）/Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) (2)

パワーポイント/PowerPoint (2)

動画等の映像授業教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）/Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself) (3)

シラバス/Syllabus (1)

上記にあてはまるものがない/N/A not applicable (2)

2-6 上記2-5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外での授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】

2-6 if there is any reason for the answers for 2-5 and other things that can be improved, please explain. [Free writing]

3 3 学生が授業に期待するもの

3 Student's expectations of this course

- 自分にとって新しい考え方や、発想/New concepts and new ways of thinking
- 得た知識で応用分野に関する基本的な専門知識/Basic academic knowledge related to the field taught in this course
- 自分で調べ学ぶ姿勢/A positive attitude (towards doing my own research and analysis)
- 学問的興味/Academic content which was suitably challenging
- 上記にあてはまるものがない/N/A not applicable

自分にとって新しい考え方や、発想/New concepts and new ways of thinking (2)

得た知識で応用分野に関する基本的な専門知識/Basic academic knowledge related to the field taught in this course (4)

自分で調べ学ぶ姿勢/A positive attitude (towards doing my own research and analysis) (4)

学問的興味/Academic content which was suitably challenging (1)

上記にあてはまるものがない/N/A not applicable (1)

3-2 上記以外での授業から得るべき点があれば記入してください【自由記述】

3-2 If you have any other learned/acquired comments and opinions about this course, please explain. [Free writing]

3-3 この授業を受けて満足した

3-3 I was satisfied with this course.

- 5 大いに満足思う/Strongly Agree
- 4 満足思う/Agree
- 3 どちらとも言いえない/Neither Agree nor Disagree
- 2 あまり満足思わない/Somewhat Disagree
- 1 満足思わない/Disagree

5 大いに満足思う/Strongly Agree: 20%

4 満足思う/Agree: 20%

3 どちらとも言いえない/Neither Agree nor Disagree: 20%

2 あまり満足思わない/Somewhat Disagree: 20%

1 満足思わない/Disagree: 20%

担当教員の所見：立教太郎

授業評価に対する担当教員の所見
Feedback from instructor on class evaluation survey

改善に当たって今後の方針
Plans for improvements in the future

3-3 所見が表示されます

3-3 所見が表示されます

4. 学部等総評

学部等総評は、科目ごとの集計結果、各教員の執筆した所見および学部全体の集計結果をもとに、下記を基本形として、各学部等が執筆した。

<構成の基本形>

1. 科目選定方針とねらい
2. 集計データにみられる結果のまとめ
3. 担当教員の所見に対するまとめ（学生の意見に関する内容を含む）
4. 今後の改善に向けて

4-1 文学部

1. 科目選定方針とねらい

2022年度は、学部等ごとに1教員1科目実施することになっていた。

文学部では、1年次の必修科目等の導入教育にあたる科目、文学部基幹科目、各学科・専修で必要とされる科目など、科目の特性を見渡ししながら、各学科・専修ごとに対象科目を指定し、全体の状況を見据えながら選定した。

なお、学部による設問項目については、前年度を踏襲し、設定しなかった。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

アンケート実施科目数は合計 251 科目で、内訳としては春学期 128、秋学期 123 科目である。調査対象となった科目の総履修者数は 20,899 名で、そのうちの 31.3%にあたる 6,545 名から回答があった。この回答率は全学平均 (34.2%) を下回るものであると同時に、昨年度の文学部回答率 (31.8%) に比べても微減である。

2年連続で回答率約3割というのは低い数字である。原因はアンケートの実施方法が Web 化されたこともあると考えられる。授業時間内に Web 回答する時間をとってアンケートへの回答を促すこともできるのだが、回答期間内は授業時間以外も回答が可能となったため、紙に記入させて回収していた時ほど確実ではない。

また授業に興味をもてなかった学生の回答率は低いことも予想されるので、不満や改善点を把握する上でも、現行の回答率は問題である。一定数の回答者数を確保するための方策を考える必要があるだろう。

学年別の回答者数を見ると、1年生 1,765 名、2年生 2,099 名、3年生 1,896 名、4年生 774 名、その他が 11 名であった。前年度は1年生の回答数に比べて、2、3年生の回答者が3桁と著しく少なかったため、2年生以上の回答者数の増加は喜ばしいことである。

I 「学生の学習姿勢」

文学部の回答平均値において、I1「授業参加の積極性」の平均値は 4.28 と前年度から微増であったが、I2「授業時間外の学習」は 1.44 時間から 1.25 時間へと 2年連続で減少した。授業の多くが対面に戻ったために、課題もコロナ禍以前の量に戻り、通学時間も考慮すると減少はやむを得ない面もあるかもしれないが、これ以上の減少は問題なので次年度以降の動向を注視したい。

II 「教員の授業改善に向けて」

II1「各回の授業内容の明確さ」に対する評価が 4.41、II2「教員の伝え方」は 4.30 と、前年度を上回る高い評価が与えられており、授業の満足度も 4.37 と全学平均を上回っていることから、教員の授業内容に対する学生の満足度は高いと言える。複数選択可の選択項目を列挙した II3「授業のよい点」では、①「配付資料 (レジュメなど)」(60.6%) および③「パワーポイント」(31.1%) ④「動画等の映像視覚教材」(28.6%) を選択する学生が多く、⑤「シラバス」(7.5%) は選択項目中もっとも低いパーセンテージとなっている。これは学生がシラバスを十分に見ていない可能性も考えられるが、シラバスの重要性を学生に喚起すると同時に、明確で授業内容を正しく反映したシラバス作成がより求められる。他方、II

5「授業の改善点」については、全体の64.3%が⑥「あてはまるものがない」を選択し、ほぼ前年度と同じ数字であった。改善点として最も多くあげられた①「配付資料（レジюмеなど）」は11.7%であり、前年度の9.6%から若干上昇しているのがマイナス材料である。

Ⅲ「学生が授業に期待するもの」

Ⅲ1「授業から得られたもの」については、99.5%の学生が一つ以上の項目を選択した。各項目における選択者の割合は、①「自分にとって新しい考え方・発想」（56.5%）、②「基本的な専門知識」（63.7%）、④「学問的興味」（49.2%）は前年度を上回ったのに対して、③「自分で調べ考える姿勢」は前年度の27.9%から25.1%に下がっている。もともと「自分で調べ考える姿勢」は他の項目に比べて低かったのだが、さらなる減少は問題である。なお⑤「上記にあてはまるものがない」は1.7%で前年度より減少した。

また、Ⅲ3「授業の満足度」については、前年度は3～4年生がいずれも4.3を超える値であるのに対し、1～2年生の満足度は4.24～4.26とやや低かったのだが、2022年度の満足度は全学年で高い数字が出ている。具体的には、1年生4.34、2年生4.37、3年生4.36、4年生4.49と、高い評価が得られている。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

「肯定的評価・意見として多い意見の集約」

肯定的評価・意見として多く見られるのは、レジюмеやパワーポイント、動画等視聴覚教材に対するものである。わかりやすい、興味をそそられた等授業に対する満足度に結びついている。また、パワーポイントや動画等については、授業後でも見られるように授業支援システム上にアップされている場合も高評価を得ている。レジюмеについては全てを記載するのではなく、講義を聞いて学生自身が書き込む余地を残したものが高く評価されている。

もう一つ高い評価を得ているのは、学生へのフィードバックである。たとえば提出したコメントシートや課題に対して、教員側が事後に解答を提示したりコメントをつけることを、学生は高く評価している。報告やディスカッションで他の学生の意見を聞く機会があることにも肯定的な評価が多い。多人数でそうした機会がない授業でも、学生の提出したコメントの一部を授業内で紹介するなどすると、「色々な人の意見が分かって良かった」と高評価を得ている。また、教員個人の話の豊富さや話術、人柄に対する好感や、研究者としての姿勢に対する高評価も多かった。

「否定的評価・意見として多い意見の集約」

否定的評価・意見として多いのは、適切な資料提供がないこと、授業内容と配付資料がずれていること（今日の講義のレジюмеが翌週の配付になる、レジюмеの分量が不適切で複数回にまたがってしまうなど）、パワーポイントや動画など授業内で見せた資料が授業後に見ることができないことなどである。ただ学生自らが考えてノートをとることの教育効果を考えて、あえてレジюмеを用意しない教員もいる。著作権の関係で配付や常時視聴が不可能な資料もある。授業当初に教員自身が、資料提供について（配付しないことも含めて）意図や著作権について説明すれば、この点に関する否定的評価・意見は減少すると思われる。

否定的評価・意見は、前述の肯定的その裏返しであり、フィードバックがないことに対する学生の不満は多い。たとえば出席確認をかねて毎回短い課題を課す授業も多いと思われるが、提出しただけで正解・模範解答が提示されないままでは、学生自身も自分の解答が正しかったのかわからず学習効果につながらない。

板書やスクリーンが見えにくいという不満も多い。これは教室の収容人員と構造の問題であり教員側も困っていることがある。しかし広い教室でわざわざ最後尾に座っている学生もいるので、見えやすい席への移動を促すなど教員側の工夫で解決できる場合もあると思われる。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

アンケートの結果を受けて、多くの教員が意欲的に授業の改善に取り組もうとしている。参考になりそうな具体的な事例を以下にあげておく。レポートやレジュメについては事前に細かい規定や方法を明示する。小テストやリアクションペーパーでは意味が明確な設問をする。授業が終了してからでは対応できないので、適宜学生側の要望・不満を授業内で聞くようにする。スクリーンのスマホ撮影や遅刻対応、私語などは適切に注意して、学生の学習環境の妨げにならないようにする。

4. 今後の改善に向けて

2023年度以降はアンケート回答率を上げるための工夫とともに、今回のアンケートで得られた知見をもとに、学部全体でより魅力的で学生が主体的に学ぶような授業提供を目指していきたい。また、兼任講師からは次のような意見が出された。立教大学は兼任講師に対する支援が手薄である。新規採用の兼任講師は立教大学の成績評価方針や具体的方法についての知識がないので「初任者研修」が必要ではないかとのことである。これについては兼任講師依頼時、シラバス作成時など節目節目に、各学科専修の教務委員が教務事務センターとも協力して、様々な事柄について周知徹底をはかっていきたい。

4-2 経済学部

1. 科目選定方針とねらい

2022年度の選定方針は概ね以下の通りである。

- ・1教員1科目を原則に主要担当科目の春学期科目で実施する。なお通年科目の場合は、秋学期に実施する。
- ・1教員1科目（主要担当科目）を原則とするが、必修科目等を担当する専任教員は、複数科目で実施する。ただし、兼任講師が必修科目を含む複数科目を担当する場合は、必修科目のみの実施でよいこととする。
- ・必修・基本選択科目は全科目・全クラス実施する。
- ・基礎ゼミナール1・2（春学期・秋学期）、情報処理入門1・2（春学期・秋学期）、統計学1・2（春学期・秋学期）は全クラス実施する。
- ・外書講読・英A（春学期）は全クラス実施する。
- ・経済情報処理A（春学期）、財務情報処理A（春学期）、政策情報処理A（春学期）は実施する。
- ・キャリア教育関連科目である課題解決演習A（秋学期）、課題解決演習B（秋学期）、課題解決演習C（春学期）及びインターンシップ（通年）は実施する。
- ・CSI提供科目については、以下の通り実施する。
統計調査論1（BX560、春学期）
調査実習（BX562、通年）

アンケートのねらいは、学生側からの授業評価を通じて、今後における授業改善のための課題を各々の授業担当教員が認識することにある。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

2022年度のアンケート実施科目数は192科目（実施対象科目224科目）、回答者は延べ5,499名となった。履修者数と比した回答率は28.1%と全学平均（34.2%）を下回った。回答率が低かった要因として、1年次では、必修あるいは自動登録科目が多いためその回答者数が多くなっているが、学年が高くなるにつれて回答者数が減少しており（1年次2,682名、2年次1,176名、3年次1,148名、4年次481名、その他12名）、高年次の学生の相対的な「アンケート離れ」があったことが回答率の低下の要因の一つとなっている。

まず、設問項目別平均値についてまとめる。「Ⅰ 学生の学習姿勢」、「Ⅱ 教員の授業改善に向けて」、「Ⅲ 学生が授業に期待するもの」においては、「Ⅰ2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）」の平均値が1.34時間であったことを除いて、全ての項目で4.10以上という高い数値が算出されている。「Ⅳ 学部等による設問」においても、5項目のうち4項目が4.14以上という高い数値となっている。その一方で、「Ⅳ1（基礎ゼミナール1）経済関連の文献を読む力がついた」については3.97と低い数値となっており、ここには改善の余地があると思われる。この点については、4. で後述する。

次に、設問項目別回答割合についてまとめる。「Ⅱ3 この授業でよいと思った点はありますか（複数選択可）」では、「配付資料（授業のレジュメなど）」が60.8%と突出しており、「パワーポイント」が30.0%と続いている。注目すべきは、「Ⅱ5 この授業で改善すべきだと思った点は

ありますか（複数選択可）」においても、「配付資料（授業のレジュメなど）」が 16.7%と最も高い数値になっていることである（最上位は「上記にあてはまるものがない」の 57.5%）。授業を受ける学生にとってレジュメを含む配付資料がとても重要であることが、昨年度に引き続き今年度も示されており、レジュメを含む配付資料を学生が重視していることに担当教員は留意する必要がある。「Ⅲ1 この授業から得ることができたものがありますか（複数選択可）」においては、「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」が 65.4%と高い一方で、「自分にとって新しい考え方・発想」、「自分で調べ考える姿勢」、「学問的興味」はいずれも 21～34%と相対的に低くなっている。ここにも改善の余地があると思われ、この点についても 4. で後述する。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

所見内容は各教員によって差異があるものの、久しぶりの対面授業ということが影響してか、「声が聞き取りにくい」、「板書や授業進行が速過ぎる」、といった意見が学生から寄せられ、コロナ前の授業感覚を取り戻すことに時間を要した、といった記述が見受けられた。その一方で、対面授業への復帰を見据え、レジュメの文字数を少なくするとともに、1枚のスライドに対して丁寧に説明することを心掛けるなどの対応が功を奏し、学生から高い評価を得たと自己分析するケースも確認された。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

学生からのアンケート結果を通じ、それまでのオンライン授業およびミックス型授業とは異なる対面授業の留意点について、担当教員の多くが再確認できたことは、今後の授業改善にとって有益であったといえる。その一方で、オンライン授業およびミックス型授業に対する学生の不満については、未だ解決されていない課題として残されたままにある。対面授講者に対してもオンライン受講者に対しても丁寧な対応を可能とするスキルを各教員が修得し、どの授業形態においても学生の学びに対するモチベーションが低下しない体制の構築を目指すべく、FD研修会を実施するなどの対策を引き続き講じていきたい。

4. 今後の改善に向けて

基本的には学生より高い評価を得ることができたといえるが、改善の余地はある。まず、2. の第2段落で指摘した、「IV1（基礎ゼミナール1）経済関連の文献を読む力がついた」が相対的に低い数値となっていることについてである。これに関連して、「IV 学部等による設問」において相対的に平均値が高い項目について見ると、「IV5（情報処理入門1）WEB上から経済資料・統計資料を入手する力が身についた」が 4.30、「IV3（情報処理入門1）表計算ソフト（Excel）の応用力が身についた」が 4.29、「IV2（基礎ゼミナール1）レジュメやレポート作成の力がついた」が 4.28 となっている。これらの高い数値は、演習科目である「基礎ゼミナール」および実習系科目である「情報処理入門」において、教員によるきめ細かい指導が行われていることを反映しており、今後はそこに、いかに「経済文献を読む力」をつけるための仕掛けを組み込んでいくのか、という点に絞って取り組みを行いたい。

次に、2. の第3段落で指摘した、「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」の数値が相対的に高い一方で、「自分にとって新しい考え方・発想」、「自分で調べ考える姿勢」、

「学問的興味」の数值はいずれも相対的に低くなっていることについてである。この点は過年度からの改善すべき課題として認識されてきたが、引き続き学生（とりわけ1年次生）に対して時事問題に対する意識や経済学そのものへの関心を高める継続的試みが必要と考えられる。講義内容に関係する現在進行形の社会問題や政治経済問題をタイムリーに提供し、学生の「学問的興味」を掻き立て、発展的な学習につなげる環境の構築が不可欠である。

4-3 理学部

1. 科目選定方針とねらい

2022年度の「1教員1科目」という全学の科目選定方針、および経年変化を調査するため同じ科目を選定するという理学部の方針に沿って、数学科は2022年度から新設の必修科目・選択必修科目、物理学科は原則すべての講義科目（複数教員担当科目を除く）、化学科は必修講義科目と選択講義科目（原則、複数教員担当科目を除く）、生命理学科は改善策の具体的効果を確認するため前年度と同じ科目を選定した。複数の科目が教員一人の担当とならないよう重複は避けた。共通教育科目は履修者数の少ない科目、ゼミナール科目を除いて実施した。理学部独自の設問についても例年通り行った。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

理学部の回答率は33.1%で、全学平均の34.2%とほぼ同等で、また昨年度の回答率33.8%から微減であった。数年前から現れた減少傾向は下げ止まりつつあるようである。一方で、学年ごとにおける回答者数（延べ人数）は、1年生1,149名（2021年度912名、2020年度685名）、2年生636名（2021年度761名、2020年度460名）、3年生657名（2021年度404名、2020年度241名）、4年生127名（2021年度50名、2020年度56名）、その他10名とやや増加傾向にある。

個別の設問項目を見ていくと、「(I2) この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）」は1.93時間で、昨年度1.67時間から微増している。「(IV3) 授業で困った際に、練習問題を解き合う等で学生同士が共同して解決策をとった」は、昨年度の3.70から4.15へ増加している。「(II3) この授業でよいと思った点はありますか」、「(II5) この授業で改善すべきだと思った点はありますか」、「(III1) この授業から得ることができたものはありますか」の項目については、前年度から大きな変動はない。

学科間の比較では「(I1) この授業に積極的に参加した」、「(II1) 各回の授業内容は明確だった」、「(II2) 教員の伝え方はわかりやすかった」、「(III3) この授業を受けて満足した」で生命理学科のポイントが低い。「(I2) この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）」は物理学科が他学科よりも1時間程度長い。「(IV4) 教員は高校までの授業スタイルとの違いを考慮して授業展開してくれた」では数学科のポイントが高い。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

アンケート回答率が低いため、アンケート結果をまともに受け止めて良いものか戸惑う意見が多かった。以前は講義内でアンケート用紙を配付して回収していたので、出席している学生のアンケート回収率はほぼ100%であったのが、Webでアンケート調査をすることになったことに回答率低下の原因がある。アンケートに回答する学生は講義にも真剣に向き合っている傾向があると想像されるため、アンケート結果にもバイアスががかかっていると考えるべきである。

1) 学生の意見（記述による評価）の集約

肯定的な意見：スライドや動画資料がわかりやすかったという意見が多い。オンデマンド動画は理解に役立つという意見が多く、否定的な意見はない。余談や雑学がおもしろかった

という意見があった。100分授業では集中力を保つために途中で息抜きも必要である。ただし、これらの肯定的事項による学修効果は検証が困難である。

否定的な意見：演習問題の解答や解説が欲しい、話し方、内容の展開が速すぎる、板書が速すぎる、字が小さくて見え辛いなどの意見があった。

2) 担当教員の所見の集約

多くの教員は講義に対して肯定的な評価をする学生が多いと感じているが、前述のように回答率が低い中、それを真実と捉えてよいか疑問を感じている。講義を録画して配信している教員は少ないが、学生からは好評のようである。教えたい事柄が多いのに、教えられる時間は限られることに悩んでいる教員が多いようだ。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

個々の講義によって、例えば「配付資料が少ない」、逆に「配付資料が多すぎる」という不満もあり、「資料の棒読みだ」という意見がある一方で、「資料に沿って講義してほしい」というような、相反する意見が寄せられている。したがって、それらの要望には各教員が個別に対応するしかない。

4. 今後の改善に向けて

アンケート回答率を向上させるために、講義時間内に時間をとるなど、確実に回答してもらう工夫が必要である。

学生は問題の解答や解説、講義の資料、オンデマンド動画の配付などを求めている。それらは、解をできるだけ簡単に得ることをよしとする風潮や自ら考えることを疎む傾向の現れではないかと思われる。学生自らの思考を促すには、どのように答えるのが正しいのか考える必要がある。

授業評価アンケートは担当教員による個々の講義についての授業の改善に役立っていると言える。

4-4 社会学部

1. 科目選定方針とねらい

対象科目の選定方針は前年度を踏襲し、以下のとおりとした。

①必修科目はすべて実施する

②講義科目については、科目の種類を問わず、なるべく「年間1教員1科目」となるように選定作業を行う

2012年度導入の現行カリキュラムでは、従来学科別に行われていた初年次、2年次の必修科目を学部共通の必修科目と位置づけ、これまで以上に学部として基礎教育の充実を目指すことになった。これらの科目に対する学生の評価は、今後の基礎教育のさらなる充実を考慮すると、重要なものとなる。①については、2011年度まで「必修・選択必修の講義科目は、原則としてすべて実施する」というやや緩やかな方針をとっていたが、基礎教育を重視するカリキュラム改訂の実施を踏まえて、2012年度から必修科目は全て実施するという変更を行った。2022年度は「1教員1科目」の原則による実施が全学の科目選定方針であるが、社会学部においては②を2007年度以降選定方針としており、2022年度についてもこれに準拠した。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

2-1 授業規模別

50名以下を「S」、51～100名を「M」、101～150名を「L」、151名以上を「LL」として、社会学部104科目の結果を見てみたい。このとき、授業規模が大きくなるほど対象授業数が減るため、特に対象授業数の少ないLやLLクラスの平均値は、特定の授業の回答傾向に影響を受けている可能性も考慮する必要がある。例年は、授業規模が小さいほど評価が上がる傾向にあるが、2022年度の評価は、 $S > M > L > LL$ という単純な関係でないものが多い。

Ⅱの「教員の授業改善に向けて」の二つの設問「各回の授業内容は明確だった」と「教員の伝え方はわかりやすかった」は、 $S > M > L > LL$ のように授業規模が小さいほど評価が上がる傾向を見せている。Ⅰ「学生の学習姿勢」のⅠ1「この授業に積極的に参加した」については、 $M > L = S > LL$ の順で、Ⅰ2の「授業以外に学習した時間」については $LL > M > S > L$ の順であり、クラスの規模との関連はほとんどない。

Ⅱの「教員の授業改善に向けて」についてⅡ3「この授業でよいと思った点」とⅡ5「この授業で改善すべき点」の両項目とも授業規模との関連はほとんどない。Ⅱ3において多く選択されたのは、①配付資料（授業のレジュメなど）と、③パワーポイントであり、それに④動画等の映像視覚資料が続く。Ⅱ5については、授業規模に関わらず約6割の学生は⑥の上記にあてはまるものがない、を選択しているが、相対的に選択したものが多かったのは①の配付資料であった。

またⅢ1「この授業から得ることができたものはありますか」のうち、④「学問的興味」については、 $S > M > L > LL$ の順に減っていく。

2-2 学年別

学年別の延べ回答者数は、学年が上がるにつれて回答者数が減る傾向にある。興味深いことにⅠの「学生の学習姿勢」では1年生と3年生が2年生と4年生より積極的な姿勢を示

すが、I2の授業以外の学習時間に関しては逆の結果であり、2年生と4年生は1週間に1時間以上に対して、1年生と3年生が1時間未満という結果であった。II「教員の授業改善に向けて」のII1「授業内容が明確だった」とII2「教員の伝え方はわかりやすかった」の項目、そしてIII3「この授業を受けて満足した」の項目は学年が上がるほど満足度や理解度が高まる傾向である。

授業の改善点については、II3の「よいと思った点」では1年生の回答の中で多く選択されたのは「①配付資料」、「③パワーポイント」、「④動画等の映像視覚教材」の順である。2～4年生は「①配付資料」、「④動画等の映像視覚教材」、「③パワーポイント」の順であり、動画教材を評価する意見がやや多い傾向である。II5の「改善すべきだと思った点」は学年の影響が見受けられず、「⑥上記にあてはまるものがない」が6割弱で、それに①配付資料、③パワーポイント、②板書が続く。

2-3 学科別

学科別のデータでみると、I1「この授業に積極的に参加した」、I2「この授業に関連して、授業以外に学習した時間」、II1「各回の授業内容は明確だった」、II2「教員の伝え方はわかりやすかった」、III3「この授業を受けて満足した」の5項目において現代文化学科のスコアが最も高く、それに続いて社会学科、メディア社会学科の順であった。社会学科もメディア社会学科もI2の授業外学習時間は週に1時間を下回る水準である。II「教員の授業改善に向けて」のII3「この授業でよいと思った点」ではメディア社会学科の①配付資料への満足度は社会学科の半分程度だが、他方では④動画等の映像視覚教材への満足度は社会学科の2倍以上の水準で、学科の特徴によって異なる結果が出たといえる。全体的にはメディア社会学科の学習姿勢に気になるところがあるが、III「学生が授業に期待するもの」では3学科は同様の水準の満足度である。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

全体として回答者数が少ないという指摘があり、履修学生全員を代表できない意見として受け止められた様子だった。授業に対しては肯定的な評価が多く、学生の履修満足度が高く、受講態度も良好であったという意見が多かった。2022年度は新型コロナウイルス感染症によるパンデミック以来、3年ぶりの対面開講で、対面授業の良さに関する記述がある一方、他方では大人数授業でハイブリット形式を取り入れることによって技術的問題が生じるケースもある。中にはオンライン授業ならではの双方向的なコミュニケーション及び授業運営のしやすさなどの利点を言及する教員も少なくない。

学生から肯定的な意見として、リアクションペーパーのフィードバック、映像・データ資料の使用、配付資料の読みやすさ、そして授業をきっかけに「将来についてちゃんと考えるようになった」という、授業目標そのものの記述もあった。学生からの否定的な意見として、教室の私語が多い、内職をする学生がいる、パワーポイントの捲りスピードが早すぎる、配付資料の中身に関する指摘（毎週配付して欲しい、内容が難しすぎ、字が小さすぎ）、教員の話し方への改善のリクエストなど、授業内容に直結する意見よりは教学環境に関する意見が多い。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

3年ぶりの対面授業に、教室の秩序維持と講義の進行に関して改善したいという意見が多数ある。とりわけ大人数で大教室開講の科目にはその傾向が強く、対面の利点を十分に活かせず、全体に話しかけることが中心の授業形態となってしまったとの反省の声があった。来年度は授業の精度をより精密に管理したい、満足度を上げていきたいという記述がみられる。

また、授業内容について学生の声の一部に、シラバスの記載をもう少し詳しくしてほしいという意見があり、それに対して改善に努めたいという記述がある。ゲストスピーカーの再検討を取り上げた教員側の意見もあり、対面形式の中でいかにして授業環境を再整備して、学生の勉学と学問への関心を引き出せるのか、教員が工夫を行っていることがうかがえた。

2021年度はオンライン形式への批判的な記述が多かったのに対して、2022年度は対面実施によってオンライン形式の良さに気づかれたケースもある。学生と双方向の対話ができるなどオンラインの利点を重視し、次年度からオンライン中心に変更したいとの記述があった。

4. 今後の改善に向けて

2021年度の総評はオンライン授業を前提にしたものであり、2022年度は対面での授業に戻っており、それによって両者の問題が同時に露呈した部分があるように思われる。対面での開講によってオンライン特有の問題は解消されたが、逆にオンラインの双方向の対話という利点を今後の授業にも活かしておくべきという側面が浮上した。対面授業とオンライン授業の併用や活用の仕方については、今後も継続した課題となるだろう。

社会学部では、授業期間中はほぼ月1回のペースで、必修授業や実習、演習などの授業形態のテーマを立ててFDを実施しており、授業で生じた（生じうる）様々な問題点の共有をはかっている。アンケートの結果は、全体として良好だと評価できるが、その中でも指摘された問題点については、FDなどを通じて情報共有に努め、改善をはかっていきたい。

なお、授業によるが、アンケートの回答率の低さも問題であろう。回答率が低いということは、回答の代表性に疑念を生じさせる原因となる。アンケートの信頼性を高めるためにも、個々の教員の通知に頼るだけでなく、立教時間やBlackboardを通じて学生に一斉アナウンスするなど、回答率を高める工夫が必要とされているように思われる。

4-5 法学部

1. 科目選定方針とねらい

法学部では、2011年度より、全教員（専任・兼任）について授業評価アンケートを行うのは3年に1回とし、それ以外の年度は、本学で初めて授業を開講する教員および実施を希望する科目を対象にアンケートを行うことにした。

2022年度は、全教員（専任・兼任）につき授業評価アンケートを実施する年度に該当する。そこで、①講義科目については1教員1科目を対象とし、②演習科目は対象としない、との選定方針にもとづき、合計70科目につき授業評価アンケートを行った。大人数科目が多い法学部においては、講義科目における教育が容易ではないことに鑑み、これらの授業の改善を重視している一方、演習科目においては少人数を対象としておりアンケート調査が行いにくいという事情があるためである。

なお、毎年度の全教員についての授業評価アンケートの実施をとりやめたのは、授業評価アンケートも回を重ねるにつれて、アンケート結果に対して授業改善に取り組むという姿勢が浸透しているため、3年に1回のアンケートで、学生からの意見のフィードバックとしては十分であると考えられるためである。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

集計データを参照し、回答率、設問項目別平均値、授業規模別平均値、学年別平均値の結果についてまとめる。

回答率は、25.4%であり、低下していた昨年度（25.9%）から数値上はさらに若干低下しているものの、ほぼ昨年度と同水準であった。他学部の回答率と比較しても低い部類に属するが、昨年度と同様、回答率の高い学部と低い学部にて二極化しているようである。いずれにせよ、3割にも満たない学生からの回答であることは、このアンケート結果の分析において念頭におく必要がある。

設問項目別平均値については、対象科目の範囲が大きく異なることから昨年度との単純な比較はできず、また、設問の変更があったことや、コロナ禍におけるオンライン授業を中心とした時期を挟んでいることから、一昨年度以前との比較も困難である。そのような比較の限界はあるものの、強いて述べるならば、各項目の平均値は、概して2021年度よりも数値が下がっているように見えるものの、全体的な評価傾向に大きな違いはないようである。

Ⅱ1「各回の授業内容は明確だった」（4.30）は、昨年度よりも数値自体は低下しているが、依然として高い値を示している。Ⅱ2「教員の伝え方はわかりやすかった」（4.17）も同様に、引き続き高い。Ⅱ3「この授業でよいと思った点（複数選択可）」としては、①「配付資料（授業のレジュメなど）」を挙げる者が多く（58.1%）、他面で、昨年度多かったとされる②「板書（電子媒体のものを含む）」が17.6%と、そこまで高くなかった（2021年度は40.0%）。ただし、③「パワーポイント」を挙げる者は31.8%であった。昨年度と比べて対象科目において採用している授業運営方法の分布に違いがあったかもしれないが、総じて、講義資料として提供されている資料については肯定的な評価が多くなされているといえそうである。このことは、昨年度と同様に、Ⅱ5「この授業で改善すべきだと思った点はありますか（複数選択可）」において教材に関する改善要望の割合が総じて低いことにも表れている。Ⅲ1「この授業から得ることができたもの（複数選択可）」としては、②「授業で扱った分野に

関する基本的な専門知識」を選択した者が 69.7%と最も多く、次いで④「学問的興味」(43.4%)、①「自分にとって新しい考え方・発想」(38.8%)が多かった。昨年度に引き続き、今年度の講義も、学生の自主的な学習を促すという長年の課題に対して十分に働きかけたものといえよう。これらが、Ⅲ3「この授業を受けて満足した」(4.26)という高評価につながった。ただしⅠ2「この授業に関連して、授業以外に学習した時間(平均して、1週間に)」という設問への回答は平均 1.17 時間(回答者 1,642 名)と減少(昨年度は 1.27、回答者 377 名)している。Ⅰ1「この授業に積極的に参加した」は 4.18 と比較的数値が高いにもかかわらず、授業外の学習時間が短い点は、学生の受講態度について懸念を感じさせるものである。

授業規模別平均値であるが、2022 年度は、50 名以下が 47 科目、51～100 名が 15 科目に対して、101～150 名と 151 名以上がそれぞれ 4 科目しかない。その点は留意する必要があるが、全体として授業規模と各項目の回答傾向に顕著な関連は見出されない。ただし、授業規模が大きいものほど、若干ではあるが回答の平均値が高めに出ていることから、これらの大規模授業においては、その運営の困難さに比して、学生の理解や満足を高めるための教員の努力が一定程度の効果をあげているといえよう。

学年別平均値についてであるが、2022 年度は、学年ごとの平均値に顕著な差はみられない。強いて言えば、1 年生において、授業への積極さの程度(Ⅰ1)と満足度(Ⅲ3)がやや高めであり、初年次教育への配慮が一定の効果を上げているのかもしれない。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

担当教員の所見では、各教員が、学生の率直な評価を真摯に受け止め、相対的に評価の低い項目があった場合については、次年度以降に改善を試みる姿勢を明らかにしている。とりわけ、講義資料の在り方等について賛否両様の意見があるような場合であっても、改善すべき点は改善するとして、積極的に自身の授業方法の見直しに役立てようとする姿勢がみられた。

他方で、回答率が低いこともあり、このアンケート結果についてどのように受け止めるべきか、率直に迷いがあることを表明しているものもみられた。アンケートの回答率は学部によって高いところと低いところが二極化しているようであるが、法学部はそのうち後者に属している。今後アンケートの回答率向上を図ることは、教員がそのフィードバックを適切に吟味するためにも重要である。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

講義資料に関して、その見やすさや情報量の点について改善を約束するコメントが多い。また、学生の要望と、授業内容の水準の両立を意識し、その調整を図っていくことを目指しているコメントも多くみられた。他方で、教室の温度管理などについても教員に配慮を求めるものがあつたようであり、これらの講義内容自体とは直接に関連しない部分については、なるべく教員が負担を負わずに済む環境が整えられることが望ましいとも考えられる。

4. 今後の改善に向けて

2022年度の授業評価アンケートの結果においては、「教員の授業改善に向けて」(Ⅱ)に関する項目や、「学生が授業に期待するもの」(Ⅲ)について、学生が全体的に高く評価しており、このことは、質問項目の変化はあるものの、概ね例年と同様の結果であった。一方、このような高い評価と比較すると、学生の授業以外での学習時間が十分ではなく、低下傾向にあるようにみえることは残された課題である。

2021年度までは、コロナ禍におけるオンライン及びミックス型授業への対応が重点的に対応すべき課題であったが、2022年度からは原則対面式で授業が行われている。その結果、2021年度においてミックス型に移行していく中で予想されていたことであるが、空調や音響・板書等に関する、コロナ以前に頻出した不満が「復活」しているようにみえる部分もあった。なるべく授業の内容以外の事柄について気にせず、教員が授業に集中できることが望ましいと思われるものの、大教室の設備面については構造上致し方ない点があることも事実であるので、引き続き、冷暖房についてはその場で教員に申し出ることや板書の見えやすい位置に座席を移動することを授業時に複数回アナウンスすることをベストプラクティスとして共有し、改善を図っていくことにしたい。

4-6 経営学部

1. 科目選定方針とねらい

「立教時間」を用いた Web 方式による「授業評価アンケート」において、経営学部はこれまで通り 2~4 年次演習および BLP・BBL 関連科目を除いて、原則として全科目を対象に、春学期 33 科目、秋学期 27 科目で実施した。全科目を指定している理由は、「学生による授業評価アンケート」の結果は、授業を担当する教員に対して重要なフィードバック効果をもたらし、授業の質を高めるのに寄与するものと考えているからである。なお、BLP および BBL 関連科目について実施しない理由は、これらの科目が独自性の強い演習系の科目であることから、学部で独自に詳細なアンケートを実施しているためである。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

まず、回答者数について、履修者数11,576名に対し回答者数1,682名で、回答率（回答者数/履修者数）は14.5%だった。2021年度の回答率は23.8%であり、他学部と比較して回答率が最も低いことから、2022年度においてもWeb方式による実施の周知や実施の徹底が十分ではなかったと推測する。

次に、学生側の授業に対する取り組みについて、2021年度と比較して、「この授業に積極的に参加した（I1）」は4.25（2021年度は4.32）で、回答者はオンラインから対面へと形態が変化していった2022年度においても積極的に授業に取り組んでいたことがうかがえる。ただし、アンケート実施科目の回答率が前述の通り14.5%ととても低いことを考慮すれば、アンケートに回答するような積極的に参加する学生と、そうでない学生の取り組み方に差が生じている可能性が懸念される。

それ以外の授業に対する取り組みとして、「授業以外に学習した時間（I2）」について、平均値は1.36時間（2021年は1.26時間）で、平均では、回答者は昨年度と比べてやや多い学習時間を取ったことになる。具体的には、約16.5%の学生が0時間、約59.1%の学生が1時間、約16.4%の学生が2時間、約8.1%の学生が3時間以上と回答している。また、授業規模別（回答者数別）にみると、50名以下が1.43時間、51名~100名が1.32時間、101名~150名が1.19時間となっており、2021年度では規模の違いによる大きなばらつきはみられなかったが、2022年度は規模が大きいほど時間が少ない傾向となっている。学年別にみると、1年1.72時間、2年1.21時間、3年1.38時間、4年1.20時間となっており、学年によってばらつきがあるが、2022年度においても、オンラインから対面へと形態が変化する中で、適切な量の予習・復習につながる課題の工夫などが進んだと考えられる。

授業の進め方について、「各回の授業内容は明確だった（II1）」に関しては、2021年度の4.30から4.36へと評価がやや高まっている。規模別には、50名以下では4.36（2021年度4.29）、51名~100名が4.35（2021年度4.32）、101名~150名では4.36（2021年度4.20）となっており、差はみられない。「教員の伝え方はわかりやすかった（II2）」に関しては全体の平均が4.25（2021年度4.15）、規模別には、50名以下では4.23（2021年度4.11）、51名~100名が4.26（2021年度4.13）、101名~150名では4.33（2021年度4.04）となっており、差は非常に少ない。2022年度は101~150名の科目が2科目だったため、該当科目の特性が強く出ている可能性がある。

教員の授業改善に向けて、「この授業でよいと思った点はありますか（II3）」において

①配付資料は57.9%、③パワーポイントは41.0%が評価しており、オンラインでも対面でも、授業の中で教員が工夫したことが推測される。また、「この授業で改善すべきだと思った点がありますか（Ⅱ5）」において56.5%が⑥上記にあてはまるものがないと回答しており、半数以上が評価していると推測できる。

学生が授業に期待するものに関して、「この授業から得ることができたものがありますか（Ⅲ1）」に関して、評価の多い順に②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識（70.8%）、①自分にとって新しい考え方・発想（48.7%）、④学問的興味（36.2%）、③自分で調べ考える姿勢（18.7%）となっており、いずれの規模、いずれの学年も同様の傾向がみられた。「③自分で調べ考える姿勢」を選択する学生が比較的少なく、昨年と比較して減少していることから、これをさらに改善する必要があると考える。

「この授業を受けて満足した（Ⅲ3）」は2021年度の4.25から4.35に若干改善しており、オンラインから対面へと形態が変化した中でも学生から高い評価を得られたといえる。規模別には、50名以下では4.34、51名～100名が4.38、101名～150名では4.30となっており、それぞれの差は非常に少ない。一方、学年別にみると、1年4.23、2年4.38、3年4.34、4年4.41となっており、2022年度は1年生の満足度が他の学年に近づく傾向にある。この傾向を維持するため、低学年の学生や受講生数の多い授業に対する何らかの対応を引き続き検討していく必要があると思われる。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

「授業評価に対する担当教員の所見」では、オンラインから対面へと形態が変化する中での実施に伴って、評価項目への教員自身の分析が多くみられた。

肯定的な評価・意見としては、講義内容・レジュメの量の調整、小テストなどを活用した学生の学びの確認、学生とのインタラクションの確保、ゲストスピーカーの招請や、講師自身の経験の共有などに関して、取り組みの効果への言及がみられた。

否定的な評価・意見としては、使用する教材や配付資料の改善、オンライン授業で効果的にグループディスカッションや課題・テストを行う方法、動画などの効果的な活用による効率的な授業運営、リアルタイムでの学生とのインタラクションの確保などの改善、などへの言及がみられた。

なお、科目によって所見における記述の有無や詳細度にも差がみられたため、今後の検討課題としたい。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

「改善に向けた今後の方針」においては、新型コロナ対応が社会的に変化し、対面形態への移行が進む中で、オンライン形態をどのように継続して活用するのか、など、オンライン形態の利点をより活用する工夫（チャットやブレイクアウトルームの活用）などについて言及がみられた。また、課題を適切な量やレベルにすること、学生の理解を確認する方法の工夫など、学生の学びの質を確保するための教員側の前向きな姿勢が示されている。今後のFD活動でもフォローしていきたいと考える。

4. 今後の改善に向けて

2022年度の評価結果をまとめると、比較的高い評価を得ており、オンライン形態から対面形態へ移行した場合においても、経営学部では授業の質の改善が着実に進んでいることがうかがえる。

今後のさらなる改善が望まれる点として、対面形態への再適応と、オンライン形態の活用がある。2023年度は、オンライン形態は1年次の必修科目系、受講者数が多い大規模な科目、パソコンを使う演習が多い科目などにのみ認めることとした。その結果、多くの科目が次第に対面をメインとするようになった。こうした状況で、学生の学習の質を上げるために、「静粛性の確保」など対面で授業を行う際の規律づくり、より一層学生の授業へのエンゲージメントを高めることや、配慮が必要な学生へのミックス形態の授業運営など、教員だけでなく学生にも、より複雑な対応が求められる。この課題については、各教員の創意工夫や情報・知識を共有してベスト・プラクティスを学び合うなどの対応が有効であろう。

また、学生自身から寄せられたコメント（記述による評価部分）にもしっかり耳を傾け、講義を継続的に改善していく必要がある。学生による評価は、教員に講義の問題点を気付かせ、改善・発展を促すきっかけとなる。学生の評価は高いので、次年度もその傾向が途切れず続くことを期待したい。

4-7 異文化コミュニケーション学部

1. 科目選定方針とねらい

異文化コミュニケーション学部では、「1 教員 1 科目」の原則に基づき、全体として 95 科目（春学期：44 科目、秋学期：51 科目）を選定し、2022 年度授業評価アンケートを実施した。講義科目および一部演習科目を対象とし、専門演習、実験、集中や実技を伴う科目と複数教員担当科目は原則として対象としなかった。この選定方針のねらいは、1) 各教員の授業改善という授業評価アンケートの主たる目的を達成すると同時に、2) 2024 年度の学部カリキュラム改編及びその実施のための参考資料とすることにある。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

今年度対象とした 95 科目（春学期：44 科目、秋学期：51 科目）のうち、実施科目数（回答者 5 名以上の科目）は、67 科目（春学期：34 科目、秋学期：33 科目）であった。全体回答者数（延べ）は合計 1,112 名、学年別では 1 年次 395 名、2 年次 315 名、3 年次 282 名、4 年次 105 名、その他 15 名であった。全回答率は 40.9%であり、全学の回答率の平均の 34.2%を上回った。

まず、設問項目 I の「学生の学習姿勢」（2 項目）では、「I 1 この授業に積極的に参加した」の学部平均は 4.32 であった。この数値から多くの学生が積極的に参加したことがうかがえる。また、学年によって数値にばらつきがあり、1 年次は 4.26、2 年次は 4.40、3 年次は 4.32、4 年次は 4.34 であり、2 年次が最も高く、1 年次が最も低かった。

設問項目 I の「I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）」の時間量は 1.54 時間であった。設問項目 I と履修者数の関係についてみると、I 1 の積極的参加については、50 名以下の科目の平均値が 4.36、51～100 名の科目の数値が 4.20 であり、履修者数が多いとやや数値が下がっている。一方で、I 2 の学習時間については、50 名以下が 1.51 時間、51～100 名が 1.64 時間であり、履修者数の多さにもかかわらず、後者のほうが数値が高い。

設問項目 II 「教員の授業改善に向けて」（6 項目）では「II 1 各回の授業の内容は明確だった」の学部平均は 4.43、「II 2 教員の伝え方はわかりやすかった」の学部平均は 4.38 であった。前者は、全学平均（p.75 全学①の数値）の 4.36 を 0.07 ポイント、後者は全学平均（p.75 全学①の数値）の 4.25 を 0.13 ポイント上回りやや高い水準であった。自由記述には、難解な内容についてもう少しかみ砕いて説明してほしいといった要望を述べた学生もいたが、全体として双方ともに高い数値を示した。また、履修者数によって数値に変化がみられ、50 名以下の科目では II 1 の授業内容の明確さについて 4.45 であるが、51～100 名科目の場合、4.38 と下がり、II 2 の伝え方のわかりやすさについては、前者が 4.40 で後者が 4.30 とこちらも数値が下がっている。

「II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】」では、全体として「配付資料（授業のレジュメなど）」（52.9%）（昨年度 46.6%）、「パワーポイント」（48.1%）（昨年度 40.9%）、「動画等の映像視覚教材」（33.5%）（昨年度 19.8%）の評価が高く、昨年度よりも高い水準にあり、授業に改善の跡がみられる。

「II 5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】」の結果をみると、「配付資料（授業のレジュメなど）」（11.5%）と「パワーポイント」（7.9%）が他の選択肢

より比較的高い数値であった。これら 2 つは前述した「この授業でよいと思った点がありますか」でも選ばれているが、同時に改善すべき点としても挙げられている。この点に関する自由記述において、授業で使われたレジュメやパワーポイントが Blackboard で共有されなかったり、文字が見えにくかったりした例が述べられていたことから、こうした指摘がこの数値の理由の一つであると推察される。

「Ⅱ6」の改善点に関する自由記述では、上述したレジュメやパワーポイントが見つらい点、レジュメやパワーポイントが Blackboard で共有されないといった点に加え、パワーポイントの説明が速く進むため、メモが取れないといった授業のスピードに関する点、成績評価の基準が曖昧であるといった点に対する難しさなどが言及された。

設問項目Ⅲの「学生が授業に期待するもの」(3項目)における「Ⅲ1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】」では、「①自分にとって新しい考え方・発想」(62.8%) (昨年度 56.1%)、「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」(65.7%) (昨年度 50.5%)、「③自分で調べ考える姿勢」(27.3%) (昨年度 41.1%)、「④学問的興味」(45.6%) (昨年度 38.7%) であり、注目すべき点は「③自分で調べ考える姿勢」(27.3%) (昨年度 41.1%) で昨年度よりも大幅に数値が下がっていることである。「Ⅲ2 Ⅲ1 以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】」では、語学力、母語(日本語)に関する関心・知識、特定のトピックに関する知識、創作活動の面白さ、日常生活(実践)と学問的知見とのつながりを見出すことができた点、批判的思考、多面的思考などについて言及されていた。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

昨年度同様、担当教員の 7 割近くが所見を記入した。記述内容としては、一方で、アンケート結果での全体的な高評価を前向きに捉えつつ、授業で達成できた点を確認したり、学生への感謝を述べたりする傾向があり、他方で、満足度が低かった学生からのコメントについては反省的な記述をしつつ、今後の改善にむけた取り組みについて具体的に述べる例が多くあった。具体的な課題として、提示情報の多さ、パワーポイントの文字情報の多さと図表の少なさ、テストの告知のわかりづらさ、ディスカッションでのやり取りがうまくいかなかったことなどに関する反省が述べられ、反省に基づき今後取り組みたい工夫・改善策について言及されていた。

4. 今後の改善に向けて

アンケート結果の数値および自由記述を概観すれば、全体として多くの学生が授業に満足している様子がうかがえ、今回調査対象となった科目群が多くの学生の立場からも肯定的に捉えられるものであることが確認できた。昨年度(2021年度)の報告書において、重要な課題として「対象科目の属性にもよるが、学生が授業に期待するもののうちの設問Ⅲ1の「④学問的興味」を得られたという回答がやや低かった点」が指摘されたが、2022年度は、その数値が昨年度に比べ 6.9 ポイント上昇した点は評価できよう。一方で、「③自分で調べ考える姿勢」の数値が昨年度に比べ 13.8 ポイントも下がっており、学生の主体性を重んじる学部教育を目指す異文化コミュニケーション学部としては、学生自身が自分で調べる力を育む機会をさらに設け、改善をしていく必要がある。今回の授業評価アンケートで得た結果を、2024年度の学部教育の編成・実施方針ならびに実施において活用したい。

4-8 グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター

1. 科目選定方針とねらい

グローバル・リベラルアーツ・プログラム（以下、GLAP）では、演習系科目・夏季集中科目を除く GLAP の科目のほとんどについて授業評価アンケートの対象としている。今年度は 32 科目が対象であったが、GLAP はその規模の小ささから回答者数が 4 名以下の科目が多く、データ集計の対象となったのは 12 科目、延べ回答者数は 120 名となった。2021 年度の 17 科目、247 名に比べると科目数、回答者数ともかなり減少している。2022 年度にはコロナ禍により通常より遅れて留学をした学生が多く、また、1 年次の入学者数がやや少なかったことからクラスサイズがより小さくなった影響があるかもしれないが、回答率が相対的に低い科目もあるので、より回答者数を増やすべく注意喚起を続ける必要はある。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

設問項目別の平均値では、各項目で学年によらず 4.3 前後という高い水準を前年までに引き続き維持しており、授業満足度が高く、学生が授業のねらいを概ね実現できていることを示している。特に授業以外に学習した時間が 2.64 時間と昨年と同じく高い値を保っている点は重要だろう。

設問項目別回答割合をみると、全体としては教員の授業運営、特に教員と学生間のコミュニケーションは肯定的に受け止められていると考えられる。対面の授業に戻ったこともあり、パワーポイント、Blackboard や映像視覚教材の使用に関する評価が高い。パワーポイントの文字の大きさ、色使い等に関する改善や、スライド、レジュメを Blackboard にあげてほしいという要望も一部に残っている。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

2021 年度には科目担当者から集計対象となった 17 科目のうち 14 科目で所見を記入いただいたが、今年度は所見の記入をいただけなかったケースが半数となった。記入いただけなかった科目は回答者数が数名であるため所見を付けることが困難であったものと思われる。

提出いただいた所見では、多くの学生から寄せられた肯定的な意見に感謝するコメントが多かった。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

対面の授業に戻ったことで、パワーポイントの構成、字の見やすさなど、技術的な改善点の提案がいくつかあった。学生のレベルの多様性から、議論に積極的に参加しない（できない）学生がいたことに関し、巻き込む努力をしたいとのコメントもあった。

4. 今後の改善に向けて

多くの科目でアンケートを実施しているにもかかわらず、回答者数が 4 名以下となった科目が多かったのは残念である。アンケートの時期にリマインドを行う等、改善する努力が必要であろう。

Humanities、Citizenship、Business という 3 つの専攻分野ごとに科目履修のあり方に

違いがみられるかという点が課題であったが、集計された 12 科目のうち分野別の科目は 5 科目のみであり、分析はできなかった。GLAP では 2024 年度よりカリキュラムを拡張した改定を予定しており、新たな科目を含めて引き続き分析を進めてカリキュラム点検作業に生かしていきたい。

4-9 観光学部

1. 科目選定方針とねらい

観光学部授業評価アンケート科目選定ルールと実際の選定手順を2022年4月12日開催の観光学部教授会において協議の上決定し、授業評価アンケート科目選定作業を実施した。
(選定ルール)

- (1) 原則として学部方針によって選定する2年間のうちに全教員1回1科目で実施する
- (2) 演習科目は対象としない
- (3) 複数教員担当科目は対象としない
- (4) 集中講義は対象としない

(選定手順)

- ①3年に1回の1教員1科目実施年
- ②複数科目を担当している教員は、原則として過去2年間に実施していない科目を対象
(ただし教員の希望により変更可とする)
- ③選定ルール上、演習系、実習系、集中科目、複数担当科目は実施対象外だが、希望があれば実施は可能

この選定ルールに基づき、授業評価アンケートを実施する科目の選定を行った結果、91科目(春学期47、秋学期44)で授業評価アンケートを実施した。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

授業評価アンケートの回答率が観光学部は23.7%と全学平均(34.2%)に比べて低く、学年ごとの回答者の内訳を見ると、回答率が高くなりがちな1年生の割合が25.0%と全体(54.6%)と比較して低いことに原因があることが分かる。これは、調査対象科目が2年生以上を対象とした科目を中心に選定されたことによるものであり、授業評価アンケートに対する学生の関心の低さを示すものではないと考えられる。

設問項目別平均値を通して、学生が自ら学ぶ姿勢が表れており、それが授業に対する満足度に結びついていることが予想できる。授業評価アンケートに積極的に回答する姿勢も授業への取り組み方の反映と受け止めることができる。ただし、授業以外に学習した時間は平均値で1時間程度と少なかった。

配付資料やパワーポイントなど授業を理解し復習するための教材に対する評価が高かった一方、配付資料に対する改善要望が他の項目に比べて高かった(17.1%)ことから、配付資料に対する学生からの期待は一定程度あることが分かる。授業前に自ら予習し、授業中にノートを取り、復習することが望まれるが、専門的な知識を学ぶにあたり分かりやすい手元教材があることが期待されていることが分かる。授業の内容に関しては、基本的な専門知識が得られた(61.3%)ことに加えて、新しい考え方や発想が得られた(52.7%)と学生自身は考えており、学問的興味が高まったと感じている学生も一定数存在する(38.6%)ことから、大学で学ぶ意義を多くの学生が実感していることが確認できる。

学生の学習姿勢は両学科で比較しても大きな違いが見られないが、授業改善についての期待回答を通して観光学科学生の方が交流文化学科学生よりも授業の教授方法についての満足度が若干高かった一方、観光学科の方が配付資料や板書への改善を求める割合が高かった。

授業規模で見た場合の授業の分かりやすさや満足度は、規模と反比例して下がっており、少人数の方が双方向の授業展開がしやすく教育効果も高くなっている可能性がある。ただし、アンケート実施科目 91 科目中、50 名以下の小規模授業が 82 科目と 9 割を占めており、51 名以上の科目は 9 科目しか実施していないため、個別の科目の特性が強く影響している可能性がある。少人数規模の授業ほど専門性が高くなるであろうことから、自ら調べ考える姿勢が見られるようである。授業規模が大きくなると、板書やパワーポイントが見え難くなるためか、配付資料や視覚教材などを通して学ぶことを学生たちが期待していることも分かる。

授業内容の明確さについては、大学での学びに慣れていない 1 年生で多少低い評価になっているが、学年進行にともない大学での学び方が理解できるようになるためか、授業内容の明確さや教員の伝え方についての評価が向上する。配付資料やパワーポイントに関しては、高校での学びが染み込んでいる 1 年生と大学での学びに馴染み始めた 2 年生以上とで評価の傾向が少し異なり、より専門的な授業が増えてくる 3、4 年生は、1、2 年生と比べて授業から得られる学問的興味に変化が生じる様子が窺える。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

学生の肯定的な評価・意見に対する教員の所見としては、概ね教員が意図した授業展開ができたことで、学生の満足度を高めることができたというコメントが多かった。また、レジュメの工夫や学生の興味を喚起する仕掛けを取り入れることで、学問的興味を高めることができたといったものや、前年度の授業評価アンケートで指摘された点を改善したことが今回のより良い評価につながったとするコメントもあった。

一方で、学生の否定的な評価・意見に対する教員の所見としては、教員それぞれが意図した授業展開の方法があり、それに沿った授業展開やレジュメ、資料、パワーポイントの活用方法、予習と復習の徹底などを周知していても、各授業の性質や受講の心構えなどを理解せずに受講している学生が多く評価の低さにつながったことを指摘するコメントが複数見られた。また、専門的内容を教えているため授業内容が難しいのは当然であるが、それを教員の授業方法への評価へとつなげることへの強い不満が窺えるコメントが散見された。2022 年度はコロナによる授業への規制が緩和され、オンラインから対面授業実施となった授業は配慮対象学生への対応もあり、学生のニーズに 100% 応える授業運営ができなかったというコメントもあった。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

リアクションペーパーに対する不満が多い授業が一定数あったことが窺え、オンラインを活用することで改善を図ろうとするものや、学生側にも理解を求めるコメントがいくつかあった。また、観光学が学際的な学問であり様々な専門知識を必要とすることからか、各専門分野に対する知識がない学生にどのように授業を展開するか悩みを抱えていると思われるコメントがいくつかあり、配付資料や話し方の工夫を今後の改善として挙げているコメントがある一方、学生側に講義を聞く姿勢を持つこと、ノートテイクの工夫、大学で学ぶことの意義を再確認することなどを要望するコメントも一定数見られた。2022 年度は 2 年

ぶりに対面授業に戻ったこともあり、教員と学生間の双方向のやり取りがコロナ前以上に難しくなったと感じている様子が窺えるコメントが複数あり、学生からの質問を授業内に受け付ける時間の確保や、一部演習スタイルを取り入れるといった改善点を挙げているものがあつた。本学で初めて講師を務めた方の意見として、**Blackboard** が使いこなせなかつたので、本学のシステムに慣れることを挙げているコメントがあつた。

4. 今後の改善に向けて

授業評価アンケートに記載された評価や意見を参考に、授業内容のみならず授業方法や配付資料の工夫まで見直すことを検討する先生方が多数おられ、授業改善に一定の効果があることが窺える。また、コロナが授業に与えた影響は必ずしもネガティブなものばかりではなく、コロナの際に工夫し作成した資料を対面でも活用したり、立教時間や **Blackboard** を積極的に利用した授業の効率化を図ろうとしたりする意見が多く散見された。これは、学生が意欲的に学ぼうとするインセンティブを高める仕掛けとして機能したと考えられる一方、依然として学生が自ら学ぶ姿勢の不十分さが窺えるコメントもあつた。全ての学生のニーズに 100% 応える授業を、教員側の工夫のみで達成することは困難だが、大学で学ぶことの意義や専門性を高めることの意義を分かりやすく学生に伝えていくことが重要となるだろう。

4-10 コミュニティ福祉学部

1. 科目選定方針とねらい

2022年度における科目選定方針は、以下の通りである。

- (1) 学部専任教員（助教含む）1科目以下の実施を原則とする
- (2) 演習科目は対象外とする
- (3) 昨年度実施科目を優先する

以上の結果、専任教員分 33 科目と兼任講師分 103 科目、合計 136 科目を授業評価アンケートの対象科目とした。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

2-1 全体を通じて

回答率は 29.3%であった。COVID-19 の影響によりオンライン授業あるいはオンデマンド授業が取り入れられた 2020 年度より年々回答率が低下しているが、2021 年度の 46.1%と比較すると今回は大幅に減少した。2019 年度が 69.4%であったことを考えると、2022 年度に授業のほとんどが対面授業に戻ったにもかかわらず回答率がさらに低下したことは、単に授業形態の影響とは考えられず、回答率の低下には何らかの対策が必要と考えられる。

表 1

	2019	2020	2021	2022
コミュニティ福祉学部	69.4%	53.5%	46.1%	29.3%
全学平均	61.4%	45.8%	37.9%	34.2%

回答率が全学平均よりも低位になることも初めてであり、原因を考察してみた。

- ・全学的に 2019 年度まではマークシート方式により授業内でアンケートが実施されていたが、2020 年度より Web 方式となり以後年々低下している。2021 年度に比較し 16.8 ポイントも低下していることは、単に方式が原因とも考えにくい。
- ・対象科目 136 科目について、不成立科目（回答者が 4 名以下）率は 11%であり、全学の 20.8%に比較、あるいは他学部との比較においても最も低位であることから、学生は比較的多く回答していたとも捉えられる。
- ・回答率が、不成立科目を含む平均回答率（31.9%）未満の科目の多くは授業外で回答させており（57.9%）、回答率が平均以上の科目の多くは授業内で回答していた（79.7%）。このことから Web 回答であっても授業内回答とすることで回答率を上げることが期待出来る。
- ・また、全学的に春学期においては「立教時間への負荷を避ける為に、平日 2・3 時限科目については、回答期間内に（授業時間外）に回答」するよう指示し、秋学期においては「当日の出席者数に応じて定められた時間帯を目安に実施」としたことも影響していると考えられる。今後開講時間により（回答方法）回答率に差異が生じるか分析していただきたい。

さらに、この低下傾向が専任教員ではどうであるかをみるため、学部専任教員が担当した科目のみで回答率をまとめてみたところ以下のとおりであった。

表2 専任教員担当授業回答率

履修者数	11	19	23	28	39	39	49	50	51	60	63	72	82
回答者数	9	16	19	17	17	23	22	21	45	42	6	28	55
%	82	84	83	61	44	59	45	42	88	70	10	39	67

履修者数	83	88	94	98	121	124	132	134	136	140	140	141	144
回答者数	31	56	78	8	89	17	60	7	28	14	37	51	51
%	37	64	83	8	74	14	45	5	21	10	26	36	35

履修者数	146	152	161	183	195
回答者数	8	63	89	25	116
%	5	41	55	14	59

履修者が比較的少ない（100名以下）授業において回答率が高いという傾向は認められるものの、120名あるいは190名を超える授業であっても回答率が50%を超えている授業もあった。逆に回答率が一桁しかないという授業も見受けられる。回答率が低い授業が2・3時限に開講されていて授業内に実施できなかったのかは不明であるが、それにしても低すぎる回答率については、アナウンスの仕方にも問題があったのではないかと推測される。

2-2 項目別

I 学生の学習姿勢 II 教員の授業改善に向けて III 学生が授業に期待するものについては、学部全体として以下のことがいえる。

A. (I1) 「I 学生の学習姿勢」のうち「この授業に積極的に参加した」は、4.28である。全学平均（全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目を除く）4.26をやや上回っていた。

B. (I2) 「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）」は1.12時間であった。長くこの項目では1時間を切る状況が続き、他学部と比較しても低位であったが、2020年度以降オンライン授業になってから、教員の多くが授業外での課題を課したり、試験形式の多くがレポート形式になったことから自宅等での学習時間が大幅に増加していたと考えられる。授業が対面に戻った2022年度においても以前に比較すると授業外での学習時間は比較的多いといえる。しかし、学科別にみると大きな差があった。全学平均（全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目を除く）1.23に比較するとやや低位である。

表3 年度別・授業外学習時間

年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
時間数	0.90	0.91	0.86	0.83	0.89	1.41	1.20	1.12

表4 学科別・授業外学習時間

福祉	コミュニティ政策	スポーツウエルネス
1.24	1.11	0.86

C. 「Ⅱ 教員の授業改善に向けて」

(Ⅱ1) 「各回の授業内容は明確だった」【4.34】

(Ⅱ2) 「教員の伝え方はわかりやすかった」【4.23】

「Ⅲ 学生が授業に期待するもの」

(Ⅲ3) 「この授業を受けて満足した」【4.32】については、すべての項目で全学平均（全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目を除く）を上回っており（4.32・4.20・4.28）、高い数値を示し好評価を得ていた。

2-3 設問項目別回答割合 Ⅱ教員の授業改善に向けて

表5 Ⅱ3 この授業でよいと思った点はありますか

	配付資料	板書	パワーポイント	視覚教材	シラバス
コミ福学部	61.0	11.5	35.8	31.7	5.1
全学	57.3	15.7	36.1	26.0	6.6

全学（全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目を除く）と比較し大きく違いがあるわけではないが、視覚教材と配付資料に特徴が有るようである。各学科とも実践的な内容を含むことからこうした特徴があると想像出来る。

表6 Ⅱ5 この授業で改善すべきだと思った点はありますか

	配付資料	板書	パワーポイント	視覚教材	シラバス
コミ福学部	12.7	5.9	5.8	3.5	2.5
全学	14.8	7.4	6.4	3.8	3.0

改善すべき点があると学生が考える点については、いずれも全学（全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目を除く）を下回っている。あくまでも平均であり個々の授業に問題が無いという訳では無いが、平均すると良い結果であるといえる。ただそれでも「配付資料」について1割以上の学生が改善を求めていることから、各教員によるさらなる工夫が求められているともいえる。

表7 Ⅲ1 この授業から得ることができたものはありますか

	新しい考え	基本的専門知識	自分で調べ考える姿勢	学問的興味
コミ福学部	56.8	63.4	19.4	38.0
全学	53.2	62.1	20.3	41.0

※「全学」は、全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目を除く数値

表8 学科別・Ⅲ1 この授業から得ることができたものはありますか

	新しい考え	基本的専門知識	自分で調べ 考える姿勢	学問的興味
福祉	52.5	71.5	16.6	40.8
コミュニティ政策	57.4	59.8	21.3	36.1
スポーツウェルネス	54.1	59.9	17.2	34.4

3. 担当教員の所見に対するまとめ

教員の所見は、アンケートの内容を熟読し、真摯に受け止めている様子が伝わってくる内容が多かった。学生に対して回答への感謝を記したメッセージも多く、中には否定する意見に対しても勇気を持って記入したことに感謝している教員もみられた。

改善点を指摘している評価や意見についても、自身の授業を振り返り指摘事項を真摯に受け止め、具体的に改善点を書いている教員も少なくなかった。

しかし一方で、担当教員の所見を書かない専任教員が31人中4人居たことは残念である。学生にアンケートの回答を書くことを求めるのであれば、教員側もその回答に対してコメントをすべきであろう。学生からのフィードバックに真摯に耳を傾け自らが改善しない限り、授業を改善することは困難であろう。長期的視点に立てば、学生との相互作用の中で信頼関係を築いていくツールでもあるこのアンケートの意味を再度確認しておきたい。

4. 今後の改善に向けて

昨年度総評において、「昨年度よりも回答率がさらに低下したことを受け、多様な学生の意見を拾えるようにアンケートの回答率を上げることが必要である。」とした。

回答率の低下傾向についてはCOVID-19の影響とされてきた。しかし、ほとんどが対面授業に戻った今年度において、これまでの最低率であった昨年度をさらに下回ったことは、全学の傾向とはいえ何らかの対策を考える必要がある。

また今年度の結果は、積極的に授業に参加し回答してくれた3割弱の学生の意見であることを踏まえて全体を捉える必要がある。回答しなかった7割以上の学生がどうして回答しなかったのかは不明であるが、「書いても仕方がない」と意見表明を諦めているとしたら問題であるし、授業内に時間を設けて他の学生が回答している中でも回答しないというのは、積極的拒否であるかもしれない。こうした声になっていない授業に対する不満も今後は声に出して貰えるよう努力をする必要がある。

今年度においては、「授業評価アンケート」の時期に、本総評の内容を改めて教授会等で確認する事により、各教員が学生の声を聴きたいという姿勢を学生に見せることによって回答率の上昇を目指したい。

大学教育開発・支援センターが「履修者数50名以上で回答率が70%以上」と回答率の高かった教員に対してヒアリングを実施し、その結果が報告されている。これらの具体的な実施上の工夫をGood Practiceとして学部内でも共有し、適宜採り入れていくことにより回答率を高めていきたい。

4-1-1 現代心理学部

1. 科目選定方針とねらい

学部科目のうち専任・兼任講師の別を問わず講義形式のものについて、2022年度の全学方針「1 教員 1 科目」に則って科目選定を行い、81科目が対象となった。回答者総数が5名に満たなかった16科目を除く、全65科目の回答集計結果が、以下に報告するまとめに供された。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

回答率

本学部の22年度の回答率は31.0%であり、前年度の29.0%から僅かではあるが増加した。一方で、22年度の全学の平均回答率が34.2%であったことを考慮すれば、依然低い水準にあると言える。各授業の担当教員から履修者へ向けて、アンケートへの回答を積極的に呼びかけるなど、回答率の改善に向けたさらなる取り組みが必要であるだろう。

I：学生の学習姿勢

「I1：この授業に積極的に参加した」の平均値は4.27であり、履修者の積極的な学習姿勢が反映されていると思われる。「I2：この授業に関連して、授業以外に学習した時間」は平均で1.01時間となっており前年度の値（1.15時間）から微減であった。対面型の授業に比べ、オンライン・オンデマンド授業では授業時間外の課題が多くなる傾向があると思われるが、22年度は対面授業へ回帰した授業が多かったため、学生の時間外学習の値に変化が生じたのかもしれない。

II：教員の授業改善に向けて

「II1：各回の授業内容は明確だった」の回答平均値が4.42、「II2：教員の伝え方はわかりやすかった」の平均値が4.31と、いずれも前年度から引き続いて4以上であった。総じて、現代心理学部の開講科目の担当教員が、学生の学習意欲を高める、質の高い授業を提供していることの表れであるだろう。今後もそうした高い水準の授業を提供できるよう、教員の側も引き続き研鑽を積んでいくことが重要であるだろう。

III：学生が授業に期待するもの

「III3：この授業を受けて満足した」の回答平均値は4.38であり、前年度から引き続き、4を超える値となった。前項の回答値とあわせて、現代心理学部の開講科目が学生から比較的高い評価を得ていることの表れであり、概ね、授業内容と学生のニーズの間に、問題となるような乖離はないと考えられる。

IV：学部等による設問

2022年度は、「IV1：この授業の受講者数は適切だった」と「IV2：この授業の設備・環境に満足している」の2つの問を設けた。いずれも平均で4を超える回答値（それぞれ4.32と4.33）であったことから、授業における学習環境についても学生のニーズを相応に充足しているものと考えられる。

学科別データ、学年別データ、授業規模別データ

いずれの別においても特筆すべき差はないように思われるが、強いて特徴的な差をピックアップするならば、学年別データにおいて「Ⅲ1：この授業から得ることができたものはありますか」という設問に対して、1年次生では「自分にとって新しい考え方・発想」という回答が最も多かったのに対して、2年次以上では「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」という回答が最多数であった点は興味深い。低年次には基礎的、かつ網羅的なトピックスを扱った授業に触れることで学問的関心や視野を広げ、高年次に移るにつれて、より専門的な知識・技術の習得をサポートし、学生個々人の関心に沿って学問的関心を深化させることのできる、体系的な教育環境の提供がなされていることを反映しているのかもしれない。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

学生からの評価は基本的には肯定的なものが多かったこともあり、担当教員も各自の授業に手応えを感じている様子が多く見受けられた。また肯定的な評価について、授業ごとになされた様々な工夫（授業の内容、配付資料、授業内外での課題など）との関連について言及がなされたケースが多数あり、担当教員の授業運営における様々な取り組みが、質の高い授業の提供に繋がっていることが確認できた。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

前項と関連して、授業運営上の取り組みにおける具体的な振り返りや、それを踏まえての改善案の提示がなされるケースが多数あった。ここまでに何度も言及しているように、本学部の授業科目は全体的に学生からの評価も高く、一定以上の水準を満たしていると思われる。本項目に対する担当教員からの真摯な回答は、多くの教員がそうした現状に甘んじることなく、さらに質の高い授業の実現を目指す姿勢が反映されたものであるだろう。それぞれの担当教員がこうした姿勢を維持しつつ、充実した授業内容の提供を続けることが重要であると考えられる。

4. 今後の改善に向けて

本学部科目への学生の評価が総じて高いこと、担当教員の日頃の創意工夫や授業内容の改善についての高い意識が、そうした評価に繋がっているであろうことはすでに述べた通りである。第一義的には、そのような良好な状況を今後も維持することが重要である。

それに加えて、今後は授業形態の多様性について検討する必要があるかもしれない。2022年度は基本的には対面での授業実施となり、前年度と比較すれば、オンライン・オンデマンド形式の授業数は大きく減少したといえる。そうした状況において、学生からの個別のコメントを参照すると、対面形式だけでなく、オンライン・オンデマンド形式を取り入れた授業運営を望むコメント（例えば、学生の希望に応じて、対面、オンライン・オンデマンドのどちらかを選択できるようにしてほしい、など）が散見された。そうした要望にすべて対応することは困難であるにしても、対面以外の形式による科目の設置を積極的に検討することで、多様な個性やキャリア志向を持つ学生に、柔軟性の高い授業履修の機会を提供すること

が可能になるのではないだろうか。例えば、学習意欲は高いものの心身に不調を生じている、様々なキャリアパス（資格の取得、課外での活動など）を志向している、といった理由で履修可能な授業の選択肢が狭まってしまう学生が少なからず存在する。そのような学生に対して、対面形式以外の授業形式の積極的な活用は、より多くの授業履修の選択肢を提供することにつながる。

担当教員それぞれの不断の努力に加えて、多様な授業のあり方を模索することで、学生の利益を最大化することを検討していく必要があるだろう。

4-12 全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目

1. 科目選定方針とねらい

2022年度の「全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目」では、

- (1) 総合系科目「学びの精神」(FH)
- (2) 総合系科目「多彩な学び」の以下5カテゴリにおける講義系科目（コラボレーション科目を含む）およびF科目
 - ①人間の探究 (FA)、②社会への視点 (FB)、③芸術・文化への招待 (FC)、
 - ④心身への着目 (FD)、⑤自然の理解 (FE))

を対象に1教員1科目の実施とする。

また、これらに追加して

- (3) 「立教ゼミナール発展編」の全科目
- (4) 総合系科目「多彩な学び：⑥知識の現場 (FV)」におけるグローバル教育センターが提供する全科目

を対象に、授業評価アンケートを実施した。実施合計は346科目であった。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

全学共通科目・総合系科目の2020年度⇒2021年度⇒2022年度のアンケート実施科目の延べ履修者数の推移は、23,929名⇒40,972名⇒41,044名であり、回答者数の推移は、9,539名⇒11,883名⇒12,307名（1年次：6,304名、2年次：2,964名、3年次：1,838名、4年次：954名、その他：247名）であり、回答率の推移は、39.9%⇒29.0%⇒30.0%となっている。2020年度春学期に新型コロナウイルス感染防止のため「授業評価アンケート」の実施ができなかったことにより2020年度の履修者数は極めて低い水準にとどまったため、2020年度の数値が異常値であることはすでに認識されている。参考のために異常値が示された2020年度の前年度である2019年度の数値を参照すると、履修者数は41,618名であり、2021年度及び2022年度とほぼ同水準であったことがわかるが、回答者数は27,281名であり、回答率は65.55%であった。これらから2020年度を境に回答者数の低迷、回答率の激減の傾向が2022年度に至ってもなお継続している状況にあることがわかる。全学共通科目内の総合系科目と言語系科目の比較においても、2022年度の総合系科目の履修者数（41,044名）は、言語系科目の履修者数（27,448名）よりもはるかに大きい数であるにもかかわらず、回答者数においては総合系科目（12,307名）が言語系科目（19,055名）と逆転し、回答率に極めて大きな差異（総合系：30.0%、言語系：69.4%）が生じている。回答率の減少傾向への対策は大学全体の課題であるとの認識はすでに共有されているところであるが、2020年度以降の対面マークシート方式からWeb方式へのアンケート実施方法の変更が回答率に与えた影響も少なくないと推測される。

「学生の学習姿勢（I）」について、「この授業に積極的に参加した（I1）」に関しては、2020年度⇒2021年度⇒2022年度の平均値が4.22⇒4.24⇒4.28との上昇の推移を示しているが、「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）（I2）」に関しては、その平均値が1.30⇒1.32⇒1.14と2022年度についてはそれまでの上昇傾向の推移から減少に転じており、授業への積極的な参加と授業以外の学習時間との間に反比例が生じる結果となっている。参考のために2019年度の平均値を参照すると、授業への積極的

な参加の平均値は 4.11 であり、その後の上昇傾向の推移を裏付けているが、授業以外の学習時間の平均値は 0.92 であった。このことはコロナ禍下におけるオンライン授業の導入・展開が見られた 2020 年度及び 2021 年度にオンライン授業の制約や限界を補うなどのため授業以外での様々な課題への対応等が求められたことによって授業時間以外の学習時間が増加し、対面授業の再開により授業時間以外の課題対応が減少したことで以前の状況に戻ったといった推測も可能かもしれないが、より長いスパンでの推移を見た上でより慎重な解釈がされるべきであろう。また、授業形態にかかわらず、授業時間及び授業時間以外の学習時間の適切なバランスによって学習を促す授業運営を図る必要がある。

「教員の授業改善に向けて (Ⅱ)」について、「各回の授業内容は明確だった (Ⅱ1)」の平均値の 2020 年度⇒2021 年度⇒2022 年度の推移は、4.37⇒4.33⇒4.34 となっており、「教員の伝え方はわかりやすかった (Ⅱ2)」の平均値の推移は、4.27⇒4.24⇒4.24 となっている。対面授業の再開によってコロナ禍下でのオンライン授業に伴う情報伝達手段の制約は一定程度解消の方向に向かっていると思われるが、必ずしもそのことは数値として明確に現れている状況ではないことを考えると、やはり教員の授業改善にとってオンライン授業がプラスとマイナスの両面をもっていることが窺われる。また、「この授業でよいと思った点はありますか【複数選択可】 (Ⅱ3)」について、上位から「①配付資料 (授業のレジュメなど) (54.5%)」、「③パワーポイント」(41.1%)、「④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません) (33.0%)」の順となっている一方、「この授業で改善すべきだと思った点はありますか【複数選択可】 (Ⅱ5)」について、「①配付資料 (授業のレジュメなど)」は 15.3%で最も多く、次いで「③パワーポイント」(6.6%)となっており、「④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)」は 3.7%であった。「⑥上記にあてはまるものがない」が 60.2%であることも勘案すると、配付資料についてはさらなる改善の余地があることが示されてはいるものの、多くの学生はパワーポイントや映像視覚教材について教員が工夫や改善を加えていることを好意的に評価していることが窺われる。

「学生が授業に期待するもの (Ⅲ)」について、「この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】 (Ⅲ1)」への回答中「⑤上記にあてはまるものがない」の割合は 2.5%であり、ほとんどの学生は「①自分にとって新しい考え方・発想」(62.3%)、「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」(52.1%)、「④学問的興味」(44.0%)を得たと回答している。これらと比べ「③自分で調べ考える姿勢」については 18.6%にとどまっている点は、今後のさらなる授業改善へ向けた一つの課題と考えることができるかもしれない。これらを踏まえた上で「この授業を受けて満足した (Ⅲ3)」の平均値の 2020 年度⇒2021 年度⇒2022 年度の推移は、4.33⇒4.29⇒4.29 であり、過年度と同水準の満足度となっている。しかしながら、授業への積極的な参加度、「授業評価アンケート」への回答率、授業への満足度の間には一定の関連性の可能性もすでに指摘されているところであり、「授業評価アンケート」の単なる数値のみでの満足度の測定と解釈には一定の限界があることにも留意しなければならない。

「学部等による設問 (Ⅳ)」について、「この授業の教室の大きさは適切だった (Ⅳ1)」「この授業の受講者数は適切だった (Ⅳ2)」「この授業の行われた教室の環境や設備は十分だった (大きさの観点は除く) (Ⅳ3)」の設問に関しては、2020 年度及び 2021 年度のオンライ

ン授業環境下において「授業評価アンケート」の設問項目からは外されていたため、過去3年間の推移を踏まえた比較はできないが、参考のため2019年度の平均値を参照し比較すると、「この授業の教室の大きさは適切だった(IV1)」4.24⇒4.14、「この授業の受講者数は適切だった(IV2)」4.25⇒4.18、「この授業の行われた教室の環境や設備は十分だった(大きさの観点を除く)(IV3)」4.28⇒4.24、といずれの設問についてもポイントの減少が認められ、全学的な課題となっている教室逼迫問題の深刻化の傾向が少なからず窺われた。また、総合系科目のうち「学びの精神」科目のみを対象として設けられた2つの項目については、「この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた(IV4)」の平均値の2020年度⇒2021年度⇒2022年度の推移は、4.27⇒4.32⇒4.29となっており、「この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた(IV5)」の平均値の推移は、4.03⇒4.04⇒4.06となっている。過年度までの平均値の推移の傾向としては、これら2つの設問は共に数値の上昇が指摘されていたが、2022年度に関しては、「この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた(IV4)」については、わずかながら減少が見られたものの、「この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた(IV5)」については、着実な上昇が見られ、「学びの精神」科目の目標に向けた授業の効果が窺われる。

「学科等別」の分類集計結果に関しては、全学共通科目・総合系科目に設定されている7つのカテゴリのうち「多彩な学び6(知識の現場)」が全ての設問項目において最も高い平均値を示している。このような傾向はすでに例年の傾向として定着しているところであるが、特に「この授業に関連して、授業以外に学習した時間(平均して、1週間に)(I2)」の平均値は、他を大幅に上回る3.86時間となっているほか、「この授業に積極的に参加した(I1)」や「この授業の教室の大きさは適切だった(IV1)」「この授業の受講者数は適切だった(IV2)」において他のカテゴリの平均値よりも高めの平均値が現れている。「多彩な学び6(知識の現場)」以外に関しては、「多彩な学び2(社会への視点)」の設問I1、I2、II1、「多彩な学び4(心身への着目)」の設問II1、II2、III3など複数の設問項目の平均値の高さが認められた。

「授業規模別」の分類集計結果に関しては、I2以外の設問項目について「151名以上」が最も高い平均値を示している。しかしながら、「151名以上」に該当するアンケート実施科目数は2科目のみであり、当該科目の特性が強く出ている可能性があることに留意しなければならない。これを踏まえると、「50名以下」において「学生の学習姿勢(I)」、「学生が授業に期待するもの(III)」、「学部等による設問(IV)」の平均値の高さが認められ、規模の小さい科目にプラスの効果が出る傾向が窺われるが、「教員の授業改善に向けて(II)」については「101～150名」に平均値の高さが認められるなど、授業規模と授業の充実度は必ずしも単純な関係にあるわけではないことも示唆される。すでに多くの関係者が授業をめぐる様々な条件に柔軟に対応しながらさらなる授業改善への努力を積み重ねている状況を踏まえるならば、授業規模それ自体が問題というよりも規模に応じた授業の工夫が何よりも重要であることが再認識される。

「学年別」の分類集計結果に関しては、例年4年次生に高い数値が見られる傾向があることが指摘されていたが、2022年度の結果からは、「学生の学習姿勢(I)」において平均値は1年次が最も高く、学年を追うごとに減少する傾向がある(I2の一部を除く)一方、「教員の授業改善に向けて(II)」や「学生が授業に期待するもの(III)」については、学年

を追うごとに平均値は上昇し、4年次生の平均値が最も高くなっている。このような傾向について、1年次生の学習姿勢の高さを授業への期待感や高校時代の学習姿勢の継続の現れ、4年次生の授業改善評価や満足度の高さを大学での受講経験の豊富さの現れと解釈することも可能かもしれない。

なお、全学共通科目・総合系科目では、2022年度から外国語による総合系科目「F科目」が大幅に増設され、「学びの精神」において「導入レベル」4科目、「上級レベル」1科目、「多彩な学び1～5」において「中級レベル」40科目、「上級レベル」41科目、「多彩な学び6」において「その他（レベル設定なし）」14科目が開講された。「学生による授業評価アンケート」は、これらの科目の中から「学びの精神」の3科目、「多彩な学び1～5」の24科目、合計27科目で実施された。「学びの精神」科目に関しては、「学生の学習姿勢（Ⅰ）」については総合系科目全体及び「学びの精神」科目全体の平均値よりはやや低めにとどまり、「各回の授業内容は明確だった（Ⅱ1）」については、「学びの精神」科目全体よりわずかに高いものの、総合系科目全体よりは若干低い平均値となっている。他方、「教員の伝え方はわかりやすかった（Ⅱ2）」については、「学びの精神」科目全体の平均値より高く、また総合系科目全体の平均値と同水準であり、「この授業を受けて満足した（Ⅲ3）」については、「学びの精神」科目全体及び総合系科目全体の双方の平均値を上回っている。さらに「この授業の教室の大きさは適切だった（Ⅳ1）」「この授業の行われた教室の環境や設備は十分だった（大きさの観点を除く）（Ⅳ3）」「この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた（Ⅳ4）」「この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた（Ⅳ5）」についても同様に「学びの精神」科目全体及び総合系科目全体の双方の平均値を超える好意的な評価が見られた。「多彩な学び1～5」科目に関しては、「この授業の受講者数は適切だった（Ⅳ2）」を除いては全ての設問項目において「多彩な学び1～5」科目全体及び総合系科目全体のそれぞれの平均値を上回る数値となっており、受講生の評価が高かったことが窺われる。「F科目」は総合系科目の新たな取り組みではあるが、総じて受講生からの好意的な評価を得られたことは、関係者の努力の成果を示すものであると同時に今後の展開がさらに期待される。

3. 各カテゴリの総評

3-1 学びの精神（FH）

7年目を迎えた1年次生対象の「学びの精神」は、大学での学びのスキルを身に付け、主体的に学ぶ姿勢を養い、立教生として居場所感を醸成することを目的としている。2022年度は2021年度より若干多い98科目で実施することができた。ただし、昨年度と同様に、どの科目においても回答率は総じて低い傾向にあり、全学生の意向を反映できているかどうかはわからない。

「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）（Ⅰ2）」は、初年度の2016年度は0.68時間と少なく、学びの精神の趣旨が徹底されていないのではないかと懸念されたが、2017年度の0.75時間、2018年度の0.78時間、2019年度の0.84時間、2020年度の1.32時間と増加、2021年度は1.29時間と2020年度に比べると微減した。そして2022年度はさらに微減して1.11時間となった。それでも2019年度を上回っており、全面的に対面授業に戻るという状況のもとでも、授業時間外での学習がしっかり行われたことが確認できる。「授業改善に向けて（Ⅱ）」のうち、「各回の授業内容は明確だった（Ⅱ

1)」が 4.22、「教員の伝え方はわかりやすかった (Ⅱ2)」が 4.09 となっており、どちらも「多彩な学び 1~5」と比べて低い数値となっているが、2021 年度よりはわずかだが高い数値となっている。教員が用意した配付資料やパワーポイント、あるいは動画・音声の視聴を利用したことなどは、いずれも高い評価を受けている。授業で利用したレジュメやパワーポイントなどの資料が、教員によって LMS で配付されて常時閲覧できる場合とそうでない場合とに分かれており、学生が対応に戸惑っていた様子も自由記述から散見される。統一する必要はないとは考えるが、学生の利便性を考慮して、可能な限り授業で利用した資料は公開していくことが望ましいであろう。

「学生が授業に期待するもの (Ⅲ)」については、「この授業を受けて満足した (Ⅲ3)」が 4.15 となっており、2020 年度の 4.26 と比較すると若干低い数値だが、2019 年度の 4.06 や 2021 年度の 4.11 と比べると高い数値になっている。大学での学びの導入となる科目として一定の評価を受けていると思われる。また「この授業から得ることができたもの (Ⅲ1)」では「①自分にとって新しい考え方・発想」が 61.0 で、「多彩な学び 1~5」の平均とほぼ同じであり、また「③自分で調べ考える姿勢」が 17.2 と 2021 年度の 17.9 よりも低くなっているが、「多彩な学び 1~5」の数値と比べて遜色はなく、「学びの精神」科目が一定程度は有効に機能していることを感じさせる。

「この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた (Ⅳ4)」については 4.29 と 2021 年度の 4.32 よりも低い評価を受けているが、「この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた (Ⅳ5)」については 4.06 と、2021 年度の 4.04 よりも高くなっている。ただし IV1 と比較して 0.23 ポイント低い評価であり、例年の傾向通り、2022 年度も、高校との学びの違いは分かったが、大学で学ぶ心構えができたとまでは言えないと感じている学生が多いことを示している。「学びの精神」を履修した 1 年次生が、2 年次以降に自信をもって大学での学びを実践できるようになることを期待したい。

3-2 多彩な学び

1) 人間の探究 (FA)

「人間への探究 (FA)」として配置されている 52 科目のうち、授業評価アンケートの回答率が 5 割を超えた科目は 2 割にとどまっており、低い水準であると考えられる。ただし集計結果のまとめからわかるように、回答者に限っては、少なくともその意欲は「この授業に積極的に参加した (Ⅰ1)」にも見られるように高く、各項目とも低くない。「教員の授業改善に向けて (Ⅱ)」の項目に関しても、授業内容の明確さ (Ⅱ1) においては 0.02 ポイントと微増ではあるが、前年度よりも上回っており、教員の伝え方 (Ⅱ2) に関しても、前年度の水準を維持している。授業の満足度 (Ⅲ3) に関しても、0.01 ポイントと微増だが、前年度よりも上回っていることがわかる。学生の自由記述を見る限り、「理解が深まった」「深く学ぶことができた」「多角的にテーマについて学ぶことができた」等々の好意的コメントが多かったように思われるものの、そもそも回答率が低いため、全体の傾向として捉えることができない。

担当教員の所見が記入されていないケースは 21%にのぼっている。所見が記入されていないケースのうち 9 割が、回答率 5 割未満の科目である。単純集計を通覧してのみの過剰解釈は避けるべきだが、示唆的な結果とは思われる。他方、所見が記入されている科目に関

しては、大半の担当教員がアンケート結果を真摯に受け止めており、授業改善への意欲的コメントが占めていることも付記しておきたい。

全コメントのうち 14%は講義内容との関連で所見をまとめているが、数字のとおり、全体としては少ない印象である。他方、授業技術／方法の問題としてコメントしている報告は全体の 44%にのぼっている。また、大学への要望が 2 件あった。一件目は、授業内容に鑑み、カテゴリを差別問題カテゴリから言語カテゴリへと変更してほしいと言う要望。もう一件は、アンケートの実施を 3 年に 1 回にしてほしいとする要望であった。

2) 社会への視点 (FB)

「社会への視点 (FB)」は計 67 科目に対してアンケートが行われ、回答者数も 1,902 人と他のカテゴリと比べて相対的に多かった。点数評価の結果を見ると、多くの項目が総合系科目の平均値を超える傾向にあった。とくに「各回の授業内容は明確だった (Ⅱ1)」「この授業を受けて満足した (Ⅲ3)」「この授業の行われた教室の環境や設備は十分だった (Ⅳ3)」はいずれもかなり高かった。ただし、「この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1 週間に) (Ⅰ2)」に関しては平均値と同等で相対的に評価は低かったといえる。関連項目に関しては、「この授業でよいと思った点はありますか (Ⅱ3)」においては、総体についてかならずしも飛び抜けて高い評価ではなかったが、「この授業で改善すべき点があった点はありますか (Ⅱ5)」に対してもさほど多くの指摘はなく、全体的には満足を得られていると考えられる。また「この授業から得ることができたものはありますか (Ⅲ1)」を見ると、総合系科目の平均値と比べ基本的に高いが、2020 年度に新しく採用された質問項目「④学問的興味」は 2020、2021 年度同様低く、継続して傾向を注視していく必要がある。

所見票については、科目担当者の記述から、これまでの経験の蓄積が十分にいかされ、改善の試みがなされていることが見て取れる。とりわけ、対面に戻った多くの授業において、不慣れな学生の学習意欲を高めるための伝え方の工夫を考えるなど様々な試みが施行されていることが確認された。出席学生数が多く双方向的な授業が難しい科目も多かったようだが、そうした制約条件を踏まえつつ、様々な取り組みがなされていると評価される。

3) 芸術・文化への招待 (FC)

「芸術・文化への招待 (FC)」の全科目 44 科目のうち、授業評価アンケートの回答率が 5 割を超えた科目は 43%であり、さほど低い水準とは言えないだろう。また、集計結果のまとめからわかるように、回答者に限っては少なくともその意欲は「この授業に積極的に参加した (Ⅰ1)」にも見られるように 4.32 と高く、「この授業を受けて満足した (Ⅲ3)」の項目に見られる満足度も 4.39 と、低くない。

学生の自由記述も、「良い」「楽しい」「面白い」などが記述に含まれた好意的なものが多く書かれているが、そもそも回答数が少ないため、全体の傾向と考えることはできないかもしれない。ただし、少なくとも、巧みな授業運営と熱意とに 대응しようとする学生とのマッチングが回答を見る限りうまくいっているように思われる。

次に担当者による所見がないケースについてだが、担当教員の所見が記入されていないケースは 18%となっている。授業評価アンケートの回答率とは無関係であることも、単純集計の結果からではあるもののほぼ間違いはない。担当教員による所見が記入されているケ

ースにおいては、大半の担当教員がアンケート結果を意味あるものとして位置づけており、積極的に授業改善に役立てようとしてくださっていることが伝わってくる点は評価されて良いと思う。とくに所見のうち「改善に向けた今後の方針」を見ていくと、学生からの授業評価が多岐に渡っていることを思い知らされる。ただし、評価の受け止め方は、授業内容と絡めないまま処理するケース、すなわち講義技術論／方法論レベルでの受け止めに終始するケースが大半 39%を占めている（授業内容と絡めた改善に言及するケースは 1 割にとどまる）。所見から垣間見るレベルでいうと、いわゆるアクティブ・ラーニングないしはワークショップ形式を採用した授業は多くない印象である。

4) 心身への着目 (FD)

「心身への着目 (FD)」は 29 科目でアンケートが実施され、2022 年度の回答者数は 1,379 名であった。2021 年度は科目数が 32 科目で 1,297 名の回答者数だったことから、アンケート回答者数は 6.32%増加した。

設問 I～IVのうち、設問 I は総合系科目の平均を下回る結果となり、設問 II～IVに関しては総合系科目の平均を上回る結果となった。特に「各回の授業内容は明確だった (II1)」、「教員の伝え方はわかりやすかった (II2)」、「この授業を受けて満足した (III3)」においては、それぞれ 5 段階中で 4.45、4.41、4.41 という高い評価を得ており、授業内容が適切で効果的に授業運営がなされていた結果と判断できる。一方で 2021 年度に比べると、設問 I～IIIすべての項目において若干下回る結果となっていた。

「この授業でよいと思った点がありますか (II3)」においては、「①配付資料 (授業のレジュメなど) (57.4%)」、「③パワーポイント (47.9%)」が、他の「多彩な学び」カテゴリと比べ高い割合を示していることから、担当教員の工夫や努力が認められた結果と判断できる。

アンケートの自由記述は概ねポジティブな意見が多く、特によく見られたコメントとしては、「リアクションペーパーに丁寧に対応していただいた」、「レジュメが分かりやすかった」、「動画があることで理解が進んだ」、「ゲストスピーカーの講義で理解が深まった」などがあった。一方で、「紙資料の配付はありがたかった」という意見も多く見られたことから、ペーパーレスが進む現代社会において、デジタルデータによるデータ管理や情報整理の方法などの基本的なスキルに課題があることを感じた。

評価に対する担当教員の所見票を見ると、久しぶりの対面ゆえ最初は授業の進め方に戸惑いを感じたものの、学生から概ね良い評価を受け満足しているとの記述が多く見られた。また、「今後の方針」においては、一人でも多くの学生に理解してもらうため工夫を厭わない姿勢が感じられた。

5) 自然への理解 (FE)

「自然への理解」では 33 科目でアンケートが実施され、1,197 名の回答があった。

「学生の学習姿勢 (I)」の項目を見ると、「この授業に積極的に参加した (I1)」の項目が 4.22 であり、「この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1 週間に) (I2)」は 0.74 時間であった。I2 の数字について、昨年度は 1.12 時間であったことと比較すると減少傾向が見受けられ、「多彩な学び」の他のカテゴリと比較しても少ないものとなっ

ている。I 2 の数字が 1 を切っていることからすると、残念ながら学生の自発的な学習につながらなかったと考えられる。

「教員の授業改善に向けて(Ⅱ)」の項目を見ると、「各回の授業内容は明確だった(Ⅱ1)」と「教員の伝え方はわかりやすかった(Ⅱ2)」の項目は、ともに総合系科目の平均値程度の数字となっている。

「学生が授業に期待するもの(Ⅲ)」の項目を見ると、「この授業を受けて満足した(Ⅲ3)」の項目の値は 4.32 で、昨年度の 4.42、一昨年度の 4.37 と比較すると若干ながら減少傾向にある。「この授業から得ることができたものはありますか(Ⅲ1)」の項目中「①自分にとって新しい考え方・発想」は 52.0%であり、「多彩な学び」のカテゴリ中で最も低い値である。一方、「④学問的興味」の項目は 51.9%であり、「多彩な学び」のカテゴリ中で 2 番目に高い数字となっている。学生からのコメントには、「スライドや映像資料がわかり易い」というものが多くある一方、「専門用語がわかりにくい」、「話が聞き取りにくい」などのネガティブなコメントも見受けられる。担当教員の所見においては、専門用語にある程度馴染んでほしいという意図があったとのコメントがあった。また、学生からの「話が聞き取りにくい」との意見に対して、教員所見ではコロナウイルス対策としてのマスクの影響を指摘する声があった。

6) 知識の現場 (FV)

総合系科目の平均値に比べて、各項目の評価は 2021 年度同様に非常に高い。ほとんどの授業が定員を設けた少人数科目で、学習意欲の高い学生が集まっていることを割り引いても、授業以外での学習時間 (I 2) は 3.86 時間、授業満足度 (Ⅲ3) は 4.53、と極めて良好な結果となっている。また「この授業から得ることができたもの(Ⅲ1)」では、「①自分にとって新しい考え方・発想」が 88.3、「③自分で調べ考える姿勢」が 57.9 と、いずれも「多彩な学び 1~5」を大きく上回る数値となっている。

特に GLP 科目は、授業以外の学習時間が群を抜いて高いことから、学生負担の大きい科目であることが読み取れる。その一方で、そういった学生たちの努力に対して、科目担当者がしっかり応答していることが所見票から伝わってくる。学生と教員が双方向で積極的にかかわり、良好に運営されていることから、満足度も大変高いことが総合評価から読み取れる。単位数の上乗せを望む声上がるのも、当然の成り行きかもしれない。

4. 今後の改善に向けて

集計データから見られる総合系科目の評価は、過年度までの推移において全般的な上昇傾向が指摘されてきたが、2022 年度に関しては全体的に受講者からの好意的な評価は引き続き得られているものの、継続してさらなる全般的な上昇傾向が見られたというよりもやや横ばい状態の傾向が見られたと言えよう。このことは、2020 年度、2021 年度と続いたオンライン授業から一転して 2022 年度に対面授業化が進められたことを考慮に入れると、教員側、受講生側ともに授業形態の変更など授業をめぐる状況や環境の変化への対応を様々な形で迫られ試行錯誤の中で授業が展開したことが一定程度影響しているとも考えられる。そのような状況下にもかかわらず引き続き全体的には好意的な評価を一定の水準で維持することができたことは、関係者の努力によるものと言うべきであるが、このような授業形態

の変化が教員の伝え方や受講生のオンラインから対面への受講姿勢・出席の切り替え対応などへの影響を注視する必要性はすでに昨年度の時点で指摘されていた。これは本年度のみの結果によって判断されるべきものではないためさらに引き続き注視してゆくべき課題であろう。また、オンライン授業実施の経験を今後のポストコロナ状況の中でどのように積極的に活用し、さらなる授業改善に役立てていくかも今後の重要な課題と言えよう。近いうちを示されるであろう全学的な今後のオンライン授業のあり方に関する指針も踏まえつつ、さらなる検討と対応が望まれる。

他方で、今後の授業改善を検討する上での重要な基礎的データとしての「学生による授業評価アンケート」をめぐる課題として、これまでもその回答率の向上が指摘されてきた。オンライン授業導入前の2019年度の回答率を踏まえると、オンライン授業導入後の回答率は大幅に低下し、その傾向は対面授業化が進められたにもかかわらず2022年度においても残念ながら継続してしまっている。アンケート実施方法の再検討も含め、回答率向上策は依然として重要な課題として横たわっていることに留意しなければならない。

4-13 全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目

1. 科目選定方針とねらい

全学共通科目・言語系科目については、原則として全科目で実施した。ただし、連続性のある科目（例：「～語基礎 1・2」「上級英語 1・2」）を同一教員が春学期・秋学期担当する場合は、秋学期のみ実施とした。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

2022 年度の全学共通科目・言語系科目のアンケート対象科目数は 1,730（春学期 835、秋学期 895）、そのうち回答者 5 名以上のアンケート実施科目数は 1,336（春学期 664、秋学期 672）であった。アンケート実施科目の延べ履修者は 27,448 人で、うち回答者数は 19,055 人、回答率は 69.4%であった。前年度よりも「回答率」は微増であった。授業内でのアンケート実施を各科目担当者に依頼することで、わずかずつではあるが、言語系科目ではこの数年回答率が上がっている。

「設問項目別平均値」を見ると、全学共通科目・言語系科目への全体的な満足度の高さがわかる。また「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）（I 2）」の平均値（50 名以下：1.73、51～100 名：1.81、101～150 名：2.11）の低さが突出して低いのは毎年のことではあるが、全学共通科目・言語系科目を除いた同設問の平均値（1.23）と比べると高いことから、言語学習は授業の中だけでは決して終わらないという認識や姿勢が多少は浸透してきたのではないかと推察される。

一方で「この授業で改善すべきだと思った点はありませんか（II 5）」については全学共通科目・言語系科目もご多分に漏れず高い数値を記録しており、教員側の授業に対する恒常的な工夫や努力、改善が望まれる結果となっている。

3. 各研究室総評

<英語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

学生からはどの授業形態においても参加しやすい工夫がなされていたことがコメントされ、特に、視覚資料の見やすさ、説明の明確さ、他の学生と交流ができる授業の工夫、学生に合わせた進度、丁寧な指導や教員との直接の交流について高い評価が見られた。これらの評価に対し、教員も学生の評価・意見を好意的に捉え、更なる工夫を編み出すモチベーションになったと述べた。また、英語ディスカッションの教科書による各回の授業目的の明確さに関する学生の高い評価が見られた。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

学生によるコメントでは、特に英語 R&W に関して、適切な課題の量とクラスによって課題の量が異なることに対する指摘や、英語ディベートに関して、ディベートのやり方や教員のディベートの教え方・進め方に疑問を感じたというものが見られた。教員はこれらのコメントに対し、学生により丁寧に課題・活動の説明をしたり、学生が直接担当教員に懸念を話せる環境を作ったりし、改善を努めていきたいと述べている。また、口頭だけでの説明が理解できなかった意見や、日本人教員に「日本語で説明してほしい」との学生のコメントに対

し、教員はより明確な口頭説明をすると共に、もっと視覚資料を使用した説明も行う努力をすると述べた。最後に学内 Wi-Fi が遅く、オンライン授業に非常に困った、改善して欲しい、という学生の声が多くあったことを付言しておく。

<ドイツ語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

教科書の補助となる投影資料など、必修科目においては研究室で 2020 年度中に作成したものがあつたため、引き続き導入されている教員が多かつた。そのため配付資料、板書、パワーポイントといった授業で使用される資料については、どの科目でもおおむね評価が高く、授業内容の明確さ、教員の伝え方の分かりやすさも連動して高評価を得ることができている様子があつた。自由科目について、各教員によつてばらつきはあるものの、教科書を使用しているかどうかには依存する。

その一方で、投影資料と教科書の内容が同一であるため、ただ解説をするのみの進行では、教科書を読めば済む、といった評価もあつた。また、コロナ禍ということもあり、発話を伴うペアワーク・グループワークを率先して行うには、まだ教員間でも抵抗があることを踏まえ、研究室としては一斉の発話にならない程度に留めるように依頼をした。しかし、次第にコロナ禍が落ち着いたということも影響してか、学生側としても一方的に話を聞くだけの講義形式の授業となることへの不満もあつたようだ。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

授業で用いる資料の質、用い方の更なる改善が必要である。オンライン形式による授業運営の経験から、対面授業においてもパワーポイントによる資料投影を対面授業に取り入れられた担当者も増えたものの、教科書と同じ内容のものであるため、ただ解説をするだけの授業とならないような工夫が欠かせない。また、授業の進め方についても、改善の余地がある。未だコロナ禍だつたとはいえ、ペアやグループでの活動を限定すると一方的に話を聞く講義と同じとなつてしまい、学生のモチベーションは下がり、集中力の低下にもつながつてしまう。これらの点については、学生自身が能動的に学習に取り組めるように、今後、さまざまな学習形態を導入する工夫をしたい。また、クラス間での指導のばらつきが生じないためにも研究室で FD を通して改善を図りたい。

さらに、基礎レベルの授業を経て継続学習へとつなげるかという課題もある。この問題認識は科目担当者ごとに異なると思われるが、学生側からも、ドイツ語の文法のみではなく、ドイツ語圏の文化や社会に関する多様なテーマを授業でも扱ってほしいという声アンケートでも見られた。このような問題に対する認識と具体的な方法は、教員同士で気軽に情報交換ができる場を、今後、担当者連絡会などを通して設けたい。

<フランス語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

2022 年度は対面授業に戻つたものの、コロナ対策という観点から平時のような発音練習や会話練習、ペアワークやグループワーク等が行えなかつたことから、コミュニケーションの課題について触れる教員が多かつた。「読む力・書く力とともに、聞く力・話す力をもつ

と伸ばすことができないか、会話の応用練習やディクテなどを増やして工夫していきたい」、「1年次の文法中心の授業から、中級の語彙力を求めるスピーキングを目指す授業へどのように橋渡しするかが、今後の課題である」、「重点的に行ったヒアリング力が、例年よりも高い結果となったことは評価できるが、今後は、より多くの受講生がヒアリング力に自信がもてるよう、会話のバリエーションを増やし、アンケートで指摘のあった語彙力強化など、中・長期的に取り組んでゆきたい」等の所見が見られた。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

2022年度は、さまざまな項目で課題があったと考える。とりわけ「II2」の教員の伝え方については、オンライン授業向けに作成したパワーポイント教材を有効に活用しつつ、たとえばマスクをつけたままでも効果的に発音を身につけられるような、あらゆる状況に対応できる教授法の開発に研究室として取り組んでいきたい。また今後は受講生のニーズに応えるために、スピーキングやヒアリング等コミュニケーションの力が伸ばせるような、段階的に表現力を養う教材を作成していくことを目標としたい。現在、初級教科書の改訂版作成を研究室として進めている。4技能をバランスよく、かつわかり易く学習できる工夫を重ねていくとともに、新版を有効活用できるような教授法を開発し、FDを通して教員間で検討を進めることで、履修生および教員のニーズを直接反映させた、「今」に相応しいフランス語の教育を形にできるよう努めていきたい。

<スペイン語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

2022年度から1年次必修科目における使用テキストが変更になったため、教員・学生双方に戸惑いが見られたようだが、各教員がプリントなど補助教材を用いることで理解度を高めるように努力したことがうかがえるとともに、学生側のコメントからこうした試みが好意的に受け止められていることが示された。また、スペイン語圏でのエピソード、体験や映画や音楽を紹介することなどにより、スペイン語圏の文化への理解を深め、継続学習へつなげようとする教員側の意図も感じられた。また、中級以降の科目では、履修者の言語レベルが必ずしも均一でない状況の中、できるだけよい学習効果をもたらし、学習者が言語学習に対する手応えを感じることができるよう各担当教員が工夫を重ねていると考えられる。

一方、板書やパワーポイント教材の提示速度、教員間の連携などについては、履修者側からさらなる改善を求める声もあった。また、進み方の早さ、テキスト(特にリスニング問題)の難しさは、教員・履修者双方から指摘が見られた。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

細かな課題については、各教員で異なる部分もあるが、学習者の理解を促すための各種の試み(補助教材の配付やその内容の改訂、説明方法の改善、板書や教材提示方法の見直し等々)は、多くの教員によって言及されており、今後もよりよい授業を目指して工夫を重ねていく意思が示されていると言える。また、授業外での自主的な学習の促進、それを実現するために小テストの回数や課題を増やすこと、実践的な内容を扱う場をさらに増加させるといったような言及もあった。

＜中国語教育研究室＞

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

2022年度は教員がマスクを着用して授業を行ったため、科目担当者の声が聴きとりづらいなどの意見が複数見られた。また、板書がすぐ消される、スライドの展開が速く、スライドを共有してほしいなどの意見もあり、理解する速度の異なる履修者へのきめ細やかな対応が教員に求められていることが確認できた。またアンケートの回答率が低いクラスもあり、授業内での実施が徹底していないクラスがあることが2021年度同様確認できた。2022年度は2学部で新テキストのためのパイロットクラスが導入されたが、新テキストとその教授法に関する意見は特になく、概ね問題がなかった。自由科目では中国語以外に、中国に関する様々な情報が得られたことへの言及が多かった。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

担当者の授業進行の速度が速い、声が聞き取りづらいなどは、授業で使用した教材のCanvas LMSへのアップなどで対応していきたい。またアンケート回答率を上げるため、授業内で実施する時間を設けるよう各科目担当者へアナウンスを徹底したい。またシラバス通りに授業が進行していない教員に対しては個別に対応したい。

＜朝鮮語教育研究室＞

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

2022年度の朝鮮語教育は必修科目において2021年度同様パイロット版教科書を使用した。2021年度は試行錯誤であったという所見が多かったが、2022年度はほとんどが充実感を漂わせる文言であった。教科書が2年目ということだけでなく、ここ数年生じていたオンライン授業の準備や学期中の授業形式の切り替えといったイレギュラー対応が生じなかった点が大きかったように思われる。他に、自身の手応え以上に学生の満足度が高かったことに言及する教員が多く見られた。補助教材としてリリースされた練習帳も多くの教員が活用したようである。教科書の学習内容が多いため練習帳も含めるとかなりの分量になるが、教員によっては授業時に扱うもの、自習用、復習用と使い分けをしたようで、結果、学生の多様なニーズに応えることができたようである。また、例年よりも学生のモチベーションの高さ、授業態度のよさを指摘するコメントも多かった。

自由科目は例年通りモチベーションの高い学生が自ら選択して履修しているので、多くの授業で学生の満足度も教員の達成感も高かった。教科書にとどまらず補助教材を活用することが満足度の向上に資することが示唆される一方で、学生の希望する学習内容と教員（授業）の意図に距離がありそうだとする意見もあった。どちらも新カリキュラムの展開において傾聴に値するコメントである。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

必修科目の担当者からは今回も「次年度は会話練習を充実させたい」旨のコメントが散見された。例年通りということは2022年度も目に見えた改善がなされなかったということの意味するが、それは教員の怠慢というよりは、必修かつ文字から学習を始めるクラスで一定水準の会話練習を実践することの難しさを示していると言える。2024年度スタートの新カ

リキュラム（20人前後のアウトプットクラスの創設）で改善されるよう、教員への意識付けも含め準備していきたい。

新たな試みとして、会話力を中心に総合力を高めるため寸劇を企画したクラスがあった。全体としては盛況であったがグループ作業を好まない受講生が一定数いたことが指摘され、アウトプット能力を高めるための実践がいかに難しいかを示すケースとなった。指導の難しさという点では、特に秋学期に習熟度の差が激しくなることがあげられる。課題の提供などである程度個別対応が可能でも最終的に学習するのは受講生であるため、どう対応すべきか悩む教員も見られた。学生同士の親密度を高めることで教員にも話しかけやすい雰囲気を作るというクラス運営は、上記課題の一つの対策になりそうである。スライド資料の文字の大きさに気を配るなどユニバーサルデザインを意識したコメントも見られ、時代の要請に前向きに答えていこうとする教員の姿を知ることができた。

自由科目については、過去に指摘した教授言語を朝鮮語とする割合を増やすことによる学生の不安、履修学生間のレベルの差異についての言及は今年度に関してはなかった。解決したとは考えづらいが、「朝鮮語スタンダード」のマイナーチェンジなどいくつかの改善策が一定の効果をあげたものと思われる。新カリキュラムにおいても引き続きレベルの細分化をはかり、学習者が適切なレベルの授業を選択できる学習環境を整備していきたい。

<諸言語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

「日本手話 1」「日本手話 3」に共通して言えることであるが、学生自らが能動的に参加し、受講に対する満足度の非常に高い授業であったことがよくわかる。事前の紙媒体での配付資料やパワーポイントが効果的だったと考えられる。また、新しい考え方、学問的興味を得ることができたとの学生が多かったことは、新しい言語の文化的背景を学ぶコラムの時間が功を奏していることがわかる。授業を通して向上した能力に、「聞く力」と「話す力」をあげる学生が多く、これは異言語を学ぶことで相互の意思疎通を図ろうとする意識が高まった成果であり、自らのアウトプットをする機会があったと共に他者の発表からの学びも大きかったからであろう。授業時間外でも学習できる内容が充実しているとの評価もあり、Blackboardの復習用動画も有効活用されていることがわかった。フィードバックが十分になされていたという評価や回答者全員が今後も継続学習を望んでいることは、担当教員には大きな励みになる。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

I2「授業以外に学習した時間」は平均 1.52 時間であるも、1 時間以内という回答が多かった。評価の中に「積極性」として、授業外の学習時間を組み込んだが、その時間を定量化することを検討していきたい。IV4「向上した力」のなかの「プレゼンテーションをする力」「ディスカッションをする力」の回答が少ない。日本手話 4 のシラバスには「プレゼン」「ディスカッション」が組み込まれている。日本手話 1~4 の最後の総まとめとして、日本手話によるプレゼンに挑戦する。それによって「話す力」に加え「プレゼンする力」も併せてそれぞれが向上していくような授業展開を目指していく。

なお、II6 改善すべき点の自由記述で「仕方ないと思うが、例文で使われる性別に関する

文章が気になる」とあった。手話は視覚言語である為、「男／女」の表現に抵抗を感じる学生が少なくない。手話の特徴を解説すると共に、手話の世界でもジェンダーニュートラルな人称代名詞使用者が増えていることも伝えてきた。今後も LGBTQ+ など多様性を是認した学生に、引き続き丁寧に説明したい。また「パワーポイントをそのまま配付して欲しい」との要望も少なからずあるが、引用しているものもあり、配付は控えている。パワーポイント資料がなくても学びが深められるよう授業をさらに改善する努力をしていきたい。

＜日本語教育研究センター＞

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

多くの教員が学生からの意見を真摯に受け止めていることがうかがえた。

学生の出席率、参加度についても、肯定的な所見を書いている教員が多く、大多数の学生が積極的に授業に取り組んでいたことが読み取れた。しかしながら、正規留学生と特別外国人学生のクラス履修の形が異なることによる課題に触れている教員が見受けられた。特別外国人学生は、一定の日本語力がある場合、正規留学生の「大学生の日本語」科目を履修することができることになっているが、本来、「大学生の日本語」は正規学部生のための科目であるため、正規学部留学生の学びを最大限にし、その上で特別外国人学生も問題なく参加できるような形を考えていく必要があると感じた。

同じように授業をしても、学生からの評価が様々であることから、先生方が戸惑っているところが見受けられた。授業をする際に、授業の進め方等について、しっかりと学生に説明していくことについて、日本語教育センターとしても、FD等を通して周知していきたい。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

改善に向けた方針としては、大きく2つに分けられる。1つ目は、配付資料に関するものである。配付資料の閲覧時期の問題、配付資料のわかりやすさ、配付資料の量や種類に関するものである。この点については、教員個人の判断を超える部分もあるため、FD等を通して、学生によりわかりやすい形での配付資料を考え、改善を図ってきたい。

2つ目は、授業形態に関するものである。「書く」スキルのように個人での活動が中心となるもの、「聞く、話す」のように他者とのインターアクションを通じた活動が中心となるものがあるが、「個人活動」と「協働」のバランスをどのようにうまく組み合わせる授業を構成していくのか、今後の改善を考えたいという記述があった。こちらについても、教員個人の工夫に任せるところ、センター全体で改善を図っていくべきところをしっかりと把握して授業全体の質を高めていきたい。

今回、学生からの評価に対して、様々な所見が見られたが、どの所見も授業をよくしていく、さらに改善していくという視点に基づくものであり、個々の教員が自分の授業に対してしっかりと向き合っていることが読み取れる内容であった。

4. 今後の改善に向けて

学生に言語 B 学習の意義を伝え、学生に役立つようにと開発が進められている言語 B 新カリキュラムは 2024 年度によいよ始動、それに向けて各研究室では目下その最終準備が行われている。これまで、授業運営は学習者の学習意欲の差に大きく左右され、それがこの

ような授業アンケートの結果に如実に現れていたのは周知の事実である。しかし学習者のモチベーションの確保や維持という旧来からの課題に加えて、次年度以降、言語横断のカリキュラムを提供するとなると、授業担当者の授業に対する熱意や丁寧な取り組みが、学習意欲と同じあるいはそれ以上に学習者一人ひとりの学びに多大な影響を与えると予想される。すでに統一カリキュラムで授業実施している英語教育研究室の課題は今後言語 B 各言語にもあてはまることとなるだろう。研究室内における有意義な FD が繰り返し実施されることは不可欠であるとともに、言語を超えたつながりも大切にし、より良い全学共通科目・言語系科目を提供できるよう教員が個々に高い意識をもって努めていきたい。

4-14 学校・社会教育講座

1. 科目選定方針とねらい

毎年度、学校・社会教育講座（以下講座）の授業評価アンケートは、教職課程に関しては原則として講義科目を対象とした1教員1科目、学芸員課程などの他課程に関しては各課程で重点を置いている科目を選定し、数年にわたって広い科目を網羅できるように配慮がなされている。また、履修者が5名以下の科目については、実施見送りとしている。

毎年度、継続的に履修者の授業評価を蓄積することで、個々の教員の授業の特質を見直し、授業に対する履修者の見方の動向を把握することが可能になると考えられる。履修者の「学び」に対するリクエストに、よりマッチした授業の提供につながるものと考えている。

今年度は、コロナ禍がまだ続いていたが、社会的情勢が変化してきたため、対面授業を大きく復活させた。授業評価アンケートは、科目選定方針に従い、68科目において実施した。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

今回の講座におけるアンケート実施科目は、春学期37科目、秋学期31科目の合計68科目であった。当該科目の履修者数は2,682名、そのうち回答者数は1,304名、回答率は48.6%であった。前回は43.2%であり、回答率は幾分上がった。学部全体の回答率は34.2%で、例年同様、講座はやや高めの回答率である。

なお、回答者の学年は、1年生541名、2年生390名、3年生286名、4年生57名、その他30名で、これまでと同様、下の学年ほど回答者が多い。1、2年次には講義を中心とした科目を、3、4年次には実習や演習系の科目を配置しているが、今回は、3年生以上の回答者も少なくなかった。

I「学生の学習姿勢」では、「この授業に積極的に参加した」が4.34であり、前回とほぼ同じであった。履修者が免許状や資格取得に向け、モチベーションを上昇、維持させつつ、各々の目標に対して学びを進めている様子が見受けられる。

一方、「この授業に関連して、授業以外に学習した時間」は1.17時間で、前回の1.22時間をわずかに下回ったが、概ね例年と同様に、各履修者が自主的学習を広げ、深めている可能性がうかがえる。履修者の過度な負担にならぬよう、担当教員は、適切な質と量の課題を設定し、知識の深化や興味関心の広がりをめざせるよう検討していきたい。

II「教員の授業改善に向けて」では、「各回の授業内容は明確だった」が4.44、「教員の伝え方はわかりやすかった」が4.37で、例年同様、履修者からの高い評価を得ることができていた。担当教員が、各回の授業でねらいや目標を明確に示しつつ、様々なツールを適宜効果的に活用し、授業を進めていることが推察される。

具体的に効果的であったと評価されているものは、「配付資料（授業のレジメなど）」が67.6%、「パワーポイント」が46.3%となっている。同時に、II5の「この授業で改善すべきだと思った点はありますか」という項目について、「上記にあてはまるものがない」と63.4%の履修者が回答していることから、各教員が効果的な教材準備に関わる安定した水準を保ち、授業を進めているものと推察できる。

自由記述には、「教員の熱意が感じられた」というコメントが少なくない。各担当教員の授業に対する思いが伝わっているようであり、さらなるブラッシュアップを期待したい。

III1「この授業から得ることができたものはありますか」では、「自分にとって新しい考え

方・発想」が 60.9%、「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」が 72.5%で、高い評価を得られている。ただし、「自分で調べ考える姿勢」は 22.0%、「学問的興味」は 36.0%で、必ずしも低水準ではないにせよ、今後、さらに検討する余地があると言えるだろう。履修者の興味関心を、より自ら学ぶ姿勢につなげていくことが今後の課題である。

「学年別平均値」に関しては、I 1「この授業に積極的に参加した」では 1 年生 4.32、2 年生 4.29、3 年生 4.44、4 年生 4.40 と、微妙な差ながら高い学年の方が好評価をうかがわせる結果であり、II の各項目にも同様の傾向が見られる。III の授業満足度に至っては、1 年生 4.35、2 年生 4.40、3 年生 4.52、4 年生 4.56 と漸増傾向が明らかである。

この結果は、学年が上がるにつれ回答者数は少なくなるので、偏りがある可能性もあるが、資格課程という特性上、熱意のある学生が高い学年まで履修を続けているからとも考えられる。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

多くの教員が、授業資料を工夫したり、ディスカッションを取り入れたりなどの工夫を凝らしていた様子うかがえた。履修者からのコメントや質問に対し、丁寧に応答するように尽力していた、という所見を多く見ることができた。また、授業資料について、履修者にとって最適な質と量とを、今後も継続的に検討したいとの積極的な所見が散見された。

履修者からの、「教員の伝え方はわかりやすかった」、「この授業を受けて満足した」の項目での高い評価は、安心とともに励みであると記している教員が多い。各担当授業を、引き続きより良いものにしようとするモチベーションにつなげているものと考えられる。

1) 所見票に現れた学生の意見（記述による評価）の集約

履修者の授業に対する積極的な肯定の意見としては、やはり、他の履修者や担当教員とのコミュニケーションに関するものが多く見られた。「グループディスカッションで学びが深まった」など積極的な参加型授業が好評価であり、また各教員が履修者からの質問に丁寧に応じている様子もうかがえた。

一方で、まだコロナ禍にあり、対面授業が大きく復活しても、コロナ禍前のようなディスカッションが制限される場合もあり、そこでオンライン授業時のチャット等を用いようとして中途半端になった様子もうかがわれた。

リアクションペーパーに対する教員の振り返り時間について、長すぎるという苦情が散見されたが、オンライン授業では双方向性が限定されるため、教員の説明が否応なく簡潔であった可能性がうかがわれる。

対面授業、オンライン授業それぞれのメリットをどう活かしていくのか、今は検討する過渡期のようなのである。

2) 上記 1) に対する担当教員の所見のまとめ

先に記した通り、多くの教員が、履修者の高い評価に安堵しながら、配付教材や課題の量など、さらに適切に改善する姿勢を示していた。

オンライン授業の場合には、前回までと同様、履修者の表情を直接うかがえない状況のなかでも、何とか双方向性を担保し、単調にならない工夫をする様子うかがえた。

対面授業を実施した教員の多くは、やはり対面授業の復活を歓迎し、そのメリットの復活

を模索した跡を記していた。ただ、まだ過渡的混乱も散見された。

なお、所見の内容以前の問題として、長文の所見を寄せた教員がある一方で、今回は授業評価アンケート実施 68 科目のうち、実に 16 科目が所見不記入であり、また 2、3 行に留まる科目が 8 科目あった。不記入 23.5%は決して低い割合ではない。その意図は不明であるし、記入を強制、義務化するわけにはいかないが、回答率自体が極めて低い科目はただしも、履修者の回答率が高い科目については、せめて数行でも記入して応えて欲しかったと極めて遺憾に思う。

授業の充実、改善策と同時に、授業評価アンケートの形式、実施方法、所見記入というあり方それ自体も、見直すべき過渡期にあるのかもしれない、と感じさせられた。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

繰り返しになるが、所見からは、いずれの教員も、履修者の声に真摯に耳を傾け、その声を前向きに活かしていこうとする様子が伝えられていた。この点に関しては、担当教員が日ごろの授業において、履修者一人ひとりを尊重し、理解しようとしていた姿がうかがえた。

ただし、同時に前項末尾のような問題もあることを指摘しておきたい。

4. 今後の改善に向けて

例年同様、今回も講座においてアンケート対象となった科目については、履修者からは一定の水準以上の高い評価が得られている。講座で提供している授業に関しては、概ね、履修者の期待や求める内容に、十分応えられているという現状をうかがい知ることができる。

コロナ禍となり、急遽、オンライン授業を余儀なくされて3年度経過し、対面授業が大幅に復活したが、まだまだ戸惑いを残す現状を否めない。オンライン、対面、双方のメリットを活かしていく方策は、これからの検討課題である。

それでも、履修者と教員との双方で、有意義な授業を作り上げていこうとする雰囲気は随所から伝わってきたとも感じている。今後も履修者の目的やニーズを的確に把握し、高いモチベーションを維持できるような授業を提供していくとともに、履修者が新たな発見や着想を得られるよう、各教員が常に自身の授業をブラッシュアップさせていく心構えを期待していきたい。

5. 2022 年度のまとめと今後の展望

大学教育開発・支援センター

TL (Teaching&Learning) 部会長 佐々木 直樹

1. はじめに

本学における「学生による授業評価アンケート」は、大学教育開発・支援センターが中心となり、教務部や情報企画室（メディアセンター）の協力を得て実施している。アンケートに回答してくださった学生のみなさんや、所見の執筆にあたった教員各位を始めとして、本件に関わる全てのみなさまにまずは感謝を申し上げたい。

アンケート結果と各学部等総評を踏まえ、多くの学部等に共通すると思われる事項、および今後の授業改善において重要になるとと思われる事項について、以下にまとめてみたい。

2. 学部等別の回答率

2022 年度の回答率は 34.2%であり、2021 年度の 37.9%から 3.7%の減であった。ただ、2022 年度は 3 年に一度の「1 教員 1 科目」の原則によってアンケートが実施されたため、2021 年度に比べてアンケート実施科目とその履修者数が増加傾向にあることに留意する必要がある。アンケート実施科目の履修者数が 2021 年度に比べて 2 倍を超えた 6 学部に着目すると、回答率は 3 学部で 15%以上減少したが、2 学部では 0.5%減、1 学部では 2.0%増であった。残りの 8 学部等では、10%を超えるような減少は見られていない。

アンケート実施科目が増えることにより、アナウンスの行き届かない科目が生じるなどの理由で、回答率が低下することも考えられる。しかし、上述の学部等別の回答率から判断するに、必ずしもそうはならないようである。各学部等によって科目の選定方針は異なるため、それも踏まえたうえで現状を分析し、回答率向上のための方策をご検討いただきたい。

なお、大学教育開発・支援センターでは、2022 年度にアンケートを実施した科目のうち、履修者数 50 名以上で回答率 70%以上の科目の担当教員に、アンケート実施上の工夫を伺い、それを 2023 年度春学期のアンケート実施時に各担当教員に共有している。総じて、ちょっとした工夫が高い回答率につながっているようであるため、参考としていただきたい。

3. 担当教員の所見未記入

授業評価アンケートは、学生による回答と教員による所見とが対を成すものであり、その意味においては全ての科目で所見が示されるべきであろう。しかし例えば、「担当教員の 7 割近くが所見を記入した」（異文化コミュニケーション）という記述は、裏を返せば 3 割近くは所見を記入していないことを意味する。他の学部等でも「科目によって所見における記述の有無や詳細度にも差がみられた」（経営）、「担当教員の所見を書かない専任教員が 31 人中 4 人居たことは残念である」（コミュニティ福祉）、「長文の所見を寄せた教員がある一方で、今回は授業評価アンケート実施 68 科目のうち、実に 16 科目が所見不記入であり、また 2、3 行に留まる科目が 8 科目あった」（学校・社会教育講座）など、類似の記述が少なからず見られる。

原因の一つとして、回答者数が少ないことが考えられる。「今年度は所見の記入をいただ

けなかったケースが半数となった。記入いただけなかった科目は回答者数が数名であるため所見を付けることが困難であったものと思われる」(GLAP)、「担当教員の所見が記入されていないケースは21%にのぼっている。所見が記入されていないケースのうち9割が、回答率5割未満の科目である。単純集計を通覧してのみの過剰解釈は避けるべきだが、示唆的な結果とは思われる」(全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目・多彩な学び・人間の探究)などの記述が見受けられた。やはり、回答率を向上させることが、授業評価アンケートの意義を向上させることにつながると思われる。

4. おわりに

この文章ではアンケートを実施する教員側への言及が主となったが、アンケートに回答する学生にも主体的な参加が期待されていることを忘れてはいけない。大学は教員が知識や技術を学生に教授するだけの場ではなく、創造的な知の営みを教員と学生が一緒になって進めていく場である。授業評価アンケートの目的を教員と学生とが共に再確認した上で取り組み、本学の教育力向上につながることを期待したい。

6. 2022 年度集計データ（資料編）

6-1 回答者数・回答率

延べ回答者数 66,324 名

表1 学部等別履修者数と回答者数、および回答率

科目開設学部等	履修者数	回答者数	回答率
文学部	20,899	6,545	31.3%
経済学部	19,603	5,499	28.1%
理学部	7,784	2,579	33.1%
社会学部	16,935	4,504	26.6%
法学部	12,951	3,292	25.4%
経営学部	11,576	1,682	14.5%
異文化コミュニケーション学部	2,716	1,112	40.9%
グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター	191	120	62.8%
観光学部	10,939	2,592	23.7%
コミュニティ福祉学部	12,818	3,753	29.3%
現代心理学部	6,386	1,980	31.0%
全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目	41,044	12,307	30.0%
全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目	27,448	19,055	69.4%
学校・社会教育講座	2,682	1,304	48.6%
合計	193,972	66,324	34.2%

注1) 履修者数・回答者数は、アンケート実施科目の延べ履修者、回答者

注2) 学部等は、アンケート実施科目の開設学部により分類した

表2 学部等別学年別の回答者数

科目開設学部等	1年	2年	3年	4年	その他	合計
文学部	1,765	2,099	1,896	774	11	6,545
経済学部	2,682	1,176	1,148	481	12	5,499
理学部	1,149	636	657	127	10	2,579
社会学部	1,956	1,186	1,003	357	2	4,504
法学部	1,193	1,051	706	337	5	3,292
経営学部	292	597	513	247	33	1,682
異文化コミュニケーション学部	395	315	282	105	15	1,112
グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター	32	40	27	11	10	120
観光学部	647	746	992	203	4	2,592
コミュニティ福祉学部	1,330	1,168	991	259	5	3,753
現代心理学部	516	839	475	143	7	1,980
全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目	6,304	2,964	1,838	954	247	12,307
全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目	17,433	962	382	205	73	19,055
学校・社会教育講座	541	390	286	57	30	1,304
合計	36,235	14,169	11,196	4,260	464	66,324

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 学年は、当該学部等で実施したアンケートに回答した学生の学年を示す（その他：本学学部生以外）

注3) 学部等により実施科目の選定方針が異なるため、学年の偏りがある

6-2 全学集計

表3-1 設問項目別平均値・回答割合／全学①（全科目）

表3-1-1 全学①（平均値）

設問項目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	65,873	4.32	0.76
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	33,811	1.36	2.23
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	66,111	4.36	0.78
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	65,960	4.25	0.89
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	66,007	4.30	0.85

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いに思う、4:思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表3-1-2 全学①（回答割合）

設問項目	全有効回答者数	66,324
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	65,442 ^{*1}	98.7%
①配付資料（授業のレジュメなど）	33,859	51.1%
②板書（電子媒体のものを含む）	12,309	18.6%
③パワーポイント	24,192	36.5%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	15,964	24.1%
⑤シラバス	5,200	7.8%
⑥上記にあてはまるものがない	6,686	10.1%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	12,066 ^{*2}	18.2%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	58,489 ^{*1}	88.2%
①配付資料（授業のレジュメなど）	8,649	13.0%
②板書（電子媒体のものを含む）	4,789	7.2%
③パワーポイント	3,736	5.6%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	2,498	3.8%
⑤シラバス	2,021	3.0%
⑥上記にあてはまるものがない	41,271	62.2%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	9,435 ^{*2}	14.2%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	65,898 ^{*1}	99.4%
①自分にとって新しい考え方・発想	33,427	50.4%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	37,919	57.2%
③自分で調べ考える姿勢	17,018	25.7%
④学問的興味	24,275	36.6%
⑤上記にあてはまるものがない	2,279	3.4%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	4,191 ^{*2}	6.3%

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表3-2 設問項目別平均値・回答割合／全学②
(全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目を除く)

表3-2-1 全学② (平均値)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	46,968	4.26	0.79
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に) *	25,532	1.23	2.12
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	47,107	4.32	0.79
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	46,989	4.20	0.91
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	47,082	4.28	0.85

注1) 回答者数は延べ人数
注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用し算出
(5:大いに思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)
*I2の単位は「時間」

表3-2-2 全学② (回答割合)

設 問 項 目	全有効回答者数	47,269
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	46,690 ^{*1}	98.8%
①配付資料 (授業のレジюмеなど)	27,093	57.3%
②板書 (電子媒体のものを含む)	7,401	15.7%
③パワーポイント	17,076	36.1%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	12,277	26.0%
⑤シラバス	3,143	6.6%
⑥上記にあてはまるものがない	3,965	8.4%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	8,579 ^{*2}	18.1%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	41,665 ^{*1}	88.1%
①配付資料 (授業のレジюмеなど)	7,005	14.8%
②板書 (電子媒体のものを含む)	3,521	7.4%
③パワーポイント	3,041	6.4%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	1,809	3.8%
⑤シラバス	1,426	3.0%
⑥上記にあてはまるものがない	28,265	59.8%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	7,285 ^{*2}	15.4%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	46,998 ^{*1}	99.4%
①自分にとって新しい考え方・発想	25,136	53.2%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	29,365	62.1%
③自分で調べ考える姿勢	9,600	20.3%
④学問的興味	19,384	41.0%
⑤上記にあてはまるものがない	1,156	2.4%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	2,624 ^{*2}	5.6%

注1) 回答者数

*1: 当該設問 (複数選択可) の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2: 当該設問 (自由記述) に回答 (記述) した者の延べ人数

上記 (*1 および *2) 以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 4-1 設問項目別平均値（学部等間比較）

全学および学部等別延べ回答者数およびアンケート実施科目数

学部等	全学①	全学②	文	経済	理	社	法	経営	異文化	GLAP	観光	コミ福	現心	全・総合	全・言語	講座
回答者数	66,324	47,269	6,545	5,499	2,579	4,504	3,292	1,682	1,112	120	2,592	3,753	1,980	12,307	19,055	1,304
科目数	2,896	1,560	251	192	113	104	70	60	67	12	91	121	65	346	1,336	68

注) 下表の平均値は、科目数ではなく、該当科目の延べ回答者数により算出

注) 全学①は全科目、全学②は全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目を除く全科目

学部間等比較

I 学生の学習姿勢	設問項目	(単位:%)															
		全学①	全学②	文	経済	理	社	法	経営	異文化	GLAP	観光	コミ福	現心	全・総合	全・言語	講座
I1	この授業に積極的に参加した	4.32	4.26	4.28	4.29	4.26	4.15	4.18	4.25	4.32	4.18	4.21	4.28	4.27	4.28	4.49	4.34
I2	この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間)	1.36	1.23	1.25	1.34	1.93	1.00	1.17	1.36	1.54	2.64	1.04	1.12	1.01	1.14	1.77	1.17
II 教員の授業改善に向けて																	
II1	各回の授業内容は明確だった	4.36	4.32	4.41	4.26	4.25	4.20	4.30	4.36	4.43	4.37	4.27	4.34	4.42	4.34	4.46	4.44
II2	教員の伝え方はわかりやすかった	4.25	4.20	4.30	4.10	4.06	4.05	4.17	4.25	4.38	4.21	4.15	4.23	4.31	4.24	4.38	4.37
III 学生が授業に期待するもの																	
III1	この授業を受けて満足した	4.30	4.28	4.37	4.18	4.12	4.15	4.26	4.35	4.43	4.23	4.32	4.38	4.29	4.35	4.41	4.41

注) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

* I2の単位は「時間」

表4-2 設問項目別回答割合（学部等間比較）

全学および学部等別延べ回答者数およびアンケート実施科目数

学部等	全学①	全学②	文	経済	理	社	法	経営	異文化	GLAP	観光	コミ福	現心	全・総合	全・言語	講座
回答者数	66,324	47,269	6,545	5,499	2,579	4,504	3,292	1,682	1,112	120	2,592	3,753	1,980	12,307	19,055	1,304
科目数	2,896	1,560	251	192	113	104	70	60	67	12	91	121	65	346	1,336	68

注) 全学①は全科目、全学②は全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目を除く全科目

学部間等比較

(単位:%)

設問項目	全学①	全学②	文	経済	理	社	法	経営	異文化	GLAP	観光	コミ福	現心	全・総合	全・言語	講座
II 教員の授業改善に向けて																
II3 この授業でよいと思った点はありませんか【複数選択可】	98.7	98.8	99.0	98.3	98.5	98.8	98.5	99.0	98.5	100.0	98.7	98.5	99.1	99.0	98.4	99.5
①配付資料（授業のレジュメなど）	51.1	57.3	60.6	60.8	55.8	52.7	58.1	57.9	52.9	38.3	55.4	61.0	57.0	54.5	35.5	67.6
②板書（電子媒体のものを含む）	18.6	15.7	16.2	19.5	35.0	10.7	17.6	13.1	19.2	26.7	14.1	11.5	11.3	13.2	25.8	14.5
③パワーポイント	36.5	36.1	31.1	30.0	24.5	38.1	31.8	41.0	48.1	73.3	40.0	35.8	32.8	41.1	37.3	46.3
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	24.1	26.0	28.6	6.4	8.5	30.3	17.4	19.1	33.5	36.7	25.8	31.7	46.9	33.0	19.3	23.4
⑤シラバス	7.8	6.6	7.5	5.7	6.6	5.0	5.7	8.3	14.4	23.3	5.7	5.1	5.6	7.4	10.8	5.0
⑥上記にあてはまるものがない	10.1	8.4	8.5	11.2	10.7	7.8	12.1	7.1	8.3	7.5	6.9	6.7	6.0	7.5	14.3	5.8
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外での授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	18.2	18.1	18.2	16.3	18.3	12.4	19.3	15.2	23.3	26.7	18.0	17.7	17.5	20.4	18.3	22.2
II5 この授業で改善すべき点かと思っただ点はありませんか【複数選択可】	88.2	88.1	87.3	90.5	88.4	88.8	90.1	90.5	86.0	95.0	87.7	85.1	85.9	88.3	88.3	85.0
①配付資料（授業のレジュメなど）	13.0	14.8	11.7	16.7	15.6	15.9	17.5	15.5	11.5	10.0	17.1	12.7	14.3	15.3	8.6	10.8
②板書（電子媒体のものを含む）	7.2	7.4	5.7	11.8	11.2	6.1	11.6	7.4	4.0	12.5	7.5	5.9	5.0	6.5	6.7	4.3
③パワーポイント	5.6	6.4	5.0	6.3	5.5	8.5	7.5	7.5	7.9	13.3	6.3	5.8	5.2	6.6	3.6	5.8
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	3.8	3.8	2.5	4.1	4.3	4.5	3.9	6.4	3.7	5.0	4.8	3.5	3.5	3.7	3.6	3.5
⑤シラバス	3.0	3.0	2.8	3.5	3.5	3.2	2.4	5.1	2.1	6.7	2.8	2.5	1.9	3.2	3.1	2.2
⑥上記にあてはまるものがない	62.2	59.8	64.3	57.5	57.3	58.2	56.9	56.5	62.6	62.5	56.9	60.6	61.4	60.2	68.3	63.4
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外での授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	14.2	15.4	14.1	16.6	19.4	12.4	18.3	13.4	16.8	30.8	15.0	13.4	12.9	16.1	11.3	15.6
III 学生が授業に期待するもの																
III1 この授業から得ることができたものはありませんか【複数選択可】	99.4	99.4	99.5	99.2	99.3	99.4	99.2	99.2	99.6	100.0	99.7	99.5	99.5	99.5	99.2	99.5
①自分にとって新しい考え方・発想	50.4	53.2	56.5	34.4	37.6	56.2	38.8	48.7	62.8	67.5	52.7	56.8	61.6	62.3	43.5	60.9
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	57.2	62.1	63.7	65.4	75.5	59.3	69.7	70.8	65.7	70.0	61.3	63.4	68.6	52.1	44.9	72.5
③自分で調べ考える姿勢	25.7	20.3	25.1	21.8	23.7	18.0	16.2	18.7	27.3	48.3	19.4	19.4	16.0	18.6	38.9	22.0
④学問的興味	36.6	41.0	49.2	29.2	40.2	36.4	43.4	36.2	45.6	50.0	38.6	38.0	48.5	44.0	25.7	36.0
⑤上記にあてはまるものがない	3.4	2.4	1.7	3.5	3.2	2.8	2.5	2.1	2.1	2.5	2.5	2.2	1.3	2.5	5.9	2.1
III2 III1以外での授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	6.3	5.6	6.2	5.5	3.9	4.1	5.7	3.4	7.7	17.5	5.2	4.8	3.2	6.5	8.2	7.8

注) 割合の算出
回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表5-1 授業規模別平均値・回答割合／全学①（全科目）

授業規模は履修者数ではなく、実際の出席者数に近いと思われる回答者数を使用した。

授業規模別延べ回答者数およびアンケート実施科目数

授業規模	50名以下	51～100名	101～150名	151名以上	合計
回答者数	41,462	14,838	7,190	2,834	66,324
科目数	2,607	213	60	16	2,896

注) 下表の平均値は、授業規模別の科目数ではなく、該当科目の延べ回答者数により算出

表5-1-1 全学①（平均値）

設問項目	50名以下	51～100名	101～150名	151名以上
I 学生の学習姿勢				
I1 この授業に積極的に参加した	4.36	4.25	4.26	4.34
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	1.44	1.26	1.21	1.05
II 教員の授業改善に向けて				
II1 各回の授業内容は明確だった	4.40	4.30	4.26	4.39
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	4.30	4.17	4.13	4.29
III 学生が授業に期待するもの				
III3 この授業を受けて満足した	4.34	4.24	4.16	4.35

注) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

* I2の単位は「時間」

表5-1-2 全学①（回答割合）

(単位:%)

設問項目	50名以下	51～100名	101～150名	151名以上
II 教員の授業改善に向けて				
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	98.6	98.8	98.8	98.9
①配付資料（授業のレジュメなど）	49.5	55.7	48.8	55.6
②板書（電子媒体のものを含む）	21.4	14.0	13.2	15.1
③パワーポイント	35.9	36.7	36.9	42.4
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	22.5	25.1	29.0	29.1
⑤シラバス	8.6	6.6	6.5	6.6
⑥上記にあてはまるものがない	11.0	8.4	9.1	7.8
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	18.5	17.3	17.3	20.4
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	87.8	88.8	89.0	89.4
①配付資料（授業のレジュメなど）	11.7	14.9	16.3	14.9
②板書（電子媒体のものを含む）	7.0	7.1	8.6	7.9
③パワーポイント	4.9	6.7	7.0	7.2
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	3.4	4.3	4.5	4.2
⑤シラバス	3.0	3.3	3.2	2.5
⑥上記にあてはまるものがない	64.0	59.7	57.9	59.9
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	13.6	15.2	15.8	14.5
III 学生が授業に期待するもの				
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	99.4	99.3	99.2	99.5
①自分にとって新しい考え方・発想	49.8	51.0	50.9	54.8
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	57.2	59.0	53.5	57.4
③自分で調べ考える姿勢	30.1	18.0	17.5	22.0
④学問的興味	35.7	39.2	34.1	42.3
⑤上記にあてはまるものがない	3.4	3.2	4.5	2.2
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	6.9	4.9	5.9	6.9

注) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表5-2 授業規模別平均値・回答割合/全学②(全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目を除く)

授業規模は履修者数ではなく、実際の出席者数に近いと思われる回答者数を使用した。

授業規模別延べ回答者数およびアンケート実施科目数

授業規模	50名以下	51~100名	101~150名	151名以上	合計
回答者数	25,281	13,371	5,783	2,834	47,269
科目数	1,300	196	48	16	1,560

注) 下表の平均値は、授業規模別の科目数ではなく、該当科目の延べ回答者数により算出

表5-2-1 全学②(平均値)

設問項目	50名以下	51~100名	101~150名	151名以上
I 学生の学習姿勢				
I1 この授業に積極的に参加した	4.27	4.23	4.22	4.34
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間(平均して、1週間に)*	1.31	1.20	0.98	1.05
II 教員の授業改善に向けて				
II1 各回の授業内容は明確だった	4.34	4.30	4.27	4.39
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	4.23	4.16	4.14	4.29
III 学生が授業に期待するもの				
III3 この授業を受けて満足した	4.30	4.25	4.20	4.35

注) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

* I2の単位は「時間」

表5-2-2 全学②(回答割合)

(単位:%)

設問項目	50名以下	51~100名	101~150名	151名以上
II 教員の授業改善に向けて				
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	98.7	98.8	99.0	98.9
①配付資料(授業のレジュメなど)	57.7	58.8	53.0	55.6
②板書(電子媒体のものを含む)	17.1	14.1	13.3	15.1
③パワーポイント	35.1	36.8	35.9	42.4
④動画等の映像視覚教材(オンライン授業そのものの動画ではありません)	24.7	25.4	31.4	29.1
⑤シラバス	7.4	6.0	5.0	6.6
⑥上記にあてはまるものがない	9.1	7.4	7.8	7.8
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	18.1	17.8	18.1	20.4
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	87.6	88.6	88.8	89.4
①配付資料(授業のレジュメなど)	13.9	15.4	17.6	14.9
②板書(電子媒体のものを含む)	7.1	7.4	9.0	7.9
③パワーポイント	5.8	7.0	7.3	7.2
④動画等の映像視覚教材(オンライン授業そのものの動画ではありません)	3.6	4.2	3.9	4.2
⑤シラバス	3.0	3.1	2.9	2.5
⑥上記にあてはまるものがない	61.0	59.1	56.1	59.9
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	15.3	15.5	16.2	14.5
III 学生が授業に期待するもの				
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	99.5	99.4	99.3	99.5
①自分にとって新しい考え方・発想	53.2	52.6	53.7	54.8
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	63.7	61.5	58.9	57.4
③自分で調べ考える姿勢	23.5	16.7	14.1	22.0
④学問的興味	41.4	41.4	37.7	42.3
⑤上記にあてはまるものがない	2.5	2.3	2.7	2.2
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	5.9	4.7	5.5	6.9

注) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表6-1 学年別平均値・回答割合／全学①（全科目）

学年別延べ回答者数

学年	1年	2年	3年	4年	合計
回答者数	36,235	14,169	11,196	4,260	65,860

注) 学年は、当該学部で実施したアンケートに回答した学生の学年

表6-1-1 全学①（平均値）

設問項目	1年	2年	3年	4年
I 学生の学習姿勢				
I1 この授業に積極的に参加した	4.39	4.25	4.22	4.24
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	1.55	1.17	1.18	1.18
II 教員の授業改善に向けて				
II1 各回の授業内容は明確だった	4.36	4.36	4.33	4.43
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	4.25	4.25	4.23	4.31
III 学生が授業に期待するもの				
III3 この授業を受けて満足した	4.28	4.31	4.30	4.38

注) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

* I2の単位は「時間」

表6-1-2 全学①（回答割合）

(単位:%)

設問項目	1年	2年	3年	4年
II 教員の授業改善に向けて				
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	98.7	98.6	98.9	98.6
①配付資料（授業のレジュメなど）	45.1	57.6	59.2	57.8
②板書（電子媒体のものを含む）	21.1	15.6	15.1	14.9
③パワーポイント	37.6	35.4	32.8	38.1
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	22.2	25.3	26.5	28.3
⑤シラバス	8.2	7.3	6.5	7.9
⑥上記にあてはまるものがない	11.5	8.2	8.6	8.6
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	19.0	14.8	17.0	22.7
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	88.9	87.4	87.4	87.7
①配付資料（授業のレジュメなど）	11.7	13.7	15.3	15.7
②板書（電子媒体のものを含む）	7.5	6.6	7.3	6.4
③パワーポイント	5.5	5.7	6.1	5.1
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	3.7	3.2	4.4	4.0
⑤シラバス	3.0	3.0	3.0	3.2
⑥上記にあてはまるものがない	64.2	61.3	58.5	59.4
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	13.5	13.4	15.3	18.2
III 学生が授業に期待するもの				
III1 この授業から得ることができたものはありますか【複数選択可】	99.3	99.4	99.4	99.3
①自分にとって新しい考え方・発想	48.5	51.3	52.6	55.9
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	51.4	65.2	63.9	60.9
③自分で調べ考える姿勢	30.5	20.5	18.3	19.4
④学問的興味	32.4	42.4	40.1	43.0
⑤上記にあてはまるものがない	4.5	2.1	2.3	2.1
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	7.4	4.2	4.7	6.8

注) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表6-2 学年別平均値・回答割合/全学②（全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目を除く）

学年別延べ回答者数

学年	1年	2年	3年	4年	合計
回答者数	18,802	13,207	10,814	4,055	46,878

注) 学年は、当該学部で実施したアンケートに回答した学生の学年

表6-2-1 全学②（平均値）

設問項目	1年	2年	3年	4年
I 学生の学習姿勢				
I1 この授業に積極的に参加した	4.30	4.24	4.21	4.23
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	1.35	1.13	1.16	1.16
II 教員の授業改善に向けて				
II1 各回の授業内容は明確だった	4.28	4.35	4.32	4.41
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	4.15	4.23	4.22	4.30
III 学生が授業に期待するもの				
III3 この授業を受けて満足した	4.23	4.30	4.29	4.37

注) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

* I2の単位は「時間」

表6-2-2 全学②（回答割合）

(単位:%)

設問項目	1年	2年	3年	4年
II 教員の授業改善に向けて				
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	98.9	98.6	98.9	98.6
①配付資料（授業のレジュメなど）	55.4	58.0	59.5	58.0
②板書（電子媒体のものを含む）	16.8	14.6	14.9	14.6
③パワーポイント	38.3	35.0	32.6	37.2
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	25.5	25.3	26.5	28.2
⑤シラバス	5.9	7.0	6.4	7.5
⑥上記にあてはまるものがない	8.5	8.2	8.4	8.7
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	20.0	14.5	16.8	22.3
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	89.1	87.6	87.4	87.9
①配付資料（授業のレジュメなど）	14.6	14.1	15.6	16.3
②板書（電子媒体のものを含む）	8.4	6.5	7.3	6.5
③パワーポイント	7.2	5.8	6.2	5.2
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	3.7	3.3	4.4	4.1
⑤シラバス	3.0	2.9	3.0	3.3
⑥上記にあてはまるものがない	60.1	61.2	58.1	58.9
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	15.7	13.5	15.4	18.1
III 学生が授業に期待するもの				
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	99.5	99.4	99.4	99.3
①自分にとって新しい考え方・発想	52.6	52.5	53.2	56.7
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	59.2	65.0	63.9	60.8
③自分で調べ考える姿勢	22.1	19.8	17.8	18.8
④学問的興味	39.8	42.5	40.3	43.2
⑤上記にあてはまるものがない	3.0	1.9	2.3	1.9
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	6.6	4.0	4.5	6.4

注) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

6-3 学部等別設問項目別平均値・回答割合

表7-1 文学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	6,509	4.28	0.75
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	3,567	1.25	1.94
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	6,529	4.41	0.72
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	6,506	4.30	0.82
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	6,535	4.37	0.78

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表7-2 文学部（回答割合）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
全有効回答者数 6,545		
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	6,480 ^{*1}	99.0%
①配付資料（授業のレジュメなど）	3,969	60.6%
②板書（電子媒体のものを含む）	1,063	16.2%
③パワーポイント	2,034	31.1%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	1,872	28.6%
⑤シラバス	490	7.5%
⑥上記にあてはまるものがない	557	8.5%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	1,194 ^{*2}	18.2%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	5,716 ^{*1}	87.3%
①配付資料（授業のレジュメなど）	769	11.7%
②板書（電子媒体のものを含む）	374	5.7%
③パワーポイント	324	5.0%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	165	2.5%
⑤シラバス	180	2.8%
⑥上記にあてはまるものがない	4,209	64.3%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	926 ^{*2}	14.1%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	6,514 ^{*1}	99.5%
①自分にとって新しい考え方・発想	3,696	56.5%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	4,166	63.7%
③自分で調べ考える姿勢	1,640	25.1%
④学問的興味	3,219	49.2%
⑤上記にあてはまるものがない	112	1.7%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	404 ^{*2}	6.2%

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表8-1 経済学部 (平均値)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	5,453	4.29	0.83
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に) *	2,906	1.34	2.28
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	5,476	4.26	0.87
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	5,467	4.10	1.01
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	5,475	4.18	0.91
IV 学部等による設問			
IV1 (基礎ゼミナール1) 経済関連の文献を読む力がついた	387	3.97	0.94
IV2 (基礎ゼミナール1) レジюмеやレポート作成の力がついた	388	4.28	0.79
IV3 (情報処理入門1) 表計算ソフト (Excel) の応用力が身についた	292	4.29	0.78
IV4 (情報処理入門1) Power Point でプレゼンテーション資料を作成する力が身についた	291	4.14	0.92
IV5 (情報処理入門1) WEB上から経済資料・統計資料を入手する力が身についた	293	4.30	0.77

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大にそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表8-2 経済学部 (回答割合)

設 問 項 目	全有効回答者数	5,499
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	5,405 ^{*1}	98.3%
①配付資料 (授業のレジюмеなど)	3,345	60.8%
②板書 (電子媒体のものを含む)	1,073	19.5%
③パワーポイント	1,647	30.0%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	354	6.4%
⑤シラバス	311	5.7%
⑥上記にあてはまるものがない	617	11.2%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	899 ^{*2}	16.3%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	4,977 ^{*1}	90.5%
①配付資料 (授業のレジюмеなど)	916	16.7%
②板書 (電子媒体のものを含む)	648	11.8%
③パワーポイント	344	6.3%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	226	4.1%
⑤シラバス	192	3.5%
⑥上記にあてはまるものがない	3,164	57.5%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	911 ^{*2}	16.6%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	5,455 ^{*1}	99.2%
①自分にとって新しい考え方・発想	1,891	34.4%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	3,594	65.4%
③自分で調べ考える姿勢	1,200	21.8%
④学問的興味	1,608	29.2%
⑤上記にあてはまるものがない	194	3.5%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	301 ^{*2}	5.5%

注1) 回答者数

*1:当該設問 (複数選択可) の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問 (自由記述) に回答 (記述) した者の延べ人数

上記 (*1 および*2) 以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表9-1 理学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	2,569	4.26	0.82
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	1,654	1.93	2.56
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	2,568	4.25	0.83
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	2,566	4.06	0.97
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	2,565	4.12	0.89
IV 学部等による設問			
IV1 シラバスに沿って授業が行われた	2,568	4.40	0.67
IV2 教員は質問・疑問に対し積極的に答えてくれた	2,566	4.30	0.79
IV3（必修科目のみ）授業で困った際に、練習問題を解き合う等で学生同士が共同して解決策をとった	1,704	4.15	1.06
IV4（1年次必修科目のみ）教員は高校までの授業スタイルとの違いを考慮して授業展開をしてくれた	1,054	3.86	1.00

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表9-2 理学部（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	2,579
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	2,541 ^{*1}	98.5%
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,439	55.8%
②板書（電子媒体のものを含む）	903	35.0%
③パワーポイント	631	24.5%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	219	8.5%
⑤シラバス	170	6.6%
⑥上記にあてはまるものがない	276	10.7%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	472 ^{*2}	18.3%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	2,279 ^{*1}	88.4%
①配付資料（授業のレジュメなど）	402	15.6%
②板書（電子媒体のものを含む）	288	11.2%
③パワーポイント	143	5.5%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	111	4.3%
⑤シラバス	89	3.5%
⑥上記にあてはまるものがない	1,479	57.3%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	500 ^{*2}	19.4%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	2,561 ^{*1}	99.3%
①自分にとって新しい考え方・発想	969	37.6%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1,948	75.5%
③自分で調べ考える姿勢	611	23.7%
④学問的興味	1,036	40.2%
⑤上記にあてはまるものがない	83	3.2%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	100 ^{*2}	3.9%

注1) 回答者数

*1: 当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2: 当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表10-1 社会学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	4,468	4.15	0.83
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	2,477	1.00	1.59
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	4,489	4.20	0.84
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	4,477	4.05	0.96
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	4,499	4.15	0.89

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表10-2 社会学部（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	4,504
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	4,448 ^{*1}	98.8%
①配付資料（授業のレジュメなど）	2,373	52.7%
②板書（電子媒体のものを含む）	480	10.7%
③パワーポイント	1,718	38.1%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	1,364	30.3%
⑤シラバス	227	5.0%
⑥上記にあてはまるものがない	350	7.8%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	557 ^{*2}	12.4%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	3,999 ^{*1}	88.8%
①配付資料（授業のレジュメなど）	718	15.9%
②板書（電子媒体のものを含む）	274	6.1%
③パワーポイント	382	8.5%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	201	4.5%
⑤シラバス	143	3.2%
⑥上記にあてはまるものがない	2,622	58.2%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	559 ^{*2}	12.4%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	4,479 ^{*1}	99.4%
①自分にとって新しい考え方・発想	2,530	56.2%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	2,670	59.3%
③自分で調べ考える姿勢	809	18.0%
④学問的興味	1,641	36.4%
⑤上記にあてはまるものがない	124	2.8%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	184 ^{*2}	4.1%

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 1 1 - 1 法学部 (平均値)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I 1 この授業に積極的に参加した	3,279	4.18	0.86
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に) *	1,642	1.17	1.75
II 教員の授業改善に向けて			
II 1 各回の授業内容は明確だった	3,283	4.30	0.81
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった	3,270	4.17	0.94
III 学生が授業に期待するもの			
III 3 この授業を受けて満足した	3,284	4.26	0.86

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表 1 1 - 2 法学部 (回答割合)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
	全有効回答者数 3,292	
II 教員の授業改善に向けて		
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	3,242 ^{*1}	98.5%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	1,913	58.1%
②板書 (電子媒体のものを含む)	581	17.6%
③パワーポイント	1,046	31.8%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	573	17.4%
⑤シラバス	187	5.7%
⑥上記にあてはまるものがない	398	12.1%
II 4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	637 ^{*2}	19.3%
II 5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	2,965 ^{*1}	90.1%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	577	17.5%
②板書 (電子媒体のものを含む)	382	11.6%
③パワーポイント	246	7.5%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	129	3.9%
⑤シラバス	78	2.4%
⑥上記にあてはまるものがない	1,872	56.9%
II 6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	603 ^{*2}	18.3%
III 学生が授業に期待するもの		
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	3,265 ^{*1}	99.2%
①自分にとって新しい考え方・発想	1,278	38.8%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	2,296	69.7%
③自分で調べ考える姿勢	534	16.2%
④学問的興味	1,430	43.4%
⑤上記にあてはまるものがない	82	2.5%
III 2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	187 ^{*2}	5.7%

注 1) 回答者数

*1:当該設問 (複数選択可) の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問 (自由記述) に回答 (記述) した者の延べ人数

上記 (*1 および *2) 以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 1 2 - 1 経営学部 (平均値)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I 1 この授業に積極的に参加した	1,662	4.25	0.79
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に) *	1,075	1.36	1.92
II 教員の授業改善に向けて			
II 1 各回の授業内容は明確だった	1,676	4.36	0.72
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった	1,673	4.25	0.87
III 学生が授業に期待するもの			
III 3 この授業を受けて満足した	1,674	4.35	0.78

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表 1 2 - 2 経営学部 (回答割合)

設 問 項 目	全有効回答者数	1,682
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1,665 ^{*1}	99.0%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	974	57.9%
②板書 (電子媒体のものを含む)	220	13.1%
③パワーポイント	690	41.0%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	322	19.1%
⑤シラバス	139	8.3%
⑥上記にあてはまるものがない	120	7.1%
II 4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	256 ^{*2}	15.2%
II 5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	1,522 ^{*1}	90.5%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	260	15.5%
②板書 (電子媒体のものを含む)	125	7.4%
③パワーポイント	126	7.5%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	107	6.4%
⑤シラバス	85	5.1%
⑥上記にあてはまるものがない	950	56.5%
II 6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	226 ^{*2}	13.4%
III 学生が授業に期待するもの		
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	1,668 ^{*1}	99.2%
①自分にとって新しい考え方・発想	819	48.7%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1,191	70.8%
③自分で調べ考える姿勢	315	18.7%
④学問的興味	609	36.2%
⑤上記にあてはまるものがない	35	2.1%
III 2 III 1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	57 ^{*2}	3.4%

注 1) 回答者数

*1:当該設問 (複数選択可) の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問 (自由記述) に回答 (記述) した者の延べ人数

上記 (*1 および *2) 以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 1 3 - 1 異文化コミュニケーション学部 (平均値)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I 1 この授業に積極的に参加した	1, 106	4. 32	0. 75
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1 週間に) *	586	1. 54	2. 30
II 教員の授業改善に向けて			
II 1 各回の授業内容は明確だった	1, 109	4. 43	0. 77
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった	1, 104	4. 38	0. 83
III 学生が授業に期待するもの			
III 3 この授業を受けて満足した	1, 109	4. 43	0. 79

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2 の単位は「時間」

表 1 3 - 2 異文化コミュニケーション学部 (回答割合)

設 問 項 目	全有効回答者数	割合 ^{注2)}
	回答者数 ^{注1)}	
II 教員の授業改善に向けて	1, 112	
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1, 095 ^{*1}	98. 5%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	588	52. 9%
②板書 (電子媒体のものを含む)	213	19. 2%
③パワーポイント	535	48. 1%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	373	33. 5%
⑤シラバス	160	14. 4%
⑥上記にあてはまるものがない	92	8. 3%
II 4 II3 の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	259 ^{*2}	23. 3%
II 5 この授業で改善すべき点だと思った点がありますか【複数選択可】	956 ^{*1}	86. 0%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	128	11. 5%
②板書 (電子媒体のものを含む)	44	4. 0%
③パワーポイント	88	7. 9%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	41	3. 7%
⑤シラバス	23	2. 1%
⑥上記にあてはまるものがない	696	62. 6%
II 6 II5 の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	187 ^{*2}	16. 8%
III 学生が授業に期待するもの		
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	1, 108 ^{*1}	99. 6%
①自分にとって新しい考え方・発想	698	62. 8%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	731	65. 7%
③自分で調べ考える姿勢	304	27. 3%
④学問的興味	507	45. 6%
⑤上記にあてはまるものがない	23	2. 1%
III 2 III 1 以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	86 ^{*2}	7. 7%

注 1) 回答者数

*1 : 当該設問 (複数選択可) の項目に 1 つでも回答した者の延べ人数

*2 : 当該設問 (自由記述) に回答 (記述) した者の延べ人数

上記 (*1 および*2) 以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 1 4 - 1 グローバル・リベラルアーツ・プログラム (平均値)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I 1 この授業に積極的に参加した	120	4.18	0.85
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に) *	96	2.64	2.40
II 教員の授業改善に向けて			
II 1 各回の授業内容は明確だった	120	4.37	0.69
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった	120	4.21	0.88
III 学生が授業に期待するもの			
III 3 この授業を受けて満足した	120	4.23	0.84

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表 1 4 - 2 グローバル・リベラルアーツ・プログラム (回答割合)

設 問 項 目	全有効回答者数	120
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	120* ¹	100.0%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	46	38.3%
②板書 (電子媒体のものを含む)	32	26.7%
③パワーポイント	88	73.3%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	44	36.7%
⑤シラバス	28	23.3%
⑥上記にあてはまるものがない	9	7.5%
II 4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	32* ²	26.7%
II 5 この授業で改善すべき点だと思った点がありますか【複数選択可】	114* ¹	95.0%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	12	10.0%
②板書 (電子媒体のものを含む)	15	12.5%
③パワーポイント	16	13.3%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	6	5.0%
⑤シラバス	8	6.7%
⑥上記にあてはまるものがない	75	62.5%
II 6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	37* ²	30.8%
III 学生が授業に期待するもの		
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	120* ¹	100.0%
①自分にとって新しい考え方・発想	81	67.5%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	84	70.0%
③自分で調べ考える姿勢	58	48.3%
④学問的興味	60	50.0%
⑤上記にあてはまるものがない	3	2.5%
III 2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	21* ²	17.5%

注 1) 回答者数

*1:当該設問 (複数選択可) の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問 (自由記述) に回答 (記述) した者の延べ人数

上記 (*1 および*2) 以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 15-1 観光学部 (平均値)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	2,576	4.21	0.77
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に) *	1,468	1.04	2.15
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	2,582	4.27	0.80
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	2,577	4.15	0.90
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	2,590	4.23	0.86

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表 15-2 観光学部 (回答割合)

設 問 項 目	全有効回答者数	2,592
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	2,559 ^{*1}	98.7%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	1,437	55.4%
②板書 (電子媒体のものを含む)	365	14.1%
③パワーポイント	1,036	40.0%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	668	25.8%
⑤シラバス	147	5.7%
⑥上記にあてはまるものがない	180	6.9%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	467 ^{*2}	18.0%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	2,272 ^{*1}	87.7%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	443	17.1%
②板書 (電子媒体のものを含む)	195	7.5%
③パワーポイント	162	6.3%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	124	4.8%
⑤シラバス	72	2.8%
⑥上記にあてはまるものがない	1,476	56.9%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	388 ^{*2}	15.0%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	2,583 ^{*1}	99.7%
①自分にとって新しい考え方・発想	1,365	52.7%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1,589	61.3%
③自分で調べ考える姿勢	504	19.4%
④学問的興味	1,000	38.6%
⑤上記にあてはまるものがない	65	2.5%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	134 ^{*2}	5.2%

注1) 回答者数

*1:当該設問 (複数選択可) の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問 (自由記述) に回答 (記述) した者の延べ人数

上記 (*1 および *2) 以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 16-1 コミュニティ福祉学部 (平均値)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	3,733	4.28	0.76
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に) *	1,861	1.12	2.26
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	3,743	4.34	0.79
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	3,723	4.23	0.91
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	3,739	4.32	0.83

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表 16-2 コミュニティ福祉学部 (回答割合)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	3,697*1	98.5%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	2,291	61.0%
②板書 (電子媒体のものを含む)	432	11.5%
③パワーポイント	1,342	35.8%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	1,188	31.7%
⑤シラバス	193	5.1%
⑥上記にあてはまるものがない	253	6.7%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	663*2	17.7%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	3,192*1	85.1%
①配付資料 (授業のレジュメなど)	477	12.7%
②板書 (電子媒体のものを含む)	222	5.9%
③パワーポイント	219	5.8%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	131	3.5%
⑤シラバス	95	2.5%
⑥上記にあてはまるものがない	2,276	60.6%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	502*2	13.4%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	3,736*1	99.5%
①自分にとって新しい考え方・発想	2,130	56.8%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	2,381	63.4%
③自分で調べ考える姿勢	728	19.4%
④学問的興味	1,428	38.0%
⑤上記にあてはまるものがない	81	2.2%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	182*2	4.8%

注1) 回答者数

*1:当該設問 (複数選択可) の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問 (自由記述) に回答 (記述) した者の延べ人数

上記 (*1 および *2) 以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 17-1 現代心理学部 (平均値)

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	1,978	4.27	0.70
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1週間に) *	1,067	1.01	2.02
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	1,971	4.42	0.72
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	1,966	4.31	0.83
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	1,970	4.38	0.76
IV 学部等による設問			
IV1 この授業の受講者数は適切だった	1,979	4.32	0.75
IV2 この授業の設備・環境に満足している	1,977	4.33	0.79

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表 17-2 現代心理学部 (回答割合)

設 問 項 目	全有効回答者数 回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて	1,980	
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1,962 ^{*1}	99.1%
①配付資料 (授業のレジメなど)	1,129	57.0%
②板書 (電子媒体のものを含む)	224	11.3%
③パワーポイント	650	32.8%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	929	46.9%
⑤シラバス	111	5.6%
⑥上記にあてはまるものがない	118	6.0%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	347 ^{*2}	17.5%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	1,701 ^{*1}	85.9%
①配付資料 (授業のレジメなど)	284	14.3%
②板書 (電子媒体のものを含む)	99	5.0%
③パワーポイント	102	5.2%
④動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません)	69	3.5%
⑤シラバス	37	1.9%
⑥上記にあてはまるものがない	1,216	61.4%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	256 ^{*2}	12.9%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	1,971 ^{*1}	99.5%
①自分にとって新しい考え方・発想	1,220	61.6%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1,359	68.6%
③自分で調べ考える姿勢	316	16.0%
④学問的興味	961	48.5%
⑤上記にあてはまるものがない	25	1.3%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	64 ^{*2}	3.2%

注 1) 回答者数

*1: 当該設問 (複数選択可) の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2: 当該設問 (自由記述) に回答 (記述) した者の延べ人数

上記 (*1 および*2) 以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表18-1 全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	12,212	4.28	0.77
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	6,350	1.14	2.24
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	12,261	4.34	0.79
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	12,241	4.24	0.88
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	12,225	4.29	0.85
IV 学部等による設問			
IV1 この授業の教室の大きさは適切だった	12,241	4.14	1.02
IV2 この授業の受講者数は適切だった	12,227	4.18	0.86
IV3 この授業の行われた教室の環境や設備は十分だった（大きさの観点を除く）	12,237	4.24	0.87
IV4 【学びの精神のみ対象】この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた	4,500	4.29	0.86
IV5 【学びの精神のみ対象】この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた	4,503	4.06	0.95

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表18-2 全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目（回答割合）

全有効回答者数 12,307

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	12,178*1	99.0%
①配付資料（授業のレジュメなど）	6,708	54.5%
②板書（電子媒体のものを含む）	1,626	13.2%
③パワーポイント	5,055	41.1%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	4,066	33.0%
⑤シラバス	915	7.4%
⑥上記にあてはまるものがない	920	7.5%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	2,506*2	20.4%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	10,863*1	88.3%
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,878	15.3%
②板書（電子媒体のものを含む）	799	6.5%
③パワーポイント	814	6.6%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	454	3.7%
⑤シラバス	395	3.2%
⑥上記にあてはまるものがない	7,403	60.2%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	1,987*2	16.1%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	12,241*1	99.5%
①自分にとって新しい考え方・発想	7,665	62.3%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	6,411	52.1%
③自分で調べ考える姿勢	2,294	18.6%
④学問的興味	5,415	44.0%
⑤上記にあてはまるものがない	302	2.5%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	802*2	6.5%

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 19-1 全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	18,905	4.49	0.67
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	8,279	1.77	2.51
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	19,004	4.46	0.76
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	18,971	4.38	0.85
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	18,925	4.35	0.85
IV 学部等による設問			
IV1 宿題や課題は授業内容の理解を深めるのに役立った	18,983	4.30	0.82
IV2 宿題や課題へのフィードバック、質問に対しての対応が十分になされた	18,961	4.31	0.86
IV3 授業内での既習事項の確認・復習が十分になされた	18,940	4.28	0.84
IV5 その言語の学習を継続したいと思うようになった	19,004	4.17	0.93

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大にそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表 19-2 全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目（回答割合）

全有効回答者数 19,055

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	18,752 ^{*1}	98.4%
①配付資料（授業のレジュメなど）	6,766	35.5%
②板書（電子媒体のものを含む）	4,908	25.8%
③パワーポイント	7,116	37.3%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	3,687	19.3%
⑤シラバス	2,057	10.8%
⑥上記にあてはまるものがない	2,721	14.3%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	3,487 ^{*2}	18.3%
II5 この授業で改善すべき点だと思った点がありますか【複数選択可】	16,824 ^{*1}	88.3%
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,644	8.6%
②板書（電子媒体のものを含む）	1,268	6.7%
③パワーポイント	695	3.6%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	689	3.6%
⑤シラバス	595	3.1%
⑥上記にあてはまるものがない	13,006	68.3%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	2,150 ^{*2}	11.3%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	18,900 ^{*1}	99.2%
①自分にとって新しい考え方・発想	8,291	43.5%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	8,554	44.9%
③自分で調べ考える姿勢	7,418	38.9%
④学問的興味	4,891	25.7%
⑤上記にあてはまるものがない	1,123	5.9%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	1,567 ^{*2}	8.2%
IV 学部等による設問		
IV4 この授業を通して向上した能力はなんですか【複数選択可】	18,860 ^{*1}	99.0%
①読む力	8,509	44.7%
②書く力	8,277	43.4%
③聞く力	7,441	39.1%
④話す力	9,363	49.1%
⑤プレゼンテーションをする力	3,299	17.3%
⑥ディスカッションをする力	4,662	24.5%

注1) 回答者数

*1: 当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2: 当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 20-1 学校・社会教育講座（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	1,303	4.34	0.73
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	783	1.17	1.81
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	1,300	4.44	0.71
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	1,299	4.37	0.78
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	1,297	4.41	0.73

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表 20-2 学校・社会教育講座（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	1,304
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1,298*1	99.5%
①配付資料（授業のレジュメなど）	881	67.6%
②板書（電子媒体のものを含む）	189	14.5%
③パワーポイント	604	46.3%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	305	23.4%
⑤シラバス	65	5.0%
⑥上記にあてはまるものがない	75	5.8%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	290*2	22.2%
II5 この授業で改善すべき点だと思った点がありますか【複数選択可】	1,109*1	85.0%
①配付資料（授業のレジュメなど）	141	10.8%
②板書（電子媒体のものを含む）	56	4.3%
③パワーポイント	75	5.8%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	45	3.5%
⑤シラバス	29	2.2%
⑥上記にあてはまるものがない	827	63.4%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	203*2	15.6%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	1,297*1	99.5%
①自分にとって新しい考え方・発想	794	60.9%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	945	72.5%
③自分で調べ考える姿勢	287	22.0%
④学問的興味	470	36.0%
⑤上記にあてはまるものがない	27	2.1%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	102*2	7.8%

注 1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

2022 年度「学生による授業評価アンケート」報告書

2023 年 9 月発行

編集 立教大学 大学教育開発・支援センター

発行 立教大学 大学教育開発・支援センター

〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1

TEL 03-3985-4624 FAX 03-3985-4615

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe.html>

e-mail cdshe@rikkyo.ac.jp

